

# 武井峯岸Ⅴ遺跡

一般県道笠懸赤堀今井線社会資本総合整備事業に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

2019

群馬県桐生土木事務所  
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

# 武井峯岸Ⅴ遺跡

一般県道笠懸赤堀今井線社会資本総合整備事業に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

2019

群馬県桐生土木事務所  
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

# 序

群馬県は、未来に向けて大きく羽ばたいていくために、基本計画「はばたけ群馬・県土整備プラン」において、「もっと、県土に魅力を」を掲げて、群馬らしい魅力ある“まちづくり”を推進しています。一般県道笠懸赤堀今井線社会資本総合整備事業は、安全で円滑な通行と桐生市の活性化のために実施されています。

本書で報告します武井峯岸V遺跡は、考古学史に名高い武井遺跡に隣接する桐生市新里町野に所在しています。

発掘調査は、群馬県桐生土木事務所から受託して、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が平成28年度に実施しました。その結果、後期旧石器時代の石器集中部が2箇所、縄文時代の竪穴建物1棟、古墳時代の方形周溝墓1基など多種多様な遺構や遺物が発見されました。本遺跡で発見された石器群は、後期旧石器時代の前半期に帰属するもので、信州産の黒曜石を持ち込んでいることがわかりました。この度の成果は、地域史解明に寄与するものと考えております。

発掘調査から報告書の刊行に至るまで、桐生土木事務所、群馬県教育委員会および桐生市教育委員会をはじめとする関係機関や地元関係者の皆様には、多大なるご尽力を賜りました。本報告書を上梓するにあたり、衷心より感謝申し上げます。

平成31年1月





公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団  
理事長 中野三智男



# 例 言

1. 本書は、一般県道笠懸赤堀今井線社会資本総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査として平成28年に実施された「武井峯岸V遺跡」の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 遺跡の呼称および所在地  
武井峯岸V遺跡は、群馬県桐生市新里町野地内に所在する。  
地番は、597-1、598-2である。
3. 事業主体 群馬県桐生土木事務所
4. 調査主体 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
5. 発掘事業及び整理事業の期間  
(1)発掘事業  
平成28年度  
履行期間 平成28年11月1日～平成29年2月28日  
調査期間 平成28年12月1日～平成29年1月31日  
調査担当 関口博幸(主任調査研究員)、木津博明(専門調査役)  
調査面積 636㎡  
遺跡掘削工事請負 山下工業株式会社  
(2)整理事業  
履行期間 平成30年9月1日～平成31年3月31日  
整理期間 平成30年10月1日～平成30年11月30日  
整理担当 小原俊行
6. 本書作成の担当者は以下のとおりである。  
編集 小原俊行(専門員)  
本文執筆 第5章：別記黒曜石原産地分析委託、前記以外：小原俊行  
デジタル編集 齊田智彦(主任調査研究員・資料統括)  
遺構写真 発掘調査担当  
遺物写真 石器・石製品：津島秀章(資料2課長(総括))、縄文土器：石坂茂(専門調査役)、前記以外：小原俊行  
遺物観察 石器・石製品：津島秀章・小原俊行、縄文土器：石坂茂、須恵器・土師器：大西雅広(専門調査役)
7. 発掘調査および整理事業での委託は以下のとおりである。  
地上測量委託 技研コンサル株式会社  
黒曜石原産地分析委託 株式会社パレオ・ラボ 分析者：竹原弘展
8. 石材の同定は、飯島静男(群馬地質研究会)に依頼した。
9. 新里町現形図(1/2,500)No.20は、桐生市長の承認を得て、同市発行の2,500分の1現形図を複製したものである。
10. 発掘調査および報告書の作成にあたり、群馬県教育委員会事務局文化財保護課、桐生市教育委員会事務局のご指導とご助言を得た。
11. 発掘調査の記録資料と出土遺物は、群馬県埋蔵文化財調査センターで保管している。

# 凡 例

- 本書で使用した座標値および方位は、日本測地系、平面直角座標系第Ⅸ系を用いている。挿図中に示した方位は、座標北を示す。
- 等高線・遺構断面図等に記した数値は、海拔標高を示す。単位はメートルである。
- 遺構図・遺物図については原則下記の縮尺で掲載した。但し、遺構・遺物によってはこの限りではない。また、遺物写真の縮尺は、実測図と同一の縮尺を原則とした。  
遺構図： 全体図1/400、竪穴建物・方形周溝墓1/60、溝1/40、その他1/40  
遺物図： 土器・陶磁器1/3・1/2、石器・石製品4/5・1/1
- 遺物番号は、出土遺構ごとの通し番号とし、器種・分類順に記載した。但し、旧石器時代遺物については、発掘調査時の取上げ番号をそのまま用いている。
- 本書の遺構図に使用したスクリーン表現は、次のことを示す。  
遺構平面図 焼土  遺構断面図 攪乱   
石器実測図 節理面  微細剥離痕の範囲 
- 旧石器時代遺物の平面分布図の遺物記号は、次のことを示す。  
(器種別分布)  
◇…ナイフ形石器      ☆…台形様石器      △…微細剥離痕ある剥片      ▲…二次加工ある剥片  
■…石核      ●…剥片      ・…碎片      □…磨石      ▢…砥石      ■…礫  
(石材別分布)  
●…黒曜石      ●…黒色安山岩      ▲…黒色頁岩      ○…凝灰岩      ●…チャート  
■…粗粒輝石安山岩      ■…珪質頁岩      ▲…凝灰岩安山岩      ◆…砂岩
- 旧石器時代遺物の石材の略称は以下のとおりである。  
0b…黒曜石      BA…黒色安山岩      BS…黒色頁岩      Tu…凝灰岩      Ch…チャート  
Ss…珪質頁岩      粗安…粗粒輝石安山岩
- 遺構の計測は、全容が計測できない遺構について残存値( )で表記してある。
- 遺物観察表での表現および記載法は、以下のとおりである。  
・遺物観察表は遺構ごととした。  
・遺物計測位置の表現は、土器類は口径：口、底径：高台径：底、器高：高と略記し、他の遺物についても長さ：長、幅、厚さ：厚、高さ：高、外径：径、孔径：孔、重さ：重と略記した。  
・計測値の単位はcmとし、重量はgで表記している。また、欠損した遺物の計測値には、( )で現存値を記した。  
・旧石器時代遺物の剥片類のうち、最大長が1cm未満のものは「碎片」とした。
- 本書で使用した地図は、以下のとおりである。  
桐生市都市計画課発行 2千5百分の1新里町現形図No.20 経済企画庁・群馬県 1956『土地分類基本調査』前橋  
群馬県農政部土地改良課 1997『土地分類基本調査』桐生及足利  
国土地理院発行 2万5千分の1地形図「大胡」平成22年12月1日発行 同「大間々」平成8年7月1日発行  
同「桐生」平成21年4月1日発行 同「鼻毛石」平成14年9月1日発行

## 武井峯岸V遺跡 縄文土器の胎土分類

分類	特 徴
A	少量の円磨度の進んだ珪質乳白色・灰白色・赤色岩片や長石・石英・輝石の粗・細砂と繊維を含むやや粗雑な胎土。
B	多量の円磨度の進んだ結晶片岩礫・粗砂や少量の珪質乳白色・灰白色・赤色岩片と長石・角閃石・赤色岩片の粗・細砂および雲母細砂を含むやや緻密な胎土。
C	中量の円磨度の進んだ長石と少量の輝石や珪質灰白色・赤色・黒色岩片の粗・細砂および微量の雲母細砂を含む緻密な胎土。
D	少量の円磨度の進んだチャート・長石・石英・角閃石・輝石や珪質乳白色・赤色岩片の粗・細砂を含むやや粗雑な胎土。
E	少量の円磨度の進んだ輝石・長石・石英や珪質乳白色・灰白色・赤色岩片の粗・細砂を含むやや緻密な胎土。
F	中量の円磨度の進んだ輝石と少量の長石・石英や珪質乳白色・灰白色・赤色岩片の粗・細砂を含むやや緻密な胎土。
G	多量の円磨度の進んだ輝石・白色岩片と少量の長石・石英や珪質乳白色・赤色岩片の粗・細砂を含む緻密な胎土。
H	少量の円磨度の進んだ灰白色・珪質灰白色・赤色岩片や長石・輝石・角閃石・石英の粗・細砂を含む緻密な胎土。
I	中量の角閃石や少量の灰白色・珪質灰白色・赤色・黒色岩片と長石・石英の粗・細砂を含むやや緻密な胎土。
J	中量の円磨度の進んだ珪質乳白色岩片礫・粗砂や輝石粗・細砂と少量の石英礫・粗砂や長石・石英・赤色岩片の粗・細砂を含むやや粗雑な胎土。

※各分類はルーペ等を使用した肉眼観察による相対的なものである。

※夾雑物の粒径分類については「新版 標準土色帳」の「土壌調査用チャート」に準拠した。

# 目次

序

例言

凡例

目次

挿図目次

表目次

写真図版目次

第1章 発掘調査の概要	1
第1節 調査に至る経過	1
第2節 調査の経過	2
第3節 調査の方法	3
第4節 基本土層	3
第2章 地理的環境と歴史的環境	5
第1節 地理的環境	5
第2節 歴史的環境	6
第3章 下層(後期旧石器時代)の調査	15
第1節 出土した石器	15
第2節 石器の分布	17
第4章 上層(縄文時代・古墳時代)の調査	33
第1節 縄文時代	33
第2節 古墳時代	34
第3節 その他	34
第5章 自然科学分析	39
第6章 まとめ	43
第1節 下層(後期旧石器時代)の成果について	43
第2節 上層(縄文時代・古墳時代)の成果について	43

写真図版

報告書抄録

# 挿図目次

第1図	遺跡位置図 国土地理院平成22年12月1日発行1/25,000地形図「大胡」使用	1	第13図	石器集中部位置図	24
第2図	調査区位置図 桐生市都市計画課発行1/2,500新里町現形図No.20使用	2	第14図	1号石器集中部器種別分布図	25
第3図	基本土層図	4	第15図	1号石器集中部石材別分布図	26
第4図	周辺地形分類図	7	第16図	2号石器集中部器種別分布図	27・28
第5図	周辺遺跡位置図	10	第17図	2号石器集中部石材別分布図	29・30
第6図	調査区内旧トレンチ位置図	15	第18図	石器集中部外器種別分布図	31
第7図	旧石器時代出土遺物(1)	18	第19図	石器集中部外石材別分布図	31
第8図	旧石器時代出土遺物(2)	19	第20図	調査区全体図	33
第9図	旧石器時代出土遺物(3)	20	第21図	1号竪穴建物	35
第10図	旧石器時代出土遺物(4)	21	第22図	遺構外出土遺物	36
第11図	旧石器時代出土遺物(5)	22	第23図	1号方形周溝墓	37
第12図	旧石器時代出土遺物(6)	23	第24図	1号溝・2号溝・1号土坑	38
			第25図	黒曜石産地分布図(東日本)	39
			第26図	黒曜石産地推定判別図(1)	42
			第27図	黒曜石産地推定判別図(2)	42

# 表目次

第1表	周辺遺跡一覧表	11	第6表	1号方形周溝墓遺物観察表	37
第2表	石器組成表	17	第7表	分析対象一覧	39
第3表	旧石器時代遺物一覧表	32	第8表	東日本黒曜石産地の判別群	40
第4表	1号竪穴建物遺物観察表	34	第9表	測定値および産地推定結果	41
第5表	遺構外出土遺物観察表	36			

# 写真目次

PL. 1	1. 調査区調査前風景(東から)		3. 1号石器集中部出土状況(東から)	
	2. 調査区遠景(東から)		4. 1号石器集中部出土状況(北から)	
	3. 1号方形周溝墓全景(東から)		5. 2号石器集中部出土状況(東から)	
	4. 1号方形周溝墓遺物出土状況(東から)		6. 2号石器集中部出土状況(北東から)	
	5. 1号方形周溝墓遺物出土状況(北から)		PL. 5	1. 2号石器集中部出土状況(東から)
PL. 2	1. 1号竪穴建物全景(北西から)		2. 2号石器集中部出土状況(北から)	
	2. 1号竪穴建物全景(南東から)		3. 1号石器集中部No.55(南から)	
	3. 1号竪穴建物1号ピット全景(北から)		4. 1号石器集中部No.80(北から)	
	4. 1号竪穴建物2号ピット全景(西から)		5. 1号石器集中部No.75(北から)	
	5. 1号竪穴建物3号ピット全景(西から)		6. 1号石器集中部No.76(北から)	
	6. 1号溝全景(北東から)		7. 1号石器集中部No.78(北から)	
	7. 2号溝全景(北東から)		8. 1号石器集中部No.77(北から)	
	8. 1号土坑全景(南から)		PL. 6	旧石器出土遺物(1)
PL. 3	1. 旧石器調査区全景(東から)		PL. 7	旧石器出土遺物(2)
	2. 旧石器調査区完掘状況(西から)		PL. 8	旧石器出土遺物(3)
PL. 4	1. 旧石器調査区全景(西から)		PL. 9	旧石器(4)、1号・2号竪穴建物、遺構外、1号方形周溝墓出土遺物
	2. 旧石器調査区基本土層(北から)			



# 第1章 発掘調査の概要

## 第1節 調査に至る経過

武井峯岸V遺跡は、桐生市新里町野に所在する遺跡である。本遺跡は平成28年12月から平成29年1月までの期間に、一般県道笠懸赤堀今井線社会資本総合整備事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査が実施されている。本書はその埋蔵文化財発掘調査報告書である。

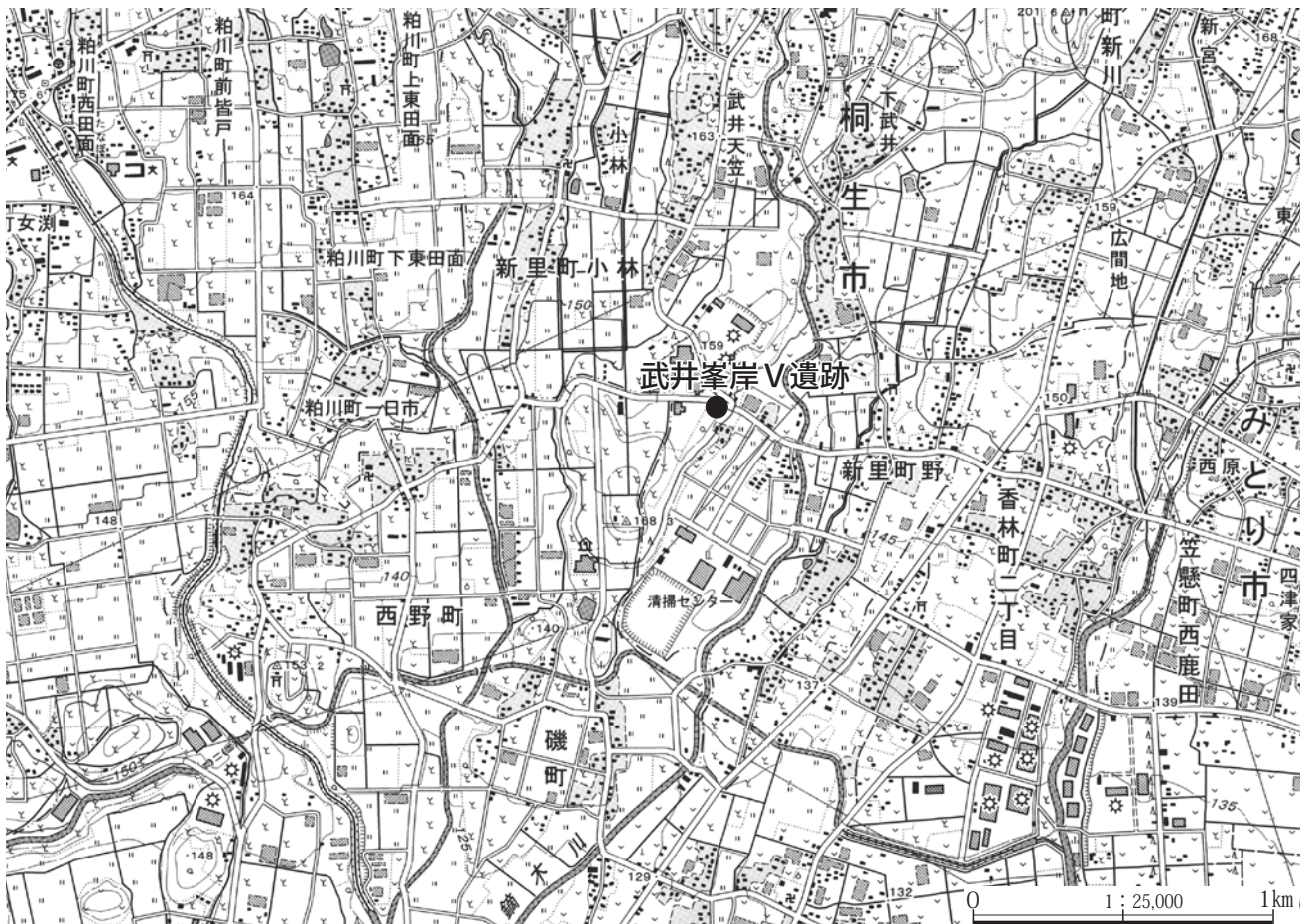
一般県道笠懸赤堀今井線社会資本総合整備事業を進めるにあたり、群馬県桐生土木事務所(以下、「桐生土木」と表記)は、群馬県知事部局県土整備部建設企画課をとおして、群馬県教育委員会事務局文化財保護課(以下、「保護課」と表記)に照会した。これを受けた保護課は、当該事業地が周知の埋蔵文化財包蔵地である小林08号墳・小林09号墳・小林10号墳・武井-01遺跡(桐生市遺跡番号B0288・B0289・B0290・B0176)内にあることから、確認

調査の必要がある旨の回答をした。そのため、桐生土木は保護課に、当該事業地における確認調査の実施を依頼した。

保護課による確認調査は平成28年1月25日・26日と7月21日・22日の期間、計2回行われた。いずれも、バックホウを用いてトレンチ状に掘削し、平断面から遺構の存在、種類、検出数を確認する方法を用いた。

その結果、確認調査対象地のうち、事業地東側は本調査が必要、事業地中央部は本調査が不要、西側は慎重工事による対応が適切であると判断された。

この確認調査の結果を基に、保護課は桐生土木に対して、確認調査の依頼範囲の一部では、事業を実施するにあたり埋蔵文化財の発掘調査が必要である旨を通知した。また、地元の桐生市教育委員会に対しても、確認調査の結果を報告した。



第1図 遺跡位置図 国土地理院平成22年12月1日発行1/25,000地形図「大胡」使用

## 第1章 発掘調査の概要

本調査が必要な範囲は、既に周知の埋蔵文化財包蔵地として「武井-01遺跡」の名称がある。しかし、桐生市教育委員会と保護課との協議の結果、本調査の範囲の遺跡名は「武井峯岸V遺跡」として発掘調査を実施することとなった。

## 第2節 調査の経過

武井峯岸V遺跡における発掘調査は、桐生土木から委託を受けて実施した。

発掘調査期間は平成28年12月から平成29年1月の計2か月間、636㎡行われた。

当初の計画では、調査期間は平成28年12月の1か月間の予定であった。しかし、旧石器時代の試掘調査を行った結果、ローム層中から石器が検出されたことから、桐生土木と保護課の協議のもと、平成29年1月に旧石器時代の発掘調査を実施することとなった。なお、調査区南側の幅約2m×長さ100mの範囲については法面工法に

より、旧石器時代遺物包含層まで工事掘削深度が達しないことから、保護課の調整によって本調査の範囲から除外することとなった。

これらの調査成果は、桐生土木からの委託のもと、平成30年10月から11月までの期間に整理を実施して本書にまとめた。

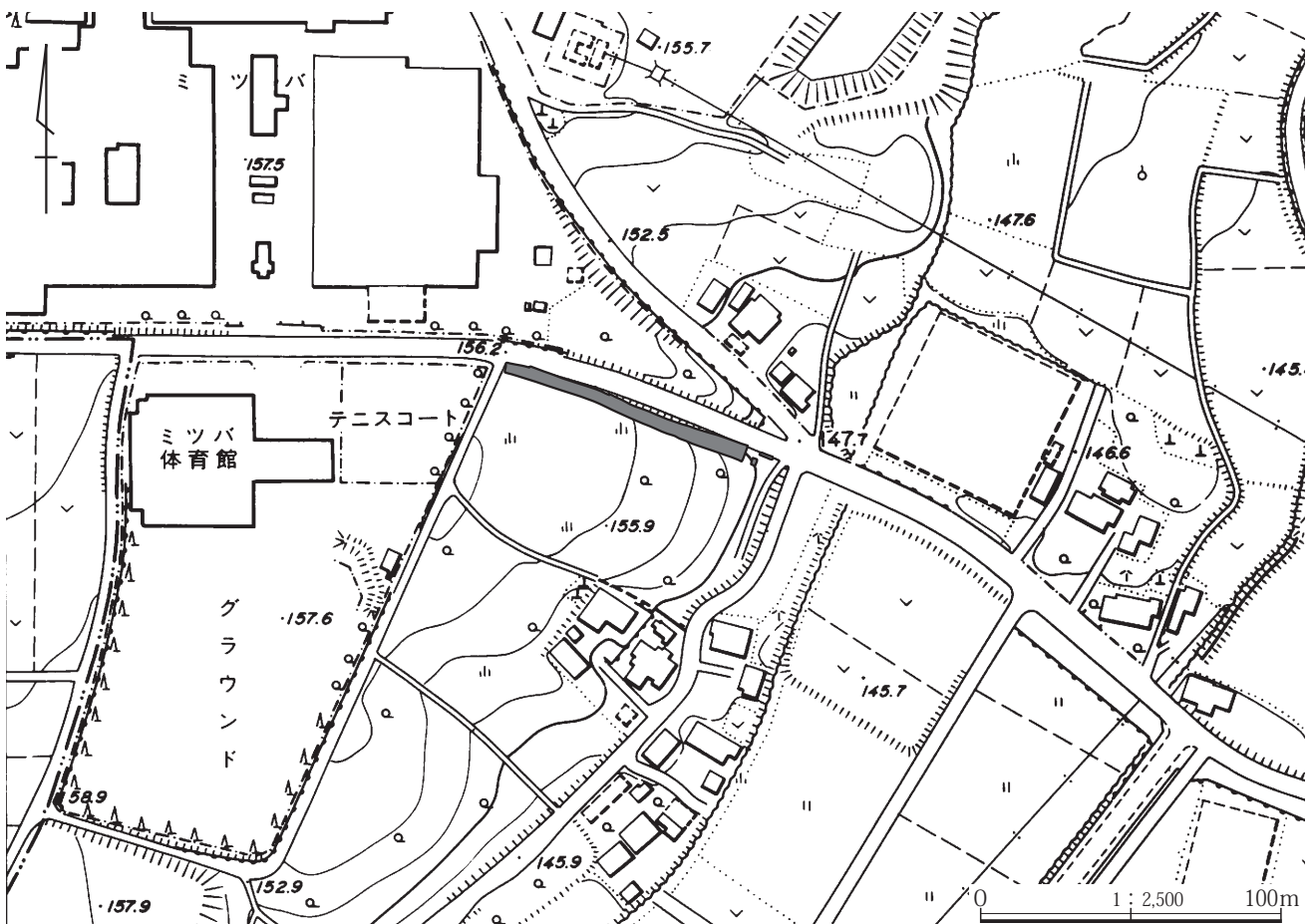
なお、発掘調査段階では、後述する基本土層X層～XI層を中心に、径2～5cm程度の大きさの粗粒輝石安山岩の円礫やチャートの角礫などが取り上げられている。しかし、第2章で言及する地質的環境と、実物の観察、平面・垂直分布状況から、これらは人為的に運搬・加工等を受けたものではない自然礫である可能性が高いと判断して、報告から除外している。

### 発掘調査日誌抄録

平成28年

12月1日 調査区内環境整備、表土掘削開始

2日 方形周溝墓掘り下げ着手、トレンチ全景写真



第2図 調査区位置図 桐生市都市計画課発行1/2,500新里町現形図No.20使用

- 5日 方形周溝墓全景写真、旧石器試掘調査開始  
 20日 旧石器試掘調査継続、遺物取り上げ  
 23日 旧石器試掘調査継続

平成29年

- 1月10日 旧石器調査再開  
 18日 石器ブロック別、全景写真撮影  
 19日 石器取り上げ  
 24日 旧石器調査完了  
 26日 調査区埋戻し

## 第3節 調査の方法

### 1 調査区の設定

武井峯岸V遺跡の調査区内において、グリッドの設定は行わず、世界測地系による平面直角座標系(平成十四年国土交通省告示第九号)IX系に基づき、東経139度50分、北緯36度0分を原点として、1m四方の区画を1単位として区画を設定している。本報告書での呼称は、座標数値の下3桁で表記している。

なお、武井峯岸V遺跡はX=45,000m~45,040m、Y=53,520m~53,640mの範囲内にある。

### 2 調査面の設定

本遺跡ではローム層直上を第1面として調査を進め、縄文時代から古墳時代の遺構の検出を行った。また、ローム層中から検出された石器は、第2面目(旧石器時代調査)として調査を進めた。

### 3 発掘調査の方法

発掘調査はバックホウによる表土掘削の後、作業員による鋤簾等での遺構検出、精査作業という手順で進めた。

遺構の平断面測量は、原則として1/10、1/20、1/40、1/100のスケールを遺構種類ごとに選択し、測量業務は委託業者が行った。

記録写真撮影はデジタル一眼レフカメラと6×7の中判フィルムカメラを使用した。

なお、出土遺物への注記において、遺跡名は「TMV」と略した。

## 第4節 基本土層

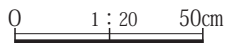
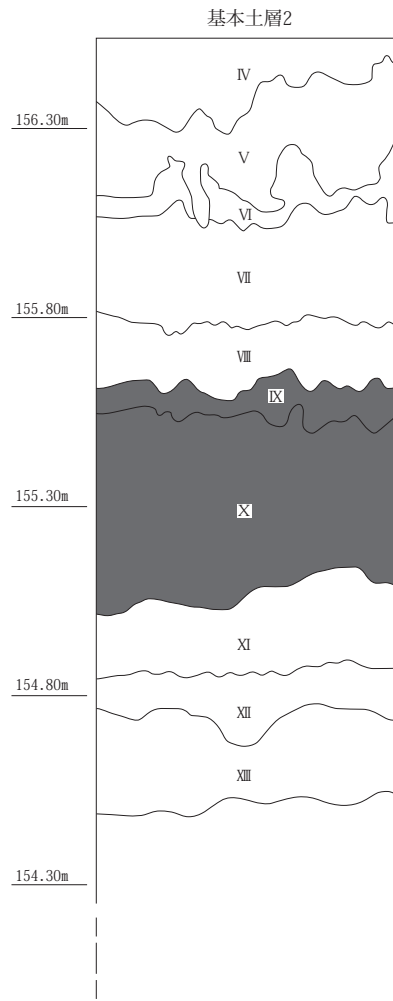
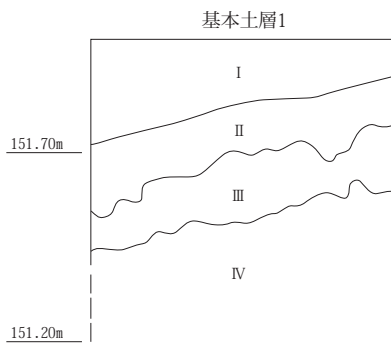
- I層 表土  
 II層 Hue10YR1.7/1 黒色土 細粒の軽石を含む。  
 III層 Hue10YR1.7/1 黒色土 細粒の軽石を含まない。  
 IV層 Hue7.5YR3/4 暗褐色土 漸移層。淡色黒ボク土。縄包含層に相当する  
 V層 Hue7.5YR5/6 明褐色ローム ソフトローム。VI層との境界は不整合、凹凸が著しい。テフラは確認できない。  
 VI層 Hue7.5YR5/8 明褐色ローム ハードローム。浅間板鼻黄色軽石(As-YP)と考えられる浅黄橙色(Hue7.5YR8/4)粒径2~5mmのテフラを含む。その下限を境界としてVII層と分層。  
 VII層 Hue7.5YR5/8 明褐色ローム ハードローム。色調、土質はVII層と同じ。粒径1mmの白色のテフラ(灰白色Hue7.5YR8/1)を全体的に含む。浅間大窪沢1軽石(As-0k1)の可能性が高い。また、粒径2~5mmの浅黄橙色のテフラも含む。浅間白糸軽石(As-Sr)の可能性あり。As-0k1の下限を境界としてVIII層と分層。  
 VIII層 Hue7.5YR5/6 明褐色ローム ハードローム。色調はVII層よりやや暗色。浅間板鼻褐色軽石群(As-BP Group)をブロック状(色調はオレンジ色、灰色)に含む。ブロックは固く締まっている。本層準より石器が出土しはじめる。  
 IX層 Hue7.5YR4/6 褐色ローム 軟質。粘性のあるローム。色調の違いでIX層とX層とを分層した。IX層の下部はやや灰褐色を帯びる。IX層からX層の上部にかけて始良Tn火山灰(AT)が含有されると考えられるが、肉眼では判別できない。  
 X層 Hue7.5YR4/2 灰褐色ローム 軟質。粘性の強いローム。IX層よりも暗色。暗色帯に相当する。通常の旧石器時代の遺跡では暗色帯の色調はHue7.5YR3/3程度まで暗色になるが、本調査区では明るい。石器の出土量は本層準の上部にピークがある。  
 XI層 Hue7.5YR5/4 にぶい褐色ローム 粘質ローム。X層よりも黄色度がある。X層の下部から本層の

第1章 発掘調査の概要

上部にかけて榛名箱田テフラ(Hr-HA)の堆積が想定できるが、肉眼で確認できない。

XII層 Hue10YR7/8 黄橙色軽石層。榛名八崎軽石(Hr-HP)の一次堆積層。粒径2~10mmの黄橙色の軽石を主体とし、わずかにオレンジ色の軽石を含む。軽石自体はつぶれて、土壌化が進行している。

XIII層 Hue7.5YR5/4 灰褐色ローム 粘質ローム。固く締まっている。色調はチョコレート色に近く、「チョコ帯」と呼ばれるロームと同じと考えられる。粒径1~3mmの黒褐色粒子(Hue7.5YR3/1)を全体に含む。この粒子は鉄分の作用により形成されたと考えられる。



第3図 基本土層図(土層の観察位置は第6図および第20図を参照)

## 第2章 地理的環境と歴史的環境

### 第1節 地理的環境

武井峯岸V遺跡は群馬県の東部、桐生市新里町のうち、清掃センターから北500mほどの場所に所在する。地理的に概観すると、関東平野北西域の赤城山南麓に立地する(第4図)。遺跡の南東側には広大な大間々扇状地が広がり、更にその東側は鹿田山や八王子丘陵、渡良瀬川扇状地、足尾山地へと続いている。

本節では武井峯岸V遺跡周辺の地質的・地形的環境について、それぞれ言及する。

#### (1)地質的環境

赤城山南麓の地域では古生代から中生代の地層である秩父中・古生層が分布する。秩父中・古生層はチャート、粘板岩の層で主に構成され、石灰岩や玄武岩を含んでいる。分布範囲は渡良瀬川左岸の足尾山地の南半部に広く及んでいる(木崎 1985、飯島 1987)。また、渡良瀬川右岸においても、秩父中・古生層は僅かながらに分布しており、金山流紋岩類(高橋・田島・木崎 1976)や新第三紀の地層である藪塚累層などと共に、鹿田山や八王子丘陵、金山といった丘陵地形を列状に形成している。

秩父中・古生層の分布は赤城山の下部にまで及んでおり、赤城山東半部の基盤を構成する(丸山 1958)。また、ボーリング調査による結果(群馬県企業局 1999)や、赤城山中の放射谷の谷底にみられる露頭から(小野寺 1950、群馬県企業局 前掲、津島 2008)、赤城山内部は標高約1,000mに及ぶ高さまで秩父中・古生層で構成されていることが判明している(守屋 1968)。

赤城山の地形発達史は古期成層火山形成期、新規成層火山形成期、中央火口形成期と、主に3つの時期に区分されている(守屋 1968・1970)。これらの赤城山の各発達時期では、両輝石安山岩や紫蘇輝石角閃石石英安山岩などの各種安山岩が熔岩流から生成されており(守屋 1968)、赤城山の裾野を覆っている。

このように、赤城山は秩父中・古生層を基盤として、噴火活動に伴う熔岩流や泥石流堆積物などによって形成さ

れている。中央火口形成期以降、赤城山南麓においては、山体斜面が崩落と浸食を繰り返したことで、白川扇状地や荒砥川扇状地、粕川扇状地といった各扇状地が発達することとなった(守屋 前掲、小菅 2014)。しかし、このような山体への浸食作用は、扇状地形を形成する河川だけでなく、カスリーン台風で生じた土石流のように、山体全体で起きていた可能性がある(小野寺 前掲、小菅 前掲)。

赤城山南麓では暗色帯以下の地層からチャートの小礫、粗粒輝石安山岩の礫が出土することが多い。この現象は上記のような赤城山における地質的環境と地形発達史が影響していると考えられる(小菅 2014・2015)。

#### (2)地形的環境

武井峯岸V遺跡は粕川の支流の1つである鑄木川の右岸に立地する。この周辺地域には平坦な裾野の傾斜面や、大間々扇状地の地形とは異なる丘陵地形が発達している。

約20~30万年前の古期成層火山形成期の赤城山が山体崩落を起こした際、これを起因とする岩屑なだれが発生している。この岩屑なだれは梨木泥流と呼称される(守屋 1968)。梨子木泥流堆積物によって形成された流れ山が、本地域の丘陵地形の形成要因として考えられている(守屋 前掲、新井 1971)。

赤城山南麓には土地改良等で消滅したものも含めると、大小41個の流れ山が存在しており、多田山丘陵や権現山、遺跡の北側に所在する寄居山なども該当する(澤口2013)。武井峯岸V遺跡もこのような流れ山の1つである峯岸山に立地している。

峯岸山は東西の両側を河川によって開析された、南北に細長く伸びる丘陵である。峯岸山は1つの丘陵として捉えられているが、比高24mと28mと2つのピークを有することから、2つの流れ山が接続して1つの丘陵を形成したと考えられている(澤口 前掲)。また、丘陵の北東側には、平坦な台地および浅皿を被せたような比高の小さい丘が波状微高地を形成している。これは流れ山と

呼べるほどの丘陵を形成しなかった、梨木泥流堆積物の堆積面である、流れ山台地であると推定される(澤口 前掲)。

武井峯岸V遺跡は峯岸山の中でも、北東側の流れ山台地上に立地している。特に今回の調査では台地の縁辺部が対象となった。調査区内の標高は西端部で約157m、東端部で約148mである。そのため、今回の発掘は遺跡内でも比高差9mの西から東へ向かって傾斜する、峯岸山から延びる台地の斜面部を調査したこととなる。

## 第2節 歴史的環境

桐生市新里町内は土地改良事業等によって多くの遺跡が発掘調査されている(第5図)。そのため、武井峯岸V遺跡の周辺においても、旧石器時代から近世の遺跡が多数発見されている。本節では、その中でも本報告での遺構・遺物の内容に該当する、後期旧石器時代前半期、縄文時代前期、古墳時代前期の遺跡について主に言及する。

### 【後期旧石器時代】

本遺跡が立地する大間々扇状地とその周辺地域には、旧石器時代研究の嚆矢となった岩宿遺跡(146)をはじめ、後期旧石器時代の遺跡が数多く存在する。

武井峯岸V遺跡が立地する峯岸山と周辺地域には、後期旧石器時代の遺物が複数時期に及んで確認されている。最も代表的なのは、本遺跡から北に500m向かった寄居山の西側に立地する武井遺跡(2)である。武井遺跡では概ね4つの時期の石器群が検出されている(加部 1998)。そのうち、旧石器時代前半期、AT下位から出土した石器群としては、武井I石器文化(杉原 1977)、I期石器群(加部 前掲)が該当する。I期石器群では黒曜石や黒色安山岩製の石刃を素材としたナイフ形石器、凝灰岩やホルンフェルス製の石斧・局部磨製石斧などが検出されている(加部 前掲)。また、石器集中部とは分布を違えるように礫群も検出されており、これらの石器集中部と礫群によって「環状ブロック群」と呼称される特異な分布が構成されていた(加部 前掲、加部・小菅 1995)。

峯岸山の南面に位置する峯岸山遺跡V(12)では、AT下、As-BP Group層中、As-SP層中という複数時期から石器群が検出されている。特にAT下の文化層からは、ホルンフェ

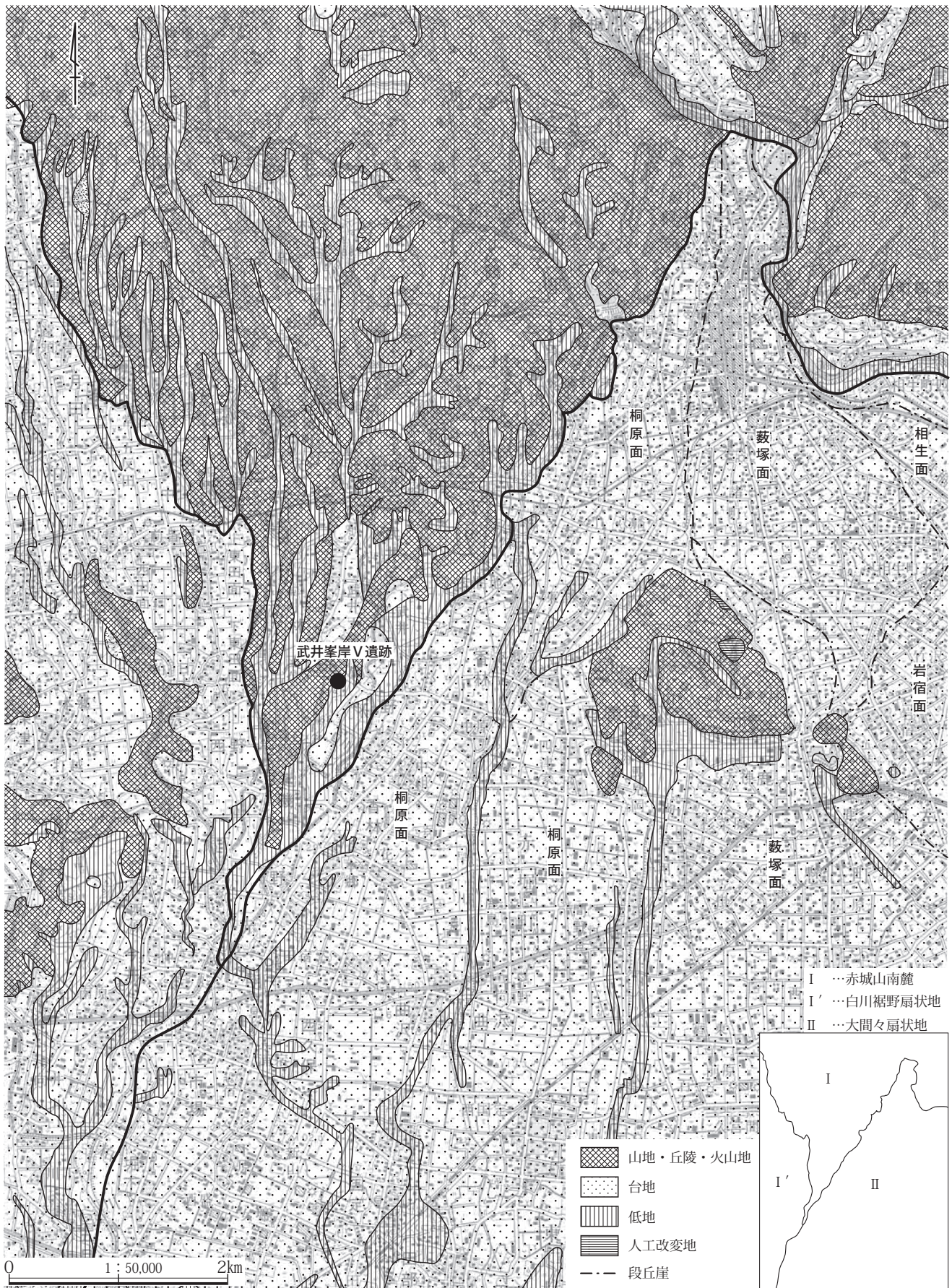
ルスやチャート、黒色頁岩製の石刃を素材としたナイフ形石器などが検出されている。峯岸山の東突出部分に位置する十二所遺跡(10)でも、暗色帯の上部からチャートや黒曜石製の剥片などが出土している。また、峯岸山の東側と大間々扇状地台地面との変換点に位置する十二社遺跡(9)においては、峯岸山遺跡Vと同様にAT下、As-BPG層中、As-SP層中という複数時期の石器が検出されている。特に、暗色帯中からはナイフ形石器、台形様石器、局部磨製石斧などの各種石器が400点ほど検出されると共に、これらの石器分布は環状ブロック群を構成しているとされる。

峯岸山以外の周辺地域でも、土地改良事業等によって後期旧石器時代前半期の遺跡が数多く検出されている。清水遺跡第2地点(130)では、暗色帯を中心に、黒曜石製のナイフ形石器や石刃が出土している。また、山内出B遺跡(55)では暗色帯を中心に、信州系と推定される黒曜石製の台形様石器などが検出されている。和田遺跡(88)では、暗色帯中からはナイフ形石器や台形様石器などの各種石器が検出されている。神社裏遺跡(84)では暗色帯中からチャートと黒色安山岩の石器石材を中心として、ナイフ形石器などが出土している。山上城跡IX(93)においても、暗色帯中からいわゆる「ペン先形ナイフ形石器」とされる台形様石器や局部磨製石斧が出土している。

### 【縄文時代】

赤城山南麓の縄文時代遺跡は、前期に遺跡数が急増する傾向にあり、特に黒浜・諸磯a期にそのピークを迎えることが知られている(鬼形 1985)。桐生市新里町内でも同様の傾向を示し、相前後する早・中期では標高200~300mに遺跡が偏在する傾向にあるのに対し、前期では標高とは関係なく遺跡数が急激に増加する(石坂・原 1984)。しかし、これらの遺跡の圧倒的多数は、全体的に単一時期の土器型式が少数散布するような、小規模なものである(石坂・原 前掲)。

武井峯岸V遺跡周辺の縄文時代前期の遺跡のうち、武井城遺跡(36)、武井峯遺跡(40)、十三塚E遺跡(104)、久保井D遺跡(42)、下鶴ヶ谷B遺跡(100)、前畑J遺跡(6)、清水山遺跡(135)などで発掘調査が実施されている。そのうち、十三塚E遺跡で諸磯期の竪穴建物が2棟、



第4図 周辺地形分類図(経済企画庁・群馬県 1956『土地分類基本調査』前橋と群馬県農政部土地改良課 1997『土地分類基本調査』桐生及足利の付図を合成)

清水山遺跡で諸磯 a 期を中心に竪穴建物が 5 棟検出されている。前畑 J 遺跡においても、諸磯式土器を伴う竪穴建物が複数棟検出されているほか、竪穴状遺構内から浮島式土器が完形で出土している。また、武井城遺跡では諸磯 b 式を中心とした土器片や土製品、石製品が集中して多量に出土している。

峯岸山周辺で限ってみると、十二社遺跡(9)と、峯岸山遺跡(25)、峯岸山遺跡 V(12)、峯岸山古墳群(13)、田場 I 遺跡(23)、天幕城遺跡(11)から縄文時代の遺構が検出されている。峯岸山周辺の遺跡では前期に属する遺構の検出は報告されていないものの、峯岸山遺跡において前期の土器片が一定量検出されている。これらは花積下層、関山、黒浜式に比定され得る含繊維土器や、繊維を含まない諸磯式土器が中心となっている。

#### 【古墳時代】

桐生市新里町内では、古墳時代後期から居住域と墓域の分布が拡大していく傾向にある(能登・小島 1984、鹿田 1984)。しかし、峯岸山周辺においては、弥生時代中期から古墳時代前期と、周辺と比較して早い時期から居住域と墓域が形成される。

まず、武井峯岸 V 遺跡から 100m ほど北には、峯岸山遺跡(25)と峯岸遺跡(2)が位置する。峯岸山遺跡と峯岸遺跡では、弥生時代中期から古墳時代前期の竪穴建物が複数棟検出されている。これらの竪穴建物群の分布と地形から、峯岸山遺跡と峯岸遺跡は古墳時代前期まで集落域として土地利用されており、丘陵の西側の沖積地が生産域として用いられていたと想定される(能登・内田 1985)。

峯岸山の丘陵上は古墳時代前期以降、主に墓域として用いられるようになる(能登・内田 前掲)。峯岸遺跡では、遺跡の南側を中心に、古墳時代前・中期の遺構が検出されている。そのうち、墓域を形成するものとして、円墳の他、方形周溝墓や石槨墓が複数基検出されている。特に方形周溝墓は 5 基検出されており、これらの殆どは周溝も含めて一辺 5～10m 前後の規模を呈する。また、峯岸山遺跡では古墳時代前期の方形周溝墓が 2 基検出されている。これらの方形周溝墓はそれぞれ、6m 前後、15m 前後の規模で隅丸方形である。加えて、特殊な遺構として、竪穴状の掘方の中に土壇墓と推定される土坑を複

数基内包する土坑群が検出されている。

また、武井峯岸 V 遺跡自体も小林 5 号～15 号墳(25)の古墳群の只中に立地する。これらの古墳は未調査であり、残存状態は良くないものの、多くは直径 10～18m ほどの円墳であるとされる(新里村教育委員会 1984)。その中でも直径約 30m に及ぶ小林 15 号墳(25)では、墳丘から円筒埴輪片が採取されている。

丘陵の反対側に位置する西側には、峯岸山古墳群(13)と小林峯岸遺跡(19)が位置する。峯岸山古墳群では 30 基の古墳が発掘調査されている。これらの古墳群の築造の開始時期は 5 世紀後半であるが、そのピークは 6 世紀後半から 7 世紀前半であったことが判明している。また、峯岸山北端部に立地する小林峯岸遺跡においても、峯岸山古墳群と連続するかたちで古墳時代前期から中期の古墳が検出されている。前述した小林 5 号～15 号墳などの、峯岸山の北東側に点在する古墳群は、峯岸山古墳群と同時期であると推測されている(鹿田 1984)。

また、これらの古墳群の他に、峯岸山の南側には伊勢崎市指定史跡である十二所古墳(10)が存在する。十二所古墳は全長約 48m の前方後円墳であり、上記の古墳群の中でも最大規模をもつ。昭和初期に後円部墳頂が調査されたものの、築造年代等については不明とされている。

峯岸山周辺に展開する居住域としては、十二所遺跡(10)と十二社遺跡(9)、日横遺跡(20)が挙げられる。

十二所遺跡は峯岸山南東側の台地上に立地しており、古墳時代後期、6 世紀後半の竪穴建物が 1 棟検出されている。また、十二所遺跡に隣接する十二社遺跡では古墳時代の竪穴建物が 600 棟ほど検出している(加部 2010)。

日横遺跡は峯岸山の北西側に位置する台地上に立地しており、竪穴建物 572 棟、古墳 3 基などが検出されている。竪穴建物の多くが 5 世紀終末から 7 世紀初頭のものであることから、日横遺跡は古墳時代後期～終末期に至る居住域であったと推測される。

峯岸山丘陵と周辺地域での従前までの発掘調査成果を概観すると、弥生時代中期から古墳時代前期までの期間、峯岸山の丘陵上に居住域が展開していたことがわかる。それと並行して、古墳時代前期から丘陵上は墓域として用いられ始め、古墳時代後期には墓域が主な利用に移り変わっている。それと対応して、居住域は丘陵周辺の台地上に展開するようになる。このことから、峯岸山とそ



の周辺地域では、時期が下るにつれて土地利用域の範囲が拡大すると共に、土地利用の機能が分化する傾向にあるといえる。

その他、周辺地域にける古墳時代前期の遺跡としては、大屋G・H遺跡(68)において当該期の豪族居館跡と考えられる遺構や遺物が検出されている。

#### 引用文献

- 新井房夫 1971 「地形と地質」『前橋市史』
- 青木幹雄 1974 「地質と地形」『新里村誌』 pp27-43 新里村誌編纂委員会
- 飯島静男 1987 「群馬県の地質」『群馬県植物誌(改訂版)』 pp1-15 群馬県植物誌編集委員会
- 石坂茂・原雅信 1984 「縄文時代の遺跡分布」『新里村の遺跡』 pp14-20 新里村教育委員会
- 鬼形芳夫 1985 「赤城山麓における縄文文化の展開」『群馬県史研究』 pp6-38 群馬県史編さん委員会
- 小野寺透 1950 「赤城火山の崩落に関する地質学的研究」『カスリン颱風の研究—利根川水系における災害の実相—』 pp139-162 群馬県災害対策特別委員会
- 加部二生 1998 「武井遺跡の調査概要—新里村教育委員会の調査を中心として—」『武井遺跡と北関東の槍先形石器文化 予稿集』 pp19-26 岩宿フォーラム実行委員会
- 加部二生・小菅将夫 1995 「武井遺跡」『第2回石器文化研究交流会』 pp4-10 石器文化研究会
- 木崎喜雄 1985 「群馬県の地形と地質」『群馬県動物誌』 pp1-9 群馬県
- 加部二生 2010 「古墳時代の遺跡」『新里地区遺跡群発掘調査報告1』 pp3-4 桐生市教育委員会
- 河井興三・山田博 1960 「群馬県太田・大間々地域の第三系と後期中新世における関東西北部の古地理について」『石油技術協会誌』 25-2 pp10-18 石油技術協会
- 群馬県企業局 1999 『赤城山頂カルデラ内南縁の地質並びに温泉調査』
- 小菅将夫 2013 「武井遺跡群と周辺の地形発達史を考える(2)」『概報 武井遺跡群Ⅲ』 pp30-31 武井遺跡群調査団
- 小菅将夫 2014 「武井遺跡群と周辺の地形発達史を考える(3)—赤城火山の地形発達史と武井遺跡—」『概報 武井遺跡群Ⅳ』 pp34-35 武井遺跡群調査団
- 澤口宏 2013 「桐生・伊勢崎・前橋周辺の流れ山」『良好な自然環境を有する地域学術調査報告書』 38号 pp79-94 群馬県環境森林部自然環境課
- 鹿田雄三 1984 「古墳の分布」『新里村の遺跡』 pp38-41 新里村教育委員会
- 杉原荘介 1977 『群馬県武井における二つの石器文化』臨川書店
- 須藤定久・田島順子・木崎喜雄 1976 「群馬県太田～大間々地域の第三紀火砕岩類」『地率學論集』 13 pp241-249 日本地質学会
- 早田勉 1990 「第一章 群馬県の自然と風土」『群馬県史通史編1』 pp37-130 群馬県史編さん委員会
- 津島秀章 2008 「チャートをめぐる石材環境—赤城山南麓地域のチャート露頭」『研究紀要』 26 pp119-130 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 新里村教育委員会 1984 『新里の遺跡表』
- 能登健・内田憲治 1985 「里棲み集落の発掘調査」『峯岸遺跡—里棲み集落の発掘調査—』 pp63-71 新里村教育委員会
- 能登健・小島敦子 1984 「弥生から平安時代の遺跡分布」『新里村の遺跡』 pp26-33 新里村教育委員会
- 丸山清康 1958 「赤城山」『勢多郡誌』 pp45-121 勢多郡
- 守屋以智雄 1968 『赤城火山の地形及び地質』前橋営林局
- 守屋以智雄 1970 「赤城火山の地形学図及び地質図に関する考察」『地図』 8-1 pp1-9 日本国際地図学会



第5図 周辺遺跡位置図(国土地理院1/25,000地形図「桐生」平成21年4月1日発行、同「大間々」平成8年7月1日発行、同「大胡」平成22年12月1日発行、同「鼻毛石」平成14年9月1日発行を使用)

第1表 周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	文献No.
1	武井峯岸V									本報告
1	小林8号墳				●					86
1	小林10号墳				●					86
1	小林11号墳				●					86
1	小林12号墳				●					86
2	武井の砦							●		56
2	武井	●								14,16,17,18,64,71~75
2	峯岸(武井遺跡峯岸地区を含む)	●		●	●	●	●			14,34,59,88
2	武井内出東(武井遺跡内出東地区を含む)	●			●	●	●			16,38,52
3	観音寺古墳				●					87
3	観音寺	●	●		●	●	●	●	●	50
4	蛭川	●	●	●	●	●	●	●		41,53
4	蛭川II		●		●					49
5	東畑A		●		●				●	50
6	前畑B				●	●	●			51
6	前畑C				●	●	●	●		51
6	前畑D				●	●	●			51
6	前畑F		●	●	●	●	●	●		49
6	前畑J		●		●	●	●	●	●	61
7	西久保		●		●					53
8	南原	●	●		●		●			87
9	十二社横穴古墳				●					87
9	十二社	●	●		●					39,40,46
10	十二所(磯十二所遺跡を含む)	●	●		●					6
10	十二所古墳				●					10
11	天幕城		●		●			●		9,10,56
12	峯岸山遺跡V	●	●					●		70
13	峯岸山古墳群	●	●		●					4,5,7,15
14	小林一本木				●					52
15	蔵沢					●	●			52
16	前橋市0912(関後百々目木)		●				●			31
17	前橋市0692(堤頭、一日市宿後)			●	●		●	●	●	31,32,96
18	前橋市0890(一日市城)							●		56,110
19	小林峯岸		●		●					52
20	日横		●		●	●	●	●		52
21	小林前田					●	●			52
22	日横A					●	●	●		51
23	田場I	●			●	●	●	●	●	46
23	田和	●								94
24	内出II					●	●	●		45
24	内出III				●	●	●	●		48
24	内出IV	●			●	●	●	●	●	54
25	小林5号墳				●					86
25	小林6号墳				●					86
25	小林7号墳				●					86
25	小林13号墳				●					86
25	小林14号墳				●					86
25	小林15号墳				●					86
25	新里23号墳				●					11
25	峯岸山	●	●	●	●	●	●			15,76,77

番号	遺跡名	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	文献No.
26	生目	●								86
26	生目II				●	●	●	●		44
27	前橋市0646(白藤新宿、白藤古墳群)		●		●	●	●	●		30,33
28	前橋市0649(膳城)					●	●	●		31,56,110
29	太郎A					●	●		●	50
30	堂城						●			56,110
30	堂城B							●		50
30	堂城D		●		●	●	●	●	●	47
30	堂城E		●		●	●	●	●	●	46
30	堂城F					●	●	●	●	48
31	山上天笠D				●	●	●	●		50
31	山上天笠F					●	●	●		49
31	山上天笠J					●				47
31	山上天笠K				●					47
31	山上天笠L				●	●	●	●		44
31	山上天笠M					●				45
32	町南				●	●	●	●		51
32	町南B					●	●			51
32	町南C				●	●	●	●	●	49
32	町南D				●	●	●			48
33	天笠東				●	●	●			53
34	間ノ田		●				●			53
35	諏訪越II				●	●	●	●	●	46
36	武井城(城遺跡を含む)		●				●			59,83,86
37	武井廃寺跡		●			●				50,58,86
37	新川2号墳				●					86
38	武井城1号墳				●					50
38	中塚古墳				●					21
39	武井城II		●			●	●			55
40	武井峯(峰遺跡を含む)		●		●	●	●	●		51,83
40	武井峯B				●	●	●	●		50
40	武井峯C		●			●	●		●	50
40	武井峯D				●	●	●	●		50
40	武井峯E	●								41
40	武井峯F					●	●			50
40	武井峯G					●	●			50
40	武井峯H					●	●	●	●	49
40	武井峯K	●								41
40	武井峯L		●		●		●	●		45
41	久保井		●				●			82
41	久保井B		●							50
41	久保井C						●	●		49
42	久保井D						●			89
43	小沢御伊勢山					●	●	●	●	47
43	小沢御伊勢山II							●	●	47
44	石山	●								59
44	石山II						●	●	●	93
45	天笠南		●	●	●	●	●	●		81
45	天笠南C					●	●			49
45	天笠南E		●		●	●	●	●		47
45	天笠南F					●	●	●	●	47
45	天笠南G					●	●	●	●	47
45	天笠南I				●	●	●			45
46	石山西						●			50
46	石山西IV						●			47
46	石山西V				●	●	●			44
47	内出I				●	●	●	●	●	49
48	石山東I				●	●				49
49	鎮守II				●					47
50	高畔					●	●			52
51	梨子木				●					51

第2章 地理的環境と歴史的環境

番号	遺跡名	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	文献No.
51	梨子木A				●	●	●			51
51	梨子木C				●	●	●			50
51	梨子木D	●			●	●	●			50
51	梨子木E	●			●	●	●	●		50
51	梨子木F				●	●	●			50
51	梨子木H					●	●	●	●	49
51	梨子木I				●	●	●			49
51	梨子木J	●			●	●	●			36,41
51	梨子木K	●				●	●			48
51	梨子木L	●				●	●	●	●	54
52	金井IV					●	●			47
53	金井V					●	●	●	●	47
54	元宿A					●	●			51
54	元宿C		●							50
54	元宿G				●	●	●			46
54	元宿H	●						●		41,44
54	元宿J				●	●	●	●	●	54
55	武井の内出							●		56
55	山内出						●			86
55	山内出A					●	●			51
55	山内出B	●			●	●	●	●		35,45
55	山内出古墳				●					58
56	金井Ⅲ				●	●	●	●	●	49
57	雷電山瓦窯址					●				46,58
58	元宿	●								3
58	元宿Ⅱ	●			●					44
59	向赤坂	●								86,94
60	広間地西Ⅱ		●					●		50
61	新宮	●			●		●	●		53
61	新宮F				●					50
61	新宮G				●	●	●			50
61	新宮H				●					47
61	新宮I	●								37,41
62	新宮J							●	●	46
63	新宮Ⅱ				●	●	●	●	●	53
64	下宿東					●	●			50
65	大屋元屋敷	●			●	●	●	●		47
65	大屋元屋敷Ⅱ					●	●			45
66	宿東A					●	●			51
66	宿東C					●	●			51
66	宿東D					●	●	●	●	92
67	新川八幡	●								51
67	新川八幡Ⅲ					●	●	●	●	92
68	大屋B		●		●		●			51
68	大屋C		●		●	●	●			51
68	大屋D		●		●					51
68	大屋E				●					51
68	大屋G		●		●					49
68	大屋H		●		●	●	●			49
68	大屋I		●		●	●	●	●		49
68	大屋N		●		●	●	●			46
68	大屋P		●		●	●	●	●		45
69	磯	●								3
69	磯C				●	●	●			51
69	磯E				●					47
69	磯L				●	●	●	●		44
70	広間地東	●	●							87
71	広間地				●	●	●			52
71	広間地東B				●		●			84
72	広間地東A					●	●			50
73	広間地西		●		●	●	●	●		50
74	北原第3地点	●								68
74	北原A	●			●			●		50
75	東畑		●							86
75	東畑C				●	●	●	●	●	47
75	東畑D				●	●	●			46
76	香林西ノ原						●			8
77	道上				●	●				57
78	柳池						●			89

番号	遺跡名	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	文献No.
79	赤井戸		●	●	●	●	●			10,66,67,69
80	長昌寺開山塚古墳				●					22
81	西鹿田中島(中島遺跡、西鹿田遺跡を含む)	●	●		●		●		●	2,3,12,13,22,29,59,65,106,108
82	新川前田A		●							43,52
83	西原				●					22
84	神社裏	●	●	●						22,28,58,98
85	西原南		●							22
86	西鹿田高橋		●	●						22
87	山西				●					22
88	和田	●	●	●	●			●	●	26,58,59
89	坊谷戸		●							22
90	坊谷戸Ⅱ		●				●			27,28,100
91	新宿A					●	●	●		50
91	新宿C				●					47
92	山上新町				●	●	●	●		51
92	山上新町Ⅱ					●	●	●		49
92	山上新町Ⅲ							●		49
92	山上西久保Ⅰ		●					●		55
93	山上城跡Ⅶ		●	●	●			●		46
93	山上城跡Ⅸ	●	●		●	●	●	●	●	93
93	山上城跡							●		56
94	五反田		●		●	●	●	●		53
95	久留美田	●								94
96	町西Ⅰ		●		●	●	●	●	●	47
97	鳥屋ヶ峯愛宕山		●					●	●	55
98	上鶴ヶ谷		●				●			59,84
99	下鶴ヶ谷C								●	47
100	下鶴ヶ谷B		●							50
100	下鶴ヶ谷E					●	●			44
101	清水山Ⅱ		●							89
101	鶴ヶ谷東	●								111
102	不二山	●	●				●			3,59,90
103	十三塚H					●				47
103	不二山B地点	●								86
104	十三塚		●				●	●		85,87
104	十三塚E		●				●			89
104	善昌寺裏山火葬墓						●			58
104	外挿山		●				●		●	58,80,86
105	十三塚F		●					●		89
105	峯の薬師		●					●	●	47
106	谷津館跡Ⅰ					●	●	●		44
107	鎭木A		●		●	●	●			51
107	鎭木B		●							51
107	鎭木D		●				●			49
108	善田下					●	●			52
109	熊野藤生沢		●			●	●			78,79,86
110	杉森古墳				●					19,20,106
111	桐原	●	●	●				●		3,19,20,42
112	新川9号墳				●					87
113	新川10号墳				●					87
114	新川6号墳				●					87
115	藤生沢B		●							51
116	藤生沢C					●	●			50
117	藤生沢D					●	●	●		50

番号	遺跡名	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	文献No.
118	銅山道東A		●							19
119	銅山道東B		●							19
120	銅山道西		●							19,109
121	新川4号墳			●						87
122	新川5号墳			●						87
123	天神原古墳			●						87
124	新川天神原						●	●	●	49
124	新川天神原II						●			47
125	新川11号墳			●						87
126	新川14号墳			●						87
126	葉師様					●	●		●	54
127	新川12号墳			●						87
128	稲荷山	●	●				●			22,24 25,58
129	鹿清水	●	●							100
129	鹿清水第16地点		●							102
129	鹿清水第17地点		●				●			105
130	清水									28
130	清水第2地点	●	●				●			95
130	清水西丘		●							22
131	道婦	●	●					●	●	22
131	道婦山の砦							●		56
132	清水北口	●	●		●			●		28,102
133	向山		●	●		●	●			27,98, 100,101
134	清水西丘	●	●	●						22,28
135	清水山		●	●			●			59,60
136	北口古墳群			●			●			22,27
137	清泉寺裏		●							22
138	雉子野		●							103
138	鶴山砦跡(建岩の砦)							●		56,103
139	大平山西		●					●		103
140	田村屋敷							●		56
141	山際瓦窯跡					●	●			22,58
141	山際製鉄跡									22
142	鹿田山砦跡(泉沢城)							●		56,103
143	山際小山					●				103
144	溜ノ内		●							103
145	堀上		●				●	●		22,98 99,104
146	岩宿	●	●			●	●	●		23,59, 63,97, 98,100, 102,104 107
147	岩宿II	●	●							27,28, 62,102
147	東岩宿遺跡(仮)	●								15
148	沢田		●					●		27
148	鹿ノ川窯跡					●				58
149	山上4号墳				●					86
149	山上5号墳				●					86
150	山上7号墳				●					86
150	山上8号墳				●					86
150	山上庚申塚古墳				●					91
151	山上6号墳				●					86
151	桜塚古墳				●					91
151	桜塚西古墳				●					91
152	桜塚I		●				●	●	●	91
153	山上10号墳				●					86
153	山上11号墳				●					86
154	元宿						●		●	89

引用文献

- 相沢忠洋 1956「北関東赤城山麓に於けるマイクロ・コアの発見」『貝塚』第58号 平井尚志
- 相沢忠洋 1959「赤城山麓に於ける縄文早期文化と西鹿田遺跡発掘調査の意義」『古代文化』3-12 古代学協会
- 相沢忠洋・関矢昭 1988『赤城山麓の旧石器』 講談社
- 赤堀村教育委員会 1975『赤堀村峯岸山の古墳1』
- 赤堀村教育委員会 1976『赤堀村峯岸山の古墳2』
- 赤堀町教育委員会 1987『下触下寺遺跡及び磯十二所遺跡発掘調査概報』
- 赤堀町教育委員会 1994『群馬県佐波郡赤堀町文化財調査報告40 町内遺跡発掘調査概報』
- 赤堀町教育委員会 2001『平成12年度埋蔵文化財発掘調査報告』
- 赤堀町教育委員会 2004『天幕城遺跡』
- 伊勢崎市教育委員会 2012『伊勢崎市遺跡分布地図』
- 岩澤正作 1933『新里村郷土大観』新里村史蹟保存会
- 岩澤正作 1939a「石器時代の笠懸村(上)」『毛野』5-1 pp5-10 毛野研究会
- 岩澤正作 1939b「石器時代の笠懸村(下)」『毛野』5-2 pp1-9 毛野研究会
- 岩宿フォーラム実行委員会 1998a『武井遺跡と北関東の槍先形尖頭器文化』予稿集
- 岩宿フォーラム実行委員会 1998b『北関東の槍先形尖頭器文化』資料集
- 岩宿フォーラム実行委員会 2000『槍先形尖頭器文化期の集落と武井遺跡』
- 岩宿フォーラム実行委員会 2004『武井遺跡の槍先形尖頭器』
- 岩宿フォーラム実行委員会 2013『槍先形尖頭器文化の大規模遺跡と遺跡の広がり』
- 大間々町誌編さん室 1996『大間々町誌「基礎資料VI」 大間々町の遺跡』
- 大間々町誌編さん室 1998『大間々町誌 通史編 上巻』
- 尾崎喜佐雄 1958『赤城南麓新里村の古墳』新里村教育委員会
- 笠懸村誌編さん室 1983『笠懸村誌 別巻 資料編 自然編・原始古代編』
- 笠懸村教育委員会 1971『群馬県笠懸村岩宿遺跡緊急発掘調査概報一昭和45年度発掘調査によるC地点およびD地点の概要一』
- 笠懸村教育委員会 1979『笠懸村稲荷山遺跡一笠懸村埋蔵文化財調査報告第2集一』
- 笠懸村教育委員会 1980a『笠懸村稲荷山遺跡一笠懸村埋蔵文化財調査報告第3集一』
- 笠懸村教育委員会 1980b『和田遺跡調査概報一笠懸村埋蔵文化財調査報告第4集一』
- 笠懸町教育委員会 1993『笠懸町内遺跡I』
- 笠懸町教育委員会 1995『笠懸町内遺跡II』
- 笠懸町教育委員会 2003『西鹿田中島遺跡発掘調査報告書(1)』
- 粕川村教育委員会 1983『白藤・新宿』
- 粕川村教育委員会 1985『粕川村の遺跡一遺跡詳細分布調査報告書一』
- 粕川村教育委員会 1988『堤頭遺跡』
- 粕川村教育委員会 1989『白藤古墳群』
- 加部二生 1998「武井遺跡の調査概要一新里村教育委員会の調査を中心として一」『武井遺跡と北関東の槍先形石器文化 予稿集』pp19-26 岩宿フォーラム実行委員会
- 加部二生・阿久澤智和 2009「山内出B遺跡」『石器文化研究15』pp75-78 石器文化研究会
- 加部二生・石田典子・後藤佳一 2003「梨子木J遺跡」『第9回石器文化研究交流会一発表要旨一』pp17-20 石器文化研究会
- 加部二生・石田典子・後藤佳一 2004「赤城村の旧石器時代遺跡」『勢多郡文化財ニュース』No.6 pp11-14 群馬県勢多郡町村教育委員会事務所研究会
- 加部二生・小菅将夫 1995「武井遺跡」『第2回石器文化研究交流会』pp4-10 石器文化研究会
- 加部二生・大工原豊 1992「群馬県新里村十二社遺跡の調査」『第5回長野県旧石器文化研究交流会一発表要旨一』pp16-21 長野県旧石器文化研究交流会
- 加部二生・大工原豊・町田正行 1992「群馬県新里村十二社遺跡の石器群について」『第6回東北日本の旧石器文化を語る会』pp23-29 東北日本の旧石器文化を語る会
- 軽部達也・小原俊行 2013「武井遺跡周辺の槍先形尖頭器文化の遺跡」

## 第2章 地理的環境と歴史的環境

- 『岩宿フォーラム2013 槍形尖頭器文化の大規模遺跡と遺跡の広がり—武井遺跡発掘60周年—』pp39-48岩宿フォーラム実行委員会
- 42 桐原遺跡調査団・芹沢長介 2004『群馬県山田郡大間々町桐原遺跡の調査概要報告』
- 43 桐生市教育委員会 1994『新川前田A遺跡(その1)』
- 44 桐生市教育委員会 2008『平成17・18年度発掘調査概報』
- 45 桐生市教育委員会 2010 a『桐生市内遺跡発掘調査報告平成19・20年度調査』
- 46 桐生市教育委員会 2010 b『新里地区遺跡群発掘調査報告Ⅰ』
- 47 桐生市教育委員会 2011『新里地区遺跡群発掘調査報告Ⅱ』
- 48 桐生市教育委員会 2012『桐生市内遺跡発掘調査報告平成21・22年度調査』
- 49 桐生市教育委員会 2012『新里地区遺跡群発掘調査報告Ⅲ』
- 50 桐生市教育委員会 2013『新里地区遺跡群発掘調査報告Ⅳ』
- 51 桐生市教育委員会 2014『新里地区遺跡群発掘調査報告Ⅴ』
- 52 桐生市教育委員会 2015『新里地区遺跡群発掘調査報告Ⅵ』
- 53 桐生市教育委員会 2016 a『新里地区遺跡群発掘調査報告Ⅶ』
- 54 桐生市教育委員会 2016 b『桐生市内遺跡発掘調査報告平成25・26年度調査』
- 55 桐生市教育委員会 2018『桐生市内遺跡発掘調査報告平成27・28年度調査』
- 56 群馬県教育委員会 1989『群馬県の中世城館』
- 57 群馬県教育委員会 2010『道上遺跡』
- 58 群馬県史編さん委員会 1986『群馬県史 資料編2 原始古代2』群馬県
- 59 群馬県史編さん委員会 1988『群馬県史 資料編1 原始古代1』群馬県
- 60 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1985『清水山遺跡』
- 61 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2019『前畑J遺跡』
- 62 小菅将夫 2002『岩宿Ⅱ遺跡第3次調査』『第8回石器文化研究交流会—発表要旨—』pp43-45 石器文化研究会
- 63 杉原荘介 1956『群馬県岩宿発見の石器文化』明治大学
- 64 杉原荘介 1977『群馬県武井における二つの石器文化』明治大学
- 65 周東隆一 1950『群馬県新田郡笠懸村中島遺跡調査報告(第一報)—主として地表採集による概報—』『両毛古代文化』2 pp38-45 両毛考古学会
- 66 周東隆一 1951『赤城山南麓に於ける特色ある弥生式土器とその分布』『日本考古学協会第8回総会研究発表要旨』pp16-18 日本考古学協会
- 67 周東隆一 1953『赤城山南麓における特色ある弥生式土器とその分布(第2報)』『日本考古学協会第11回総会研究発表要旨』pp13-16 日本考古学協会
- 68 関矢晃 1991『群馬県新里村北原遺跡の後期旧石器—表面採集資料の検討(Ⅰ)—』『太平臺史窓』第11号 史窓会
- 69 藪田芳雄 1975『(b)赤井戸式土器』『崖岸山遺跡発掘調査報告(第一次)』pp37-38 新里村教育委員会
- 70 勢藤力 2009『崖岸山遺跡Ⅴ』『石器文化研究15』pp71-74 石器文化研究会
- 71 武井遺跡調査団 2010『概報 武井遺跡群Ⅰ』
- 72 武井遺跡調査団 2011『概報 武井遺跡群Ⅱ』
- 73 武井遺跡調査団 2012『概報 武井遺跡群Ⅲ』
- 74 武井遺跡調査団 2014『概報 武井遺跡群Ⅳ』
- 75 武井遺跡調査団 2015『概報 武井遺跡群Ⅴ』
- 76 新里村教育委員会 1975a『崖岸山遺跡発掘調査報告(第一次)』
- 77 新里村教育委員会 1975b『崖岸山遺跡発掘調査報告(第二次)』
- 78 新里村教育委員会 1975c『熊野遺跡発掘調査報告(第一次)』
- 79 新里村教育委員会 1977『熊野・藤生沢遺跡発掘調査報告(第二次)』
- 80 新里村教育委員会 1980『外播山遺跡』
- 81 新里村教育委員会 1981a『天笠南遺跡』
- 82 新里村教育委員会 1981b『久保井遺跡』
- 83 新里村教育委員会 1981c『武井・城遺跡』
- 84 新里村教育委員会 1982『上鶴ヶ谷遺跡』
- 85 新里村教育委員会 1982『十三塚遺跡』
- 86 新里村教育委員会 1984a『新里村の遺跡』
- 87 新里村教育委員会 1984b『新里の遺跡表』
- 88 新里村教育委員会 1985『崖岸遺跡—里棲み集落の発掘調査—』
- 89 新里村教育委員会 1998『新里村内電源開発只見幹線鉄塔建設関連遺跡発掘調査概要』
- 90 新里村教育委員会 2002『新里村不二山遺跡群発掘調査報告：ぐんま昆虫の森(仮称)に伴う発掘調査』
- 91 新里村教育委員会 2003『新里村内県道梨木香林線建設関連遺跡発掘調査報告』
- 92 新里村教育委員会 2004『宿東D遺跡・新川八幡Ⅲ遺跡』
- 93 新里村教育委員会 2005『山上城跡Ⅸ・石山Ⅱ遺跡』
- 94 日本旧石器学会 2010『日本列島の旧石器時代遺跡』
- 95 萩谷千明 1995『清水遺跡第2地点』『第3回石器文化研究交流会—発表要旨—』pp4-7 石器文化研究会
- 96 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2009『粕川町一日市宿後遺跡』
- 97 みどり市教育委員会 2010 a『史跡岩宿遺跡保存整備報告書』
- 98 みどり市教育委員会 2010 b『みどり市内遺跡 1』
- 99 みどり市教育委員会 2011『堀上遺跡』
- 100 みどり市教育委員会 2011『みどり市内遺跡 2』
- 101 みどり市教育委員会 2012『みどり市内遺跡 3』
- 102 みどり市教育委員会 2013『みどり市内遺跡 4』
- 103 みどり市教育委員会 2013『みどり市遺跡地図』
- 104 みどり市教育委員会 2014『みどり市内遺跡 5』
- 105 みどり市教育委員会 2015『みどり市内遺跡 6』
- 106 みどり市教育委員会 2016『みどり市内遺跡 7』
- 107 みどり市教育委員会 2017 a『岩宿遺跡F地点』
- 108 みどり市教育委員会 2017 b『西鹿田中島遺跡発掘調査報告書(2)』
- 109 みどり市教育委員会 2018『みどり市内遺跡 8』
- 110 山崎一 1971『群馬県古城址の研究 上巻』群馬県文化事業振興会
- 111 柳田俊夫・阿子島香 2015『群馬県鶴ヶ谷東遺跡発掘調査の研究報告』Bulletin of the Tohoku University Museum No.14 pp.201-276 東北大学総合学術博物館

## 第3章 下層(後期旧石器時代)の調査

武井峯岸V遺跡では、後期旧石器時代の石器が計85点出土した。調査所見によると、これらの石器はAs-BP Groupを含むⅧ層から、暗色帯であるX層までの間に検出されている。特に、X層の上位において最も多くの石器が検出されている。

これらの石器は平面分布上、視覚的に2つのまとまりとして捉えられる。調査区が狭小であることから、その広がり是不明であるが、これらのまとまりを便宜上、「石器集中部」として設定した。

調査区全体および各石器集中部の石器石材と器種の組成は第2表に示す。以下では、出土した石器の内容と、分布形態について、各節で説明する。

なお、各石器の遺物番号は第3表の「遺物取り上げ番号」を参照のこと。

### 第1節 出土した石器

出土した石器は、ナイフ形石器2点、台形様石器1点、二次加工ある剥片1点、微細剥離痕ある剥片1点、石核5点、剥片60点、碎片7点、磨石5点(接合すると2点)、砥石1点、礫2点である。

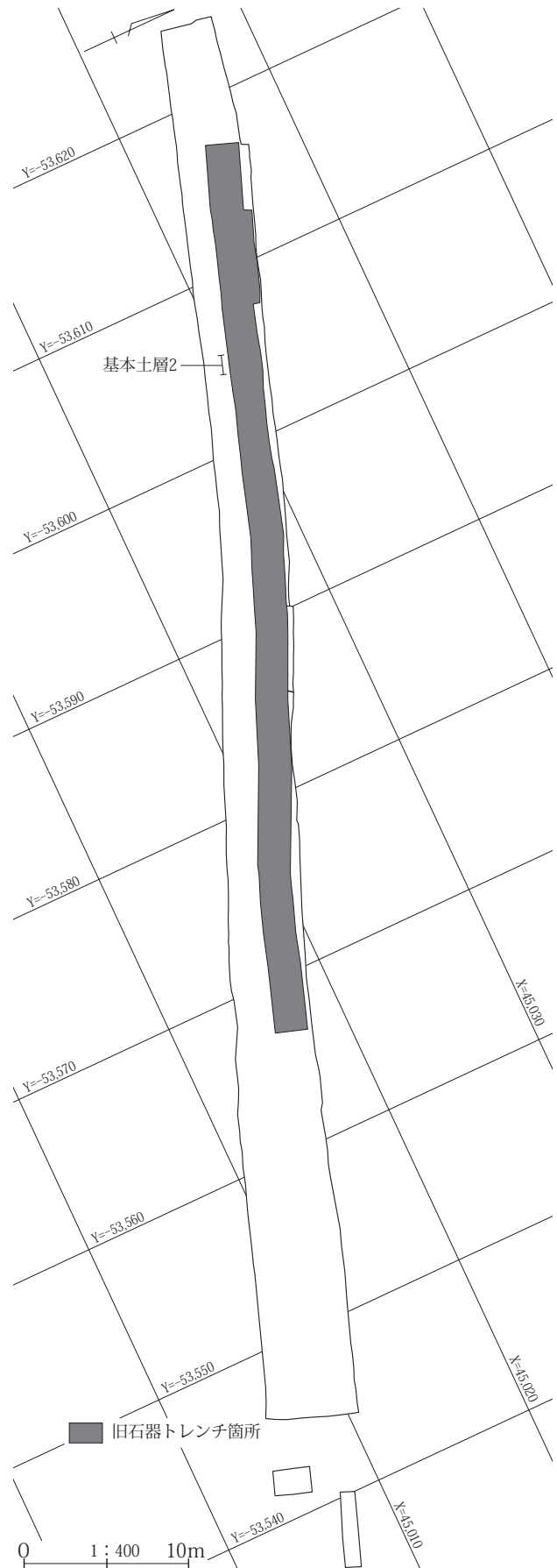
石器石材は黒曜石と黒色安山岩が主だったものである。これらの石材に順じて、黒色頁岩や凝灰岩、チャートなどが認められる。黒曜石は原産地分析の結果、全て和田峠産であることが判明している。また、接合資料は4個体ある。

#### 1 出土石器

##### ナイフ形石器(第7図1・2)

第7図1は先端部のみが残存している。右側縁部に二次調整が認められる。黒色頁岩製。2号石器集中部出土。遺物番号33。

第7図2は基部のみが残存している。左側縁部に二次調整が急角度で施される。右側縁部には礫面が残存している。礫面と直交して剥片剥離が施されているのが認められるが、頭部調整か二次調整かは厳密には不明である。黒曜石製。1号石器集中部出土。遺物番号76。



第6図 調査区内旧トレンチ位置図

### 台形様石器(第7図3)

素材を縦位に用いる。打面は礫面である。背面の左側縁部基部側に礫面が残存する。二次調整は、背面側では右側縁部、腹面側では両側縁部に器体に対して平坦になるよう施されている。二次調整は背面側に施した後、腹面側に施している。先端部の一部は欠損している。台形様石器Ⅱ類、いわゆる「ペン先形ナイフ形石器」である。黒曜石製。2号石器集中部出土。遺物番号25。

### 二次加工ある剥片(第7図4)

幅広の剥片の腹面左側縁部に調整が施される。打面部は欠損しているが、剥片剥離時の同時割れによるものであると推定される。黒色安山岩製。1号石器集中部出土。遺物番号81。

### 剥片(第7図5～12)

剥片には縦長剥片(第7図5～8)、幅広の剥片(第7図9～12)が認められる。

第7図5は粗い凝灰岩製の縦長剥片である。打面は複剥離面である。背面側の打面部には頭部調整が認められる。類似する母岩は認められない。遺物番号34。

第7図9・10は黒曜石製の幅広の剥片である。また、第7図6・7は黒色安山岩製の剥片である。

### 石核(第8図13～15)

第8図13は円礫を素材とする。単打面で小口面状に剥片剥離を進行させている。作出された剥片は寸詰まりの形態を呈すると推定される。単独母岩の凝灰岩製。2号石器集中部出土。遺物番号39。

第8図14は、剥片素材の石核である。素材となる剥片の主要剥離側を打面として求心状に剥片剥離を進行させる。黒色安山岩製。遺物番号50。

第8図15は、円礫から分割された大形の剥片を素材とし、剥片の折れ面を打面とした石核として用いられている。剥片剥離作業は縁辺部に沿うよう進行させている。また、折れ面の反対側の縁辺についても、礫面を打面に設定して剥片剥離を進行させている。礫面の形状から、この石核の母岩は拳大以上の大形の円礫であったと推定される。黒色安山岩製。遺物番号5。

### 磨石(第9図16・第12図接4)

第9図16は全体の4分の1程度が残存している。粗粒輝石安山岩製。2号石器集中部出土。遺物番号87。

その他には第12図接合資料4の磨石を参照。

### 砥石(第9図17)

粗粒輝石安山岩製の砥石と推定される礫が検出されている。2面に線状の痕跡が認められる。集中部外出土。遺物番号118。

### 礫(第9図18～19)

上記の遺物の他に、粗粒輝石安山岩の礫が2点検出された。被熱痕等の痕跡は認められないものの、拳大以上の大きさがあることから、人為的に搬入された可能性も考えられるため、図示する。いずれも集中部外出土。遺物番号119、121。

## 2 接合資料

### 接合資料1(第10図接1)

接合資料1は微細剥離痕のある剥片1点、石核1点から構成される。表裏面に節理面が認められる。微細剥離痕のある剥片の背面構成から、求心状に剥片剥離を進行させたことが読み取れる。微細剥離痕のある剥片接1-1は剥片剥離の進行の中で、作出されている。微細剥離痕のある剥片は、右側縁部に連続して微細剥離痕が認められる。黒曜石製。遺物番号3+55。1号石器集中部出土。

### 接合資料2(第11図接2)

接合資料2は剥片3点、石核1点が接合している。長さ5.5cm程度の剥片を2分割して剥片素材の石核とし、素材剥片の末端部にある折れ面を打面として利用して、剥片剥離を施している。背面は大部分が礫面であり、その形状から元は板状の垂角礫であったと推定される。黒曜石製。遺物番号8+11+54+75。1号石器集中部出土。

### 接合資料3(第10図接3)

接合資料3は幅広の剥片2点が接合している。黒色安山岩製。遺物番号91+93。2号石器集中部出土。

### 接合資料4

第12図接4は4点の磨石が接合している。一部にマンガンの付着が認められる。粗粒輝石安山岩製。遺物番号4+16+49+51。1号石器集中部出土。



## 第2節 石器の分布

前述したとおり、本調査区内で石器の平面分布は視覚的に2つのまとまりとして捉えられる。そのため、便宜的にこれら2つのまとまりを「石器集中部」として設定した。いずれも平面分布は散漫な様相を呈する。

石器出土の垂直分布には大きな隔たりが認められる。しかし、接合資料の一部(接合資料2の接2-4)のように、VI層出土の石器とX層下位出土の石器が接合することから、石器の垂直分布は、埋没後にインボリューション等による影響を大きく被っていると推測される。石器の内容も加味した上で、報告ではこれらの石器を同一時期の所産であると判断した。

### 1号石器集中部

分布範囲はX=45,036~45,032、Y=53,608~53,617である。41点の石器で構成される。垂直分布の範囲はVI層からX層下位にまで及ぶがX層中に集中する。

そのうち、34点が黒曜石製の石器である。次いで、黒

色安山岩、黒色頁岩、チャート、粗粒輝石安山岩の石器石材が認められる。

接合資料1、2、4は本石器集中部に帰属する。石器集中部外に接合関係が及ぶ資料はない。

### 2号石器集中部

分布範囲はX=45,031~45,025、Y=53,589~53,605である。垂直分布の範囲はVIII層からX層下位にまで及ぶがX層上位に集中する傾向にある。1号石器集中部より斜面部に立地しているせいか、散漫な分布を呈する。

40点の石器で構成される。そのうち、黒色安山岩が石器石材の大半を占める。次いで、黒曜石、チャート、黒色頁岩、珪質頁岩、砂岩、凝灰岩安山岩、凝灰岩と多様な石材によって構成される。

接合資料3は本石器集中部に帰属する。それ以外の接合関係は認められない。また、第7図1のナイフ形石器と第7図3の台形様石器が本石器集中部に帰属する。

### 石器集中部外

石器集中部外からは4点の石器が検出されている。第9図17の砥石などが該当する。

第2表 石器組成表

1号石器集中部

	ナイフ形石器	台形様石器	二次加工ある剥片	微細剥離痕ある剥片	剥片	碎片	石核	磨石	砥石	礫	計
黒曜石	1			1	15	3	2	5			27
黒色安山岩			1		7	2	1				11
チャート					1						1
黒色頁岩					2						2
頁岩											0
凝灰岩											0
粗粒輝石安山岩											0
砂岩											0
計	1	0	1	1	25	5	3	5	0	0	41

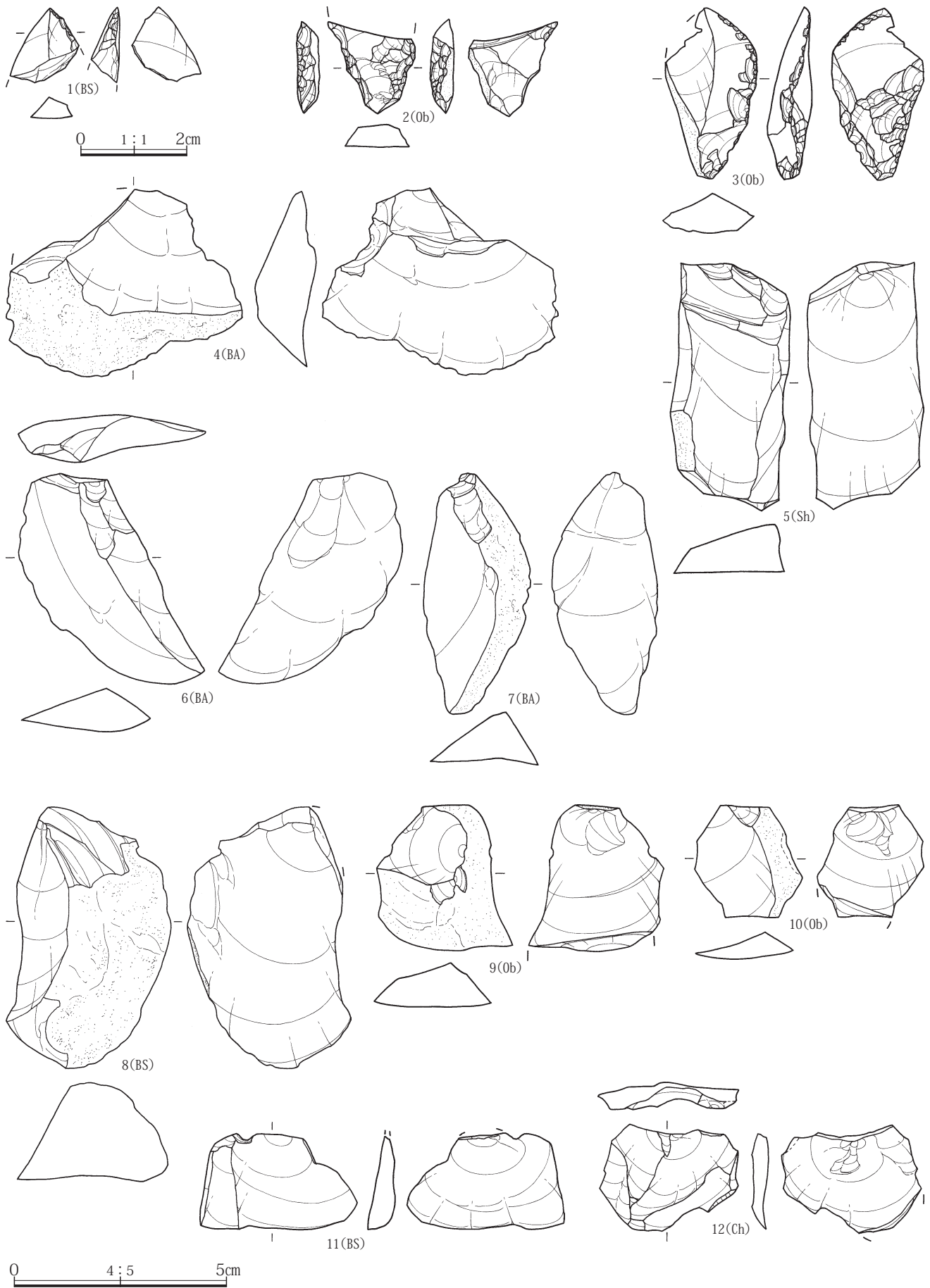
2号石器集中部

	ナイフ形石器	台形様石器	二次加工ある剥片	微細剥離痕ある剥片	剥片	碎片	石核	磨石	砥石	礫	計
黒曜石		1									1
黒色安山岩					23	2	1				26
チャート					3						3
黒色頁岩	1				4						5
頁岩					3						3
凝灰岩							1				1
粗粒輝石安山岩											0
砂岩					1						1
計	1	1	0	0	34	2	2	0	0	0	40

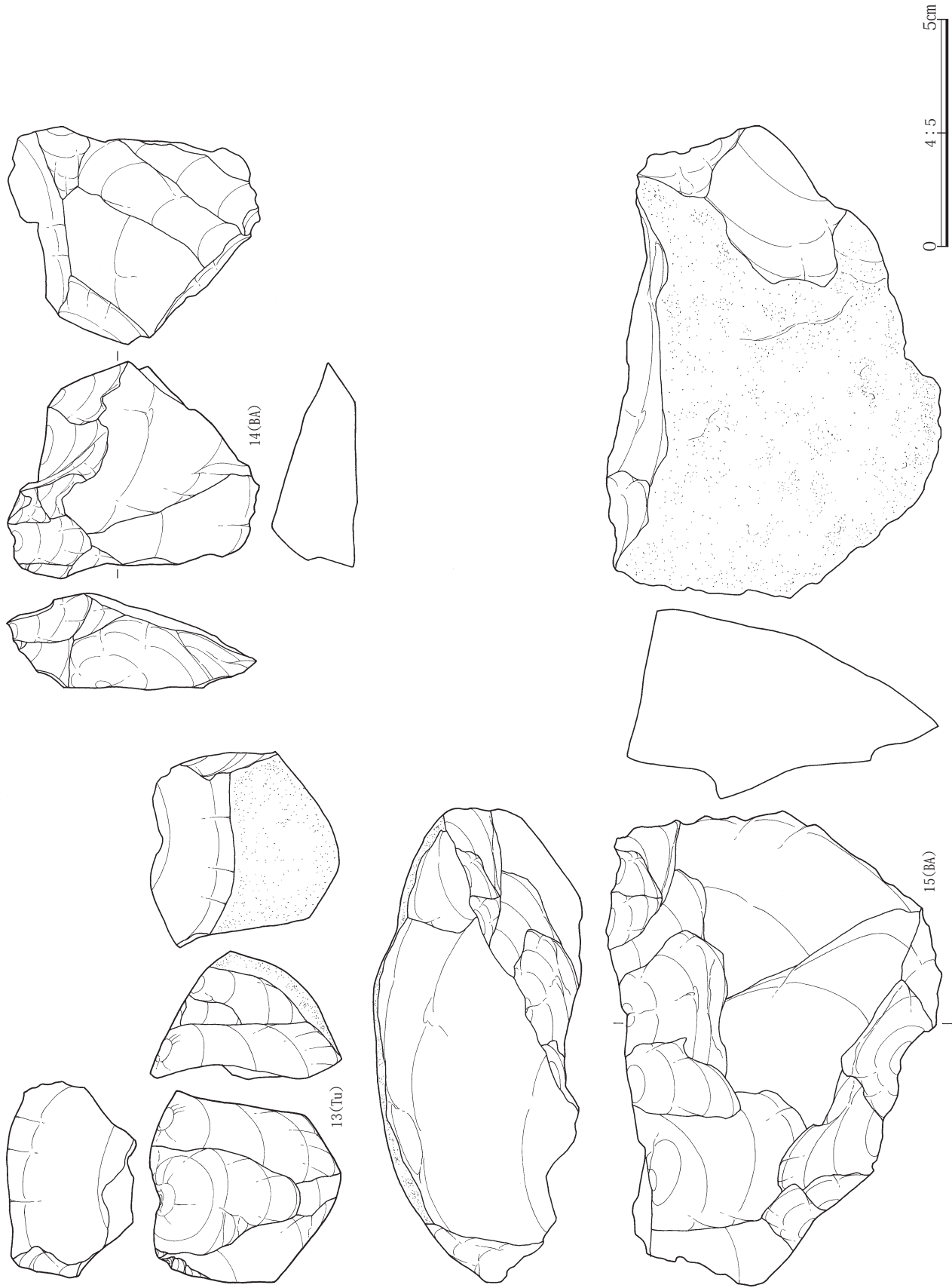
全体

	ナイフ形石器	台形様石器	二次加工ある剥片	微細剥離痕ある剥片	剥片	碎片	石核	磨石	砥石	礫	計
黒曜石	1	1		1	15	3	2	5			28
黒色安山岩			1		30	4	2				37
チャート					5						5
黒色頁岩	1				6						7
頁岩					3						3
凝灰岩							1				1
粗粒輝石安山岩									1	2	3
砂岩					1						1
計	2	1	1	1	60	7	5	5	1	2	85

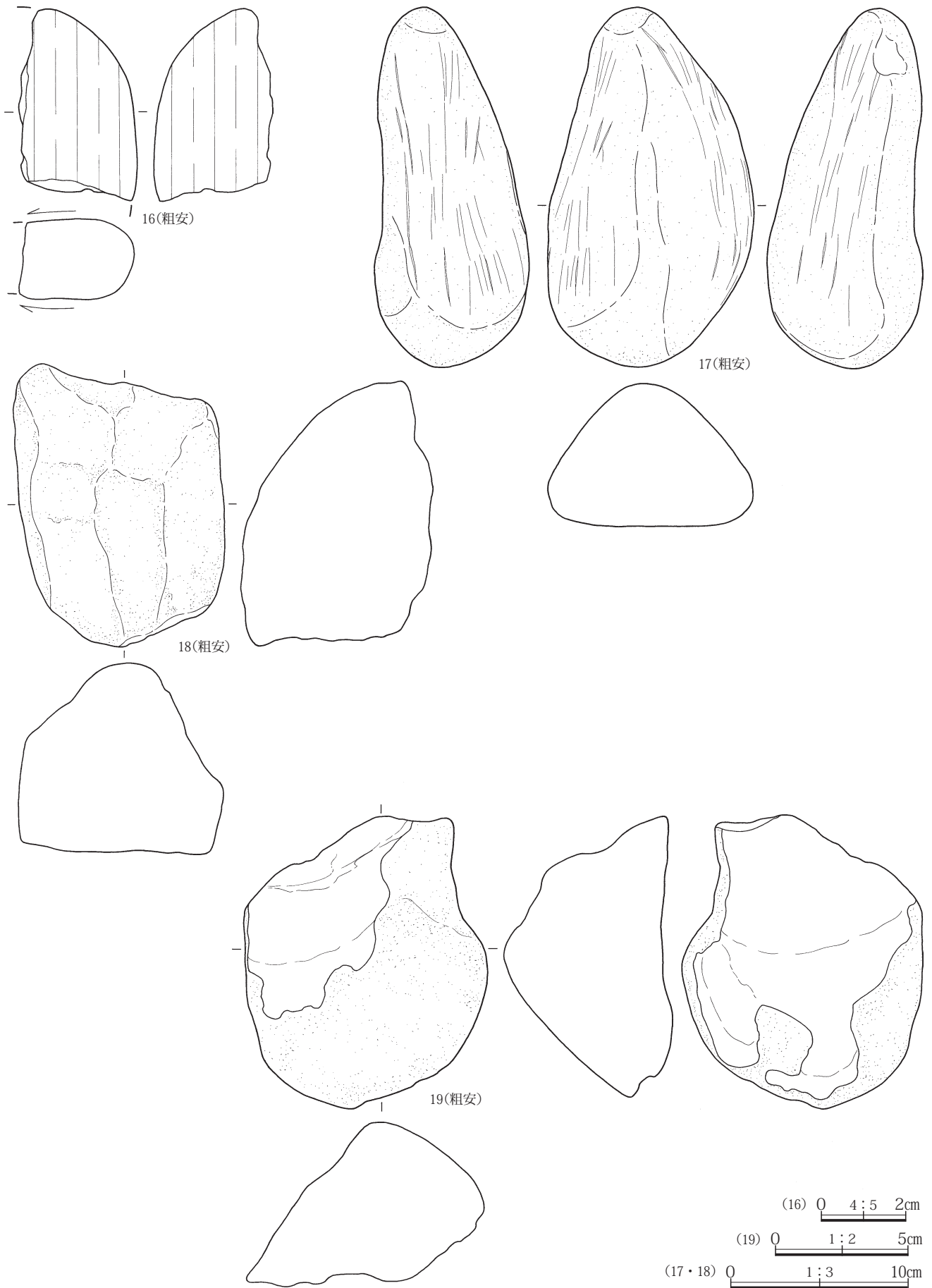
第3章 下層(後期旧石器時代)の調査



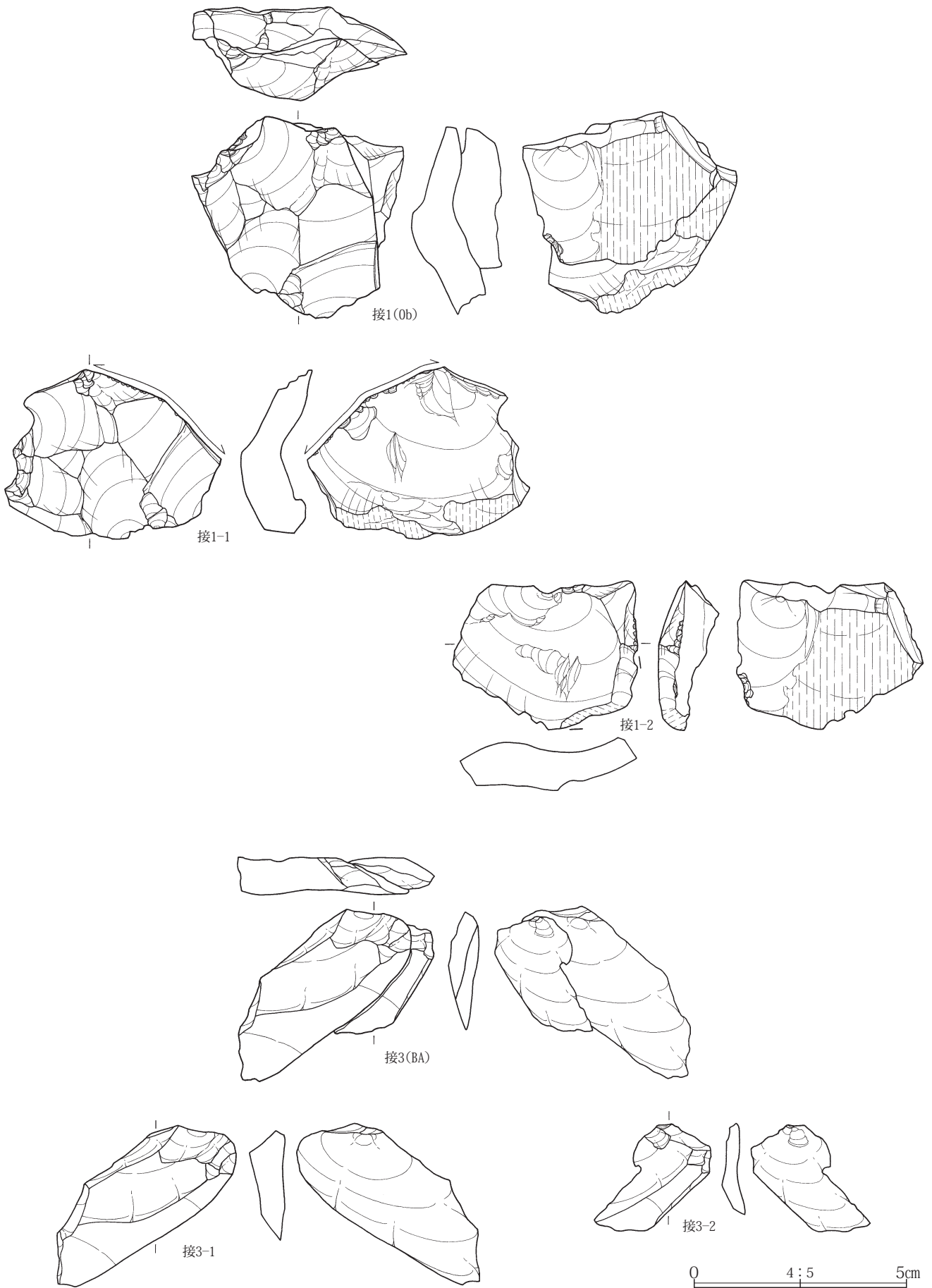
第7図 旧石器時代出土遺物(1)



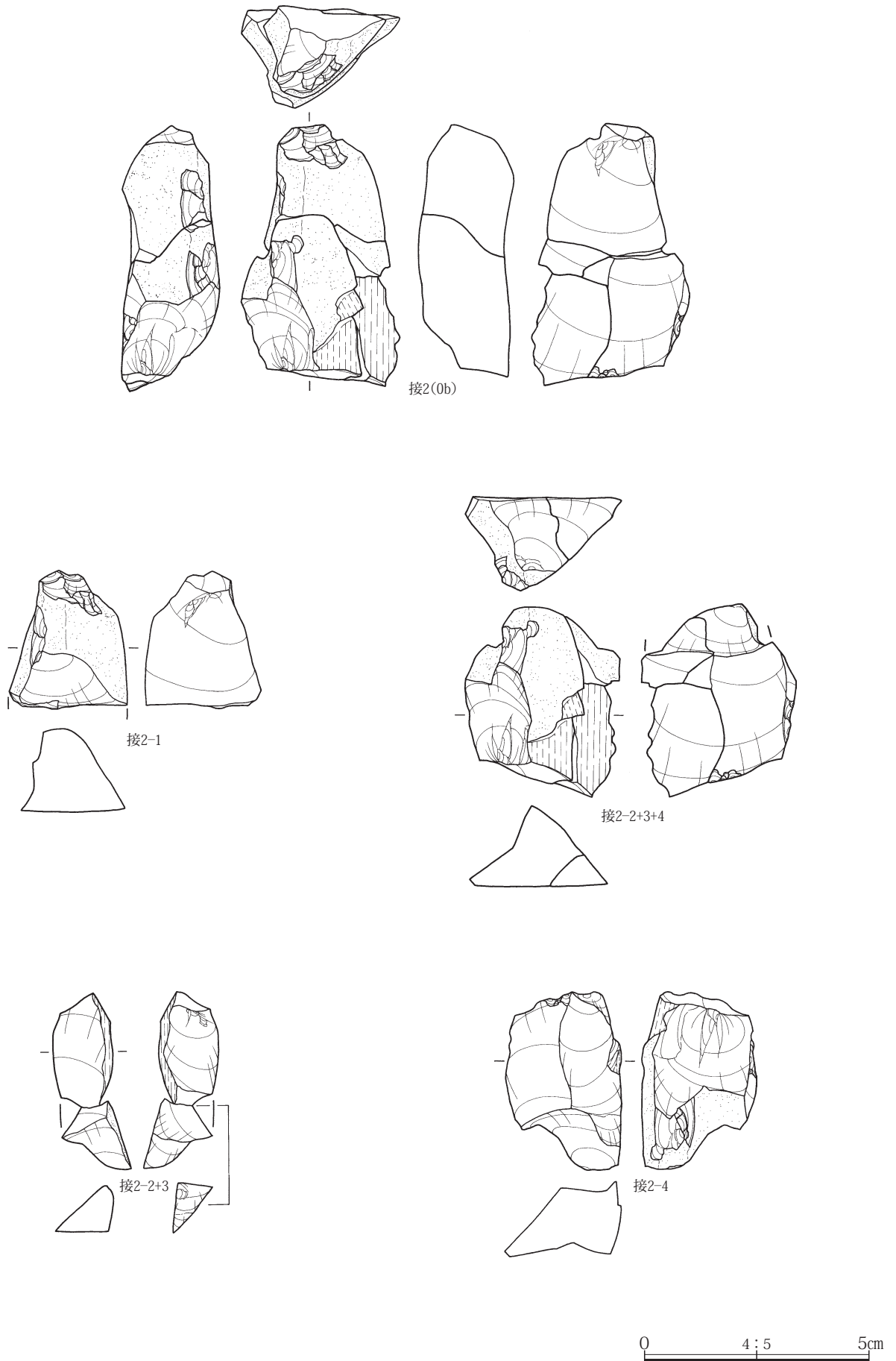
第8図 旧石器時代出土遺物(2)



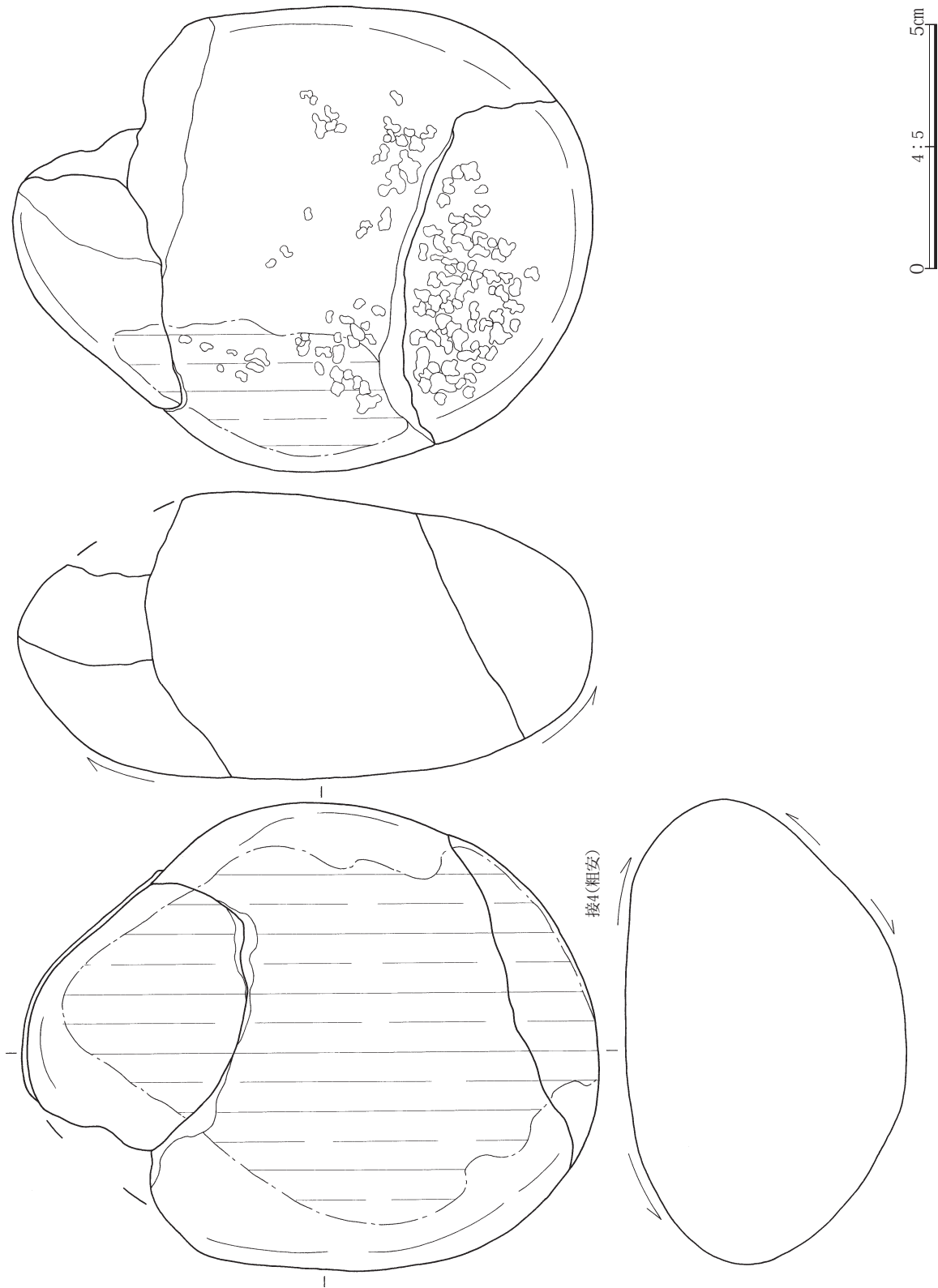
第9図 旧石器時代出土遺物(3)



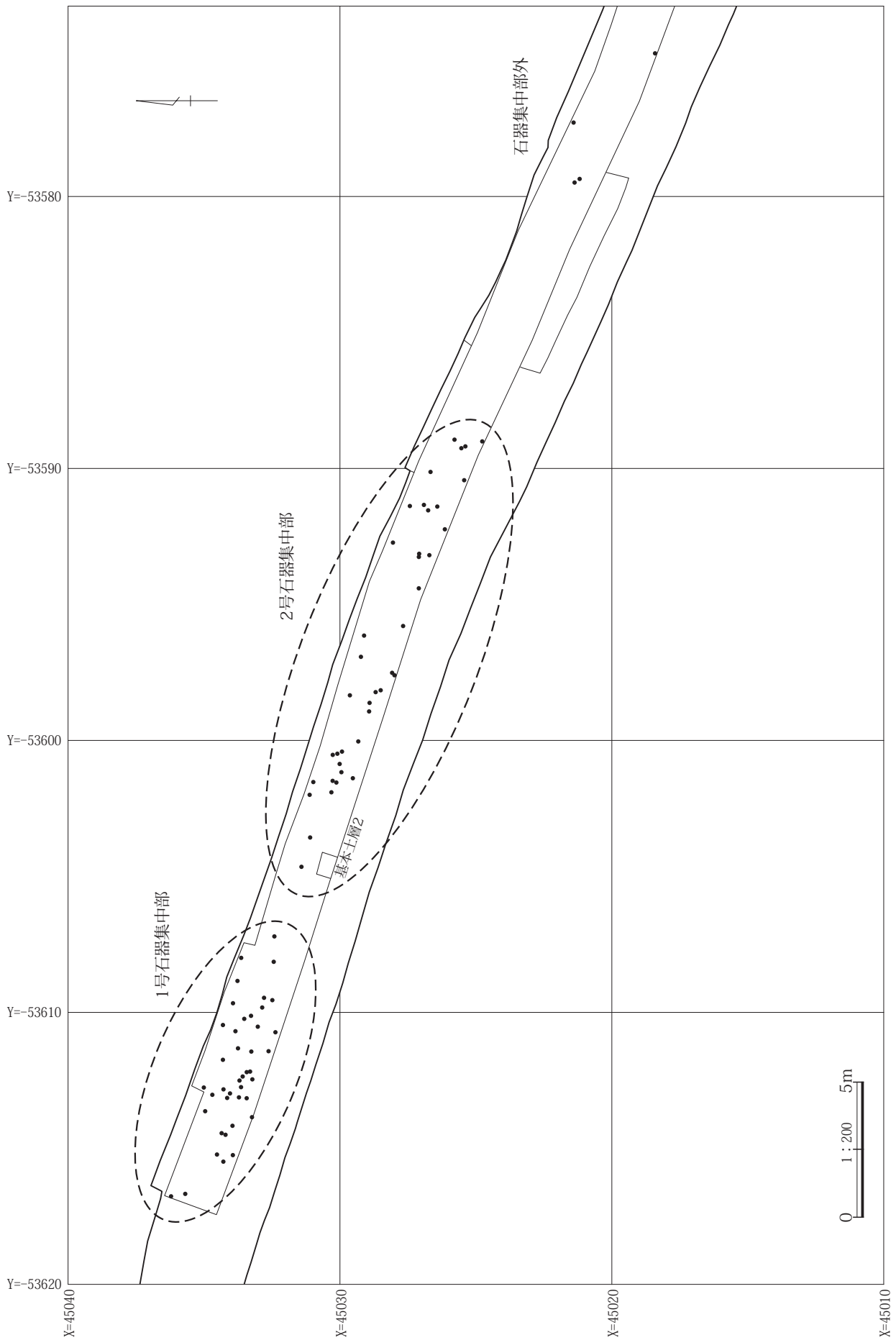
第10図 旧石器時代出土遺物(4)



第11図 旧石器時代出土遺物(5)

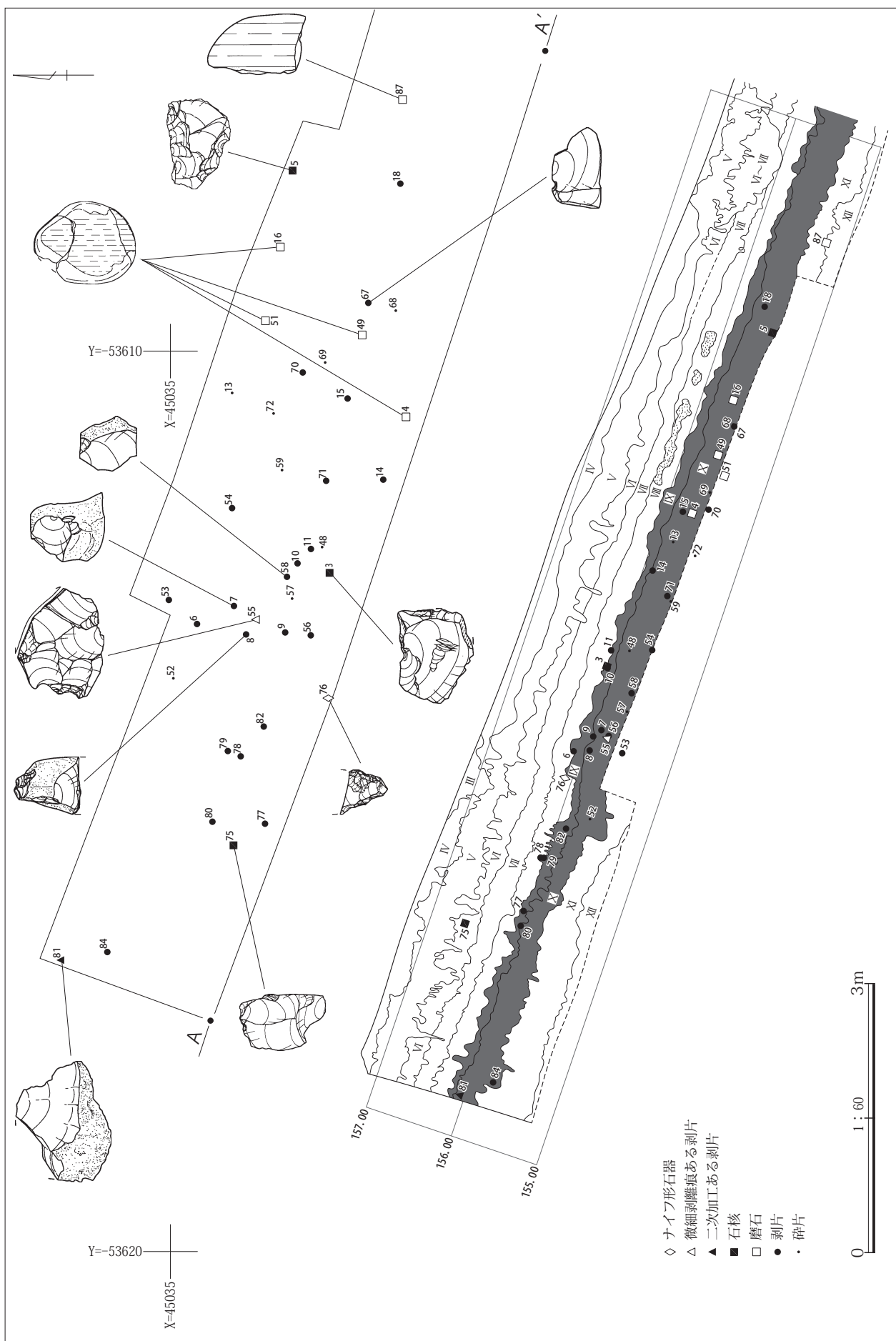


第12図 旧石器時代出土遺物(6)

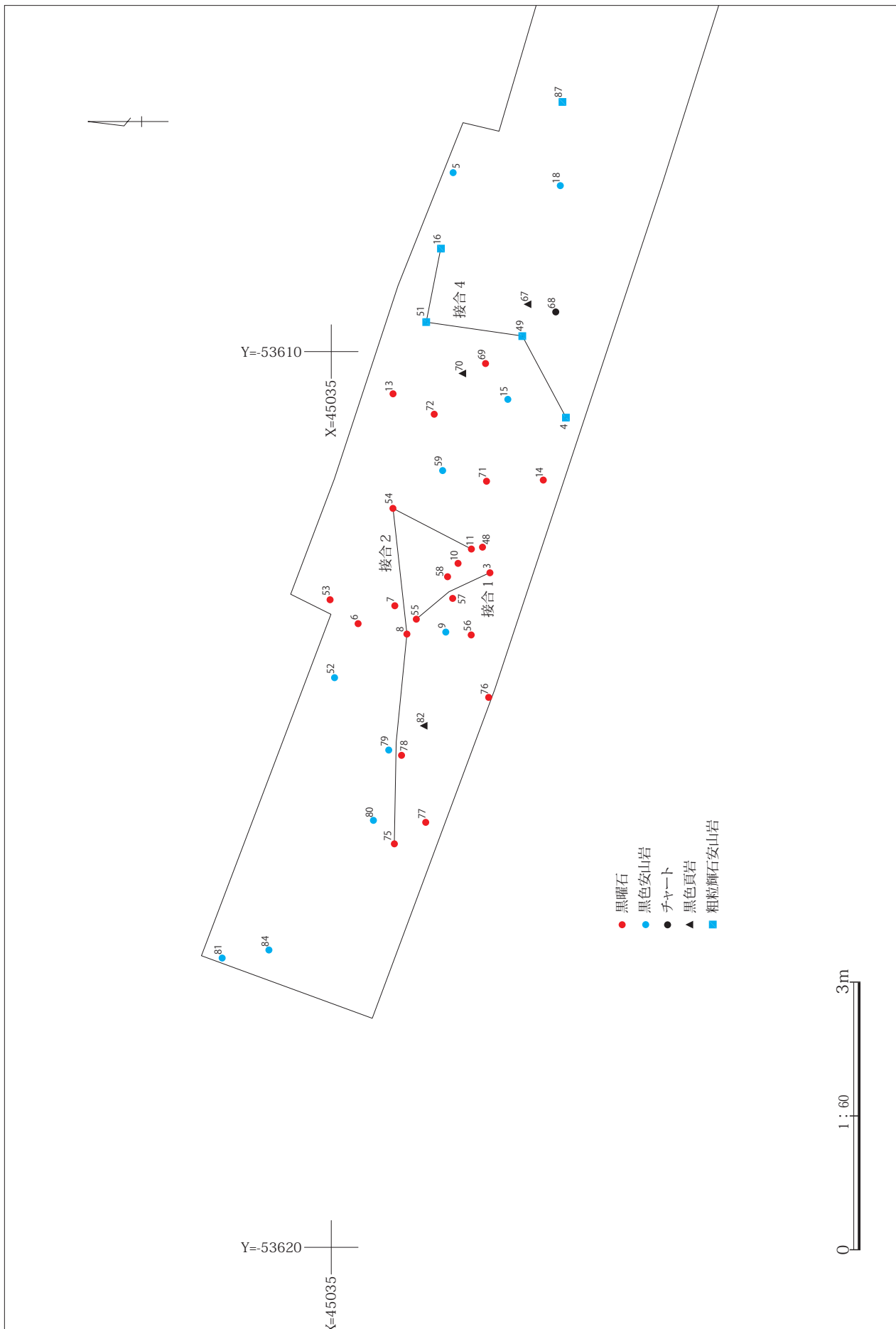


第13図 石器集中部位置図

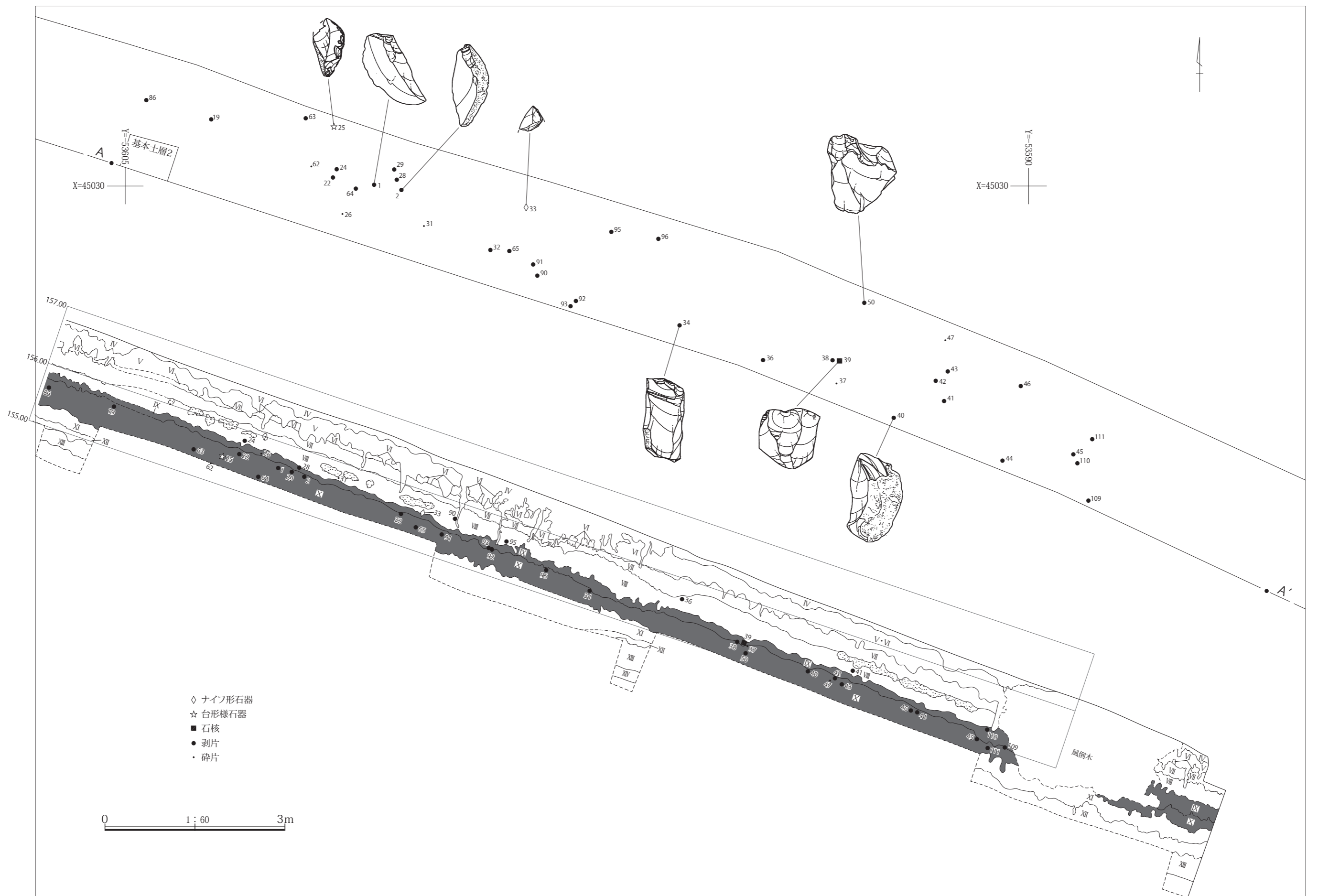




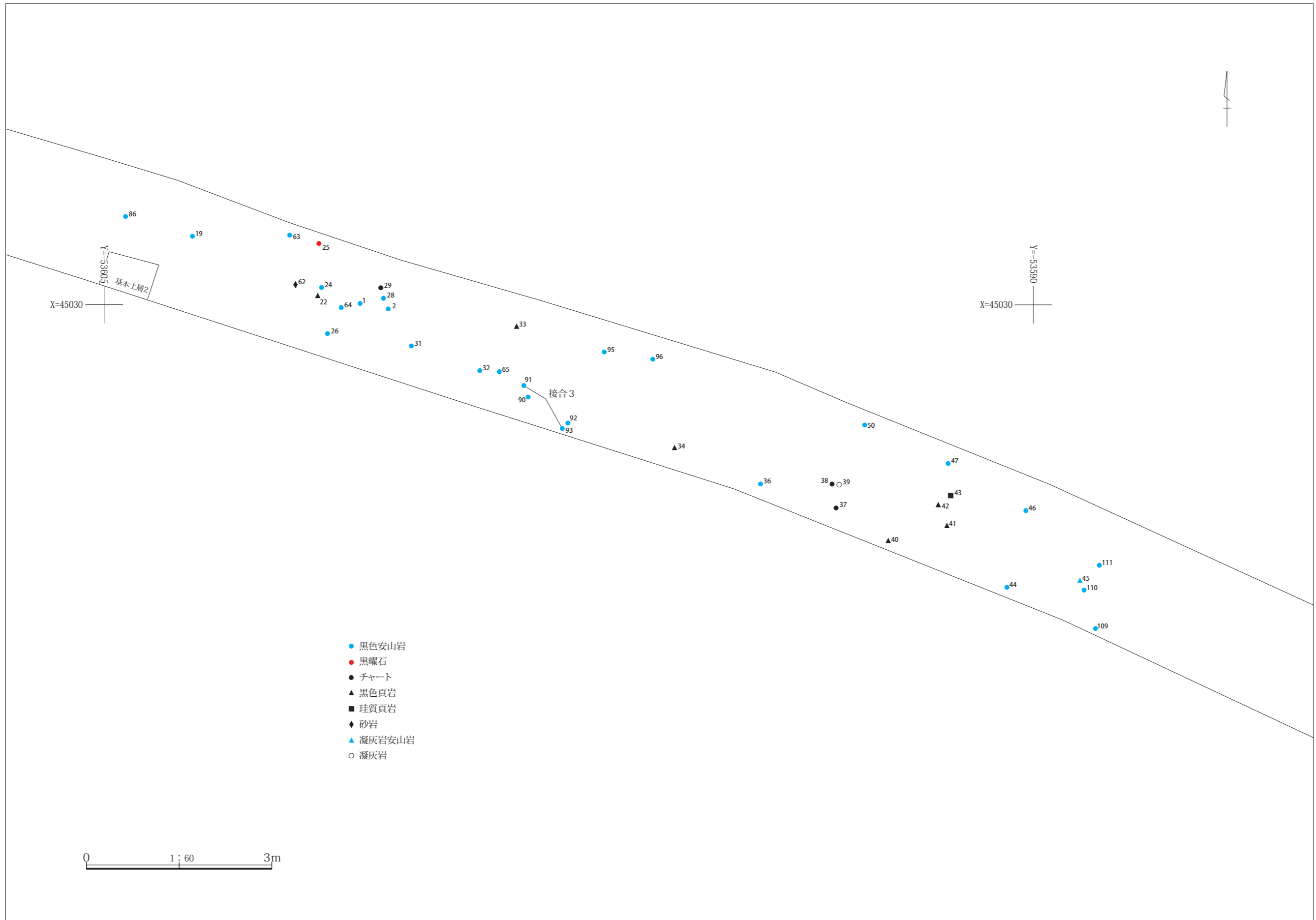
第14図 1号石器集中部器種別分布図



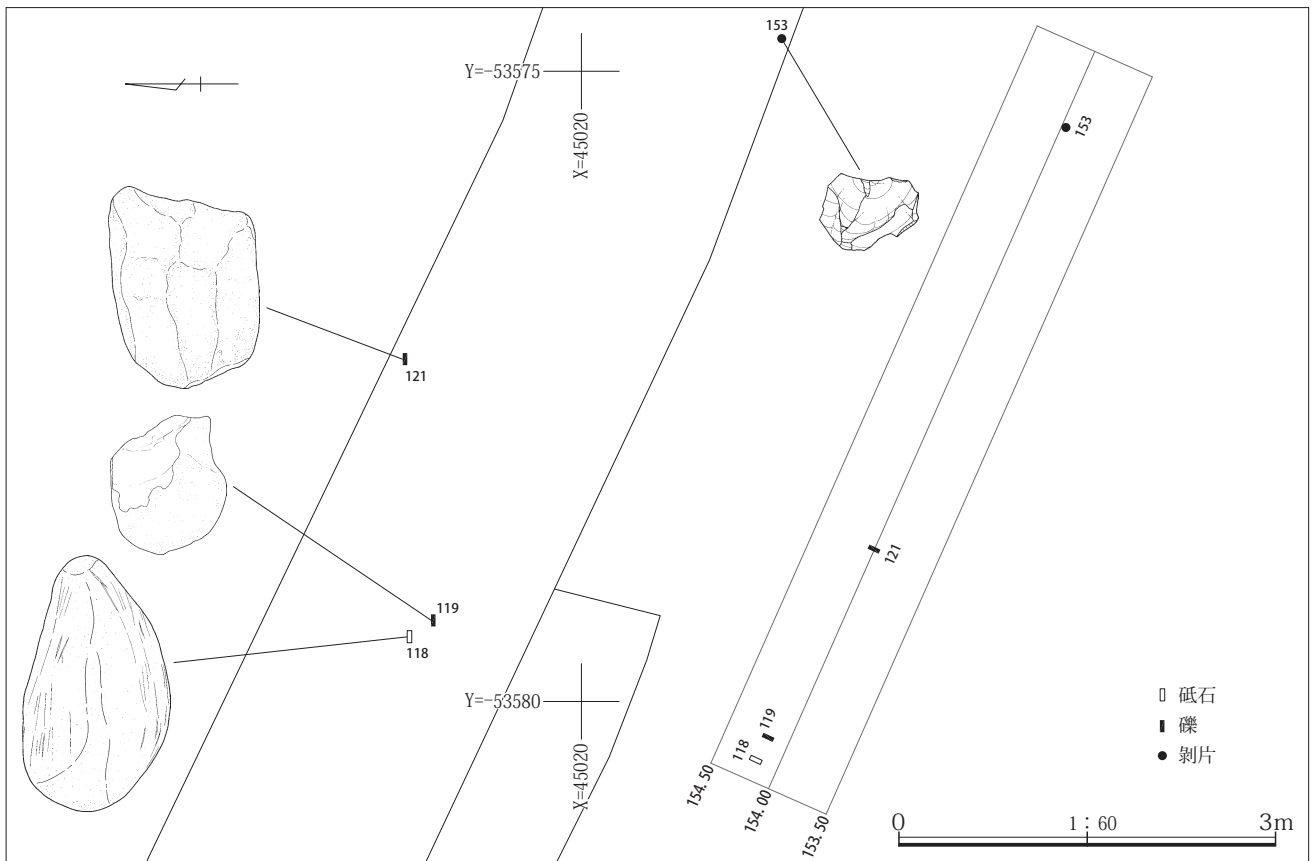
第15図 1号石器集中部石材別分布図



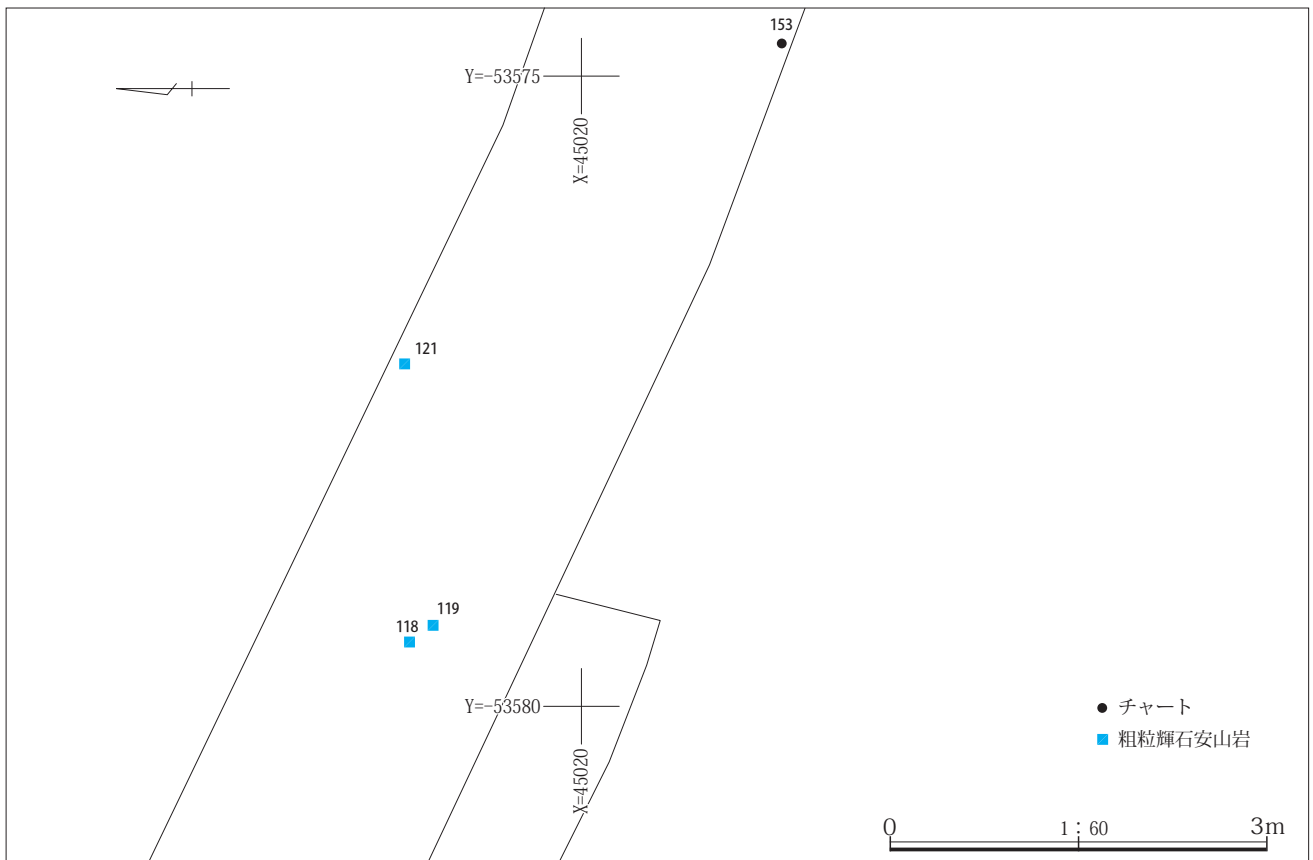
第16図 2号石器集中部器種別分布図



第17図 2号石器集中部石材別分布図



第18図 石器集中部外器種別分布図



第19図 石器集中部外石材別分布図

第3章 下層(後期旧石器時代)の調査

第3表 旧石器時代遺物一覧表

遺物取り上げ番号	図版番号	石器集中部	器種	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	X座標	Y座標	Z座標	備考
1	第7図6	2	剥片	黒色安山岩	5.0	4.2	1.0	13.0	45030.018	-53600.867	155.577	
2	第7図7	2	剥片	黒色安山岩	5.6	2.5	1.4	11.5	45029.932	-53600.413	155.579	
3	第10図接1-2	1	石核	黒曜石	3.5	4.3	1.3	14.3	45033.229	-53612.464	156.036	
4	第12図接4	1	磨石	粗粒輝石安山岩	9.5	8.4	6.0	602.9	45032.380	-53610.732	155.683	4+16+49+51
5	第8図15	1	石核	黒色安山岩	(7.0)	(10.0)	4.4	312.4	45033.640	-53607.997	155.479	
6		1	剥片	黒曜石	2.2	1.5	0.3	0.7	45034.701	-53613.032	156.083	
7	第7図9	1	剥片	黒曜石	3.5	3.2	1.3	11.2	45034.291	-53612.832	155.866	
8	第11図接2-1	1	剥片	黒曜石	3.2	2.6	2.0	12.1	45034.156	-53613.148	155.917	
9		1	剥片	黒色安山岩	1.6	1.4	0.7	1.8	45033.722	-53613.126	155.929	
10		1	剥片	黒曜石	1.8	3.3	1.0	4.7	45033.585	-53612.359	156.022	
11	第11図接2-2	1	剥片	黒曜石	2.6	1.7	0.8	3.2	45033.436	-53612.199	156.048	
13		1	剥片	黒曜石	1.1	1.6	0.2	0.3	45034.311	-53610.466	155.781	
14		1	剥片	黒曜石	1.8	3.3	0.8	3.9	45032.633	-53611.429	155.896	
15		1	剥片	黒色安山岩	3.5	3.3	0.9	10.5	45033.029	-53610.528	155.787	
16	第12図接4	1	磨石	粗粒輝石安山岩	(5.5)	(4.6)	(2.5)	52.2	45033.776	-53608.845	155.653	4+16+49+51
18		1	剥片	黒色安山岩	3.4	3.3	0.9	10.5	45032.443	-53608.142	155.657	
19		2	剥片	黒色安山岩	2.5	3.1	0.7	4.6	45031.104	-53603.571	155.669	
22		2	剥片	黒色頁岩	1.5	2.4	0.5	1.3	45030.139	-53601.550	155.589	
24		2	剥片	黒色安山岩	1.6	2.3	0.5	1.6	45030.276	-53601.488	155.828	
25	第7図3	2	台形様石器	黒曜石	4.0	2.2	0.9	5.8	45030.987	-53601.532	155.466	
26		2	砕片	黒色安山岩	1.0	1.2	0.8	0.9	45029.533	-53601.392	155.713	
28		2	剥片	黒色安山岩	2.4	2.8	0.4	2.4	45030.102	-53600.490	155.696	
29		2	剥片	チャート	1.7	2.0	0.8	3.5	45030.272	-53600.533	155.589	
31		2	砕片	黒色安山岩	1.2	0.8	0.2	0.3	45029.333	-53600.039	155.742	
32		2	剥片	黒色安山岩	1.9	2.0	0.7	1.5	45028.935	-53598.936	155.510	
33	第7図1	2	ナイフ形石器	黒色頁岩	(1.4)	(1.2)	0.5	0.6	45029.642	-53598.343	155.639	先端部のみ
34	第7図5	2	剥片	頁岩	5.7	2.7	1.2	19.0	45027.684	-53595.795	155.306	
36		2	剥片	黒色安山岩	1.4	2.3	0.9	1.7	45027.107	-53594.409	155.666	
37		2	剥片	チャート	1.0	0.5	0.3	0.2	45026.719	-53593.190	155.274	
38		2	剥片	チャート	1.2	1.3	0.4	0.7	45027.105	-53593.255	155.289	
39	第8図13	2	石核	凝灰岩	4.1	4.0	3.3	31.5	45027.094	-53593.139	155.311	
40	第7図8	2	剥片	黒色頁岩	3.7	6.7	2.8	57.6	45026.149	-53592.239	155.201	
41		2	剥片	黒色頁岩	2.8	1.8	0.5	1.7	45026.427	-53591.403	155.450	
42		2	剥片	黒色頁岩	3.1	3.6	1.2	12.5	45026.763	-53591.542	155.236	
43		2	剥片	頁岩	5.3	3.4	1.2	16.8	45026.919	-53591.342	155.178	
44		2	剥片	黒色安山岩	1.4	1.1	0.4	0.5	45025.438	-53590.434	155.139	
45		2	剥片	頁岩	2.9	1.8	0.9	4.1	45025.542	-53589.257	155.035	
46		2	剥片	黒色安山岩	2.0	2.2	0.6	2.5	45026.676	-53590.130	155.134	
47		2	剥片	黒色安山岩	1.8	2.0	0.3	0.2	45027.436	-53591.383	155.174	
48		1	砕片	黒曜石	0.8	0.6	0.1	0.1	45033.312	-53612.178	155.853	
49	第12図接4	1	磨石	粗粒輝石安山岩	(5.4)	(3.9)	(2.8)	40.1	45032.867	-53609.822	155.618	4+16+49+51
50	第8図14	2	石核	黒色安山岩	5.5	4.5	2.0	46.4	45028.058	-53592.728	155.154	
51	第12図接4	1	磨石	粗粒輝石安山岩	7.3	4.7	2.5	85.7	45033.941	-53609.665	155.476	4+16+49+51
52		1	砕片	黒色安山岩	1.2	0.9	0.2	0.3	45034.964	-53613.635	155.669	
53		1	剥片	黒曜石	1.9	3.1	0.7	3.5	45035.014	-53612.765	155.565	
54	第11図接2-3	1	剥片	黒曜石	2.0	1.5	0.8	1.1	45034.312	-53611.745	155.617	
55	第10図接1-1	1	微細剥離痕ある剥片	黒曜石	4.2	5.0	1.6	24.6	45034.051	-53612.982	155.788	
56		1	剥片	黒曜石	1.4	1.6	0.4	0.6	45033.438	-53613.158	155.769	
57		1	砕片	黒曜石	0.5	1.1	0.2	0.1	45033.645	-53612.750	155.662	
58	第7図10	1	剥片	黒曜石	2.6	2.4	0.6	3.4	45033.702	-53612.508	155.680	
59		1	剥片	黒色安山岩	1.2	0.5	0.2	0.1	45033.757	-53611.323	155.595	
62		2	剥片	砂岩	1.3	0.5	0.3	0.2	45030.322	-53601.909	155.292	
63		2	剥片	黒色安山岩	4.0	2.0	0.8	6.4	45031.122	-53602.002	155.421	
64		2	剥片	黒色安山岩	1.7	2.1	0.4	1.3	45029.954	-53601.170	155.334	
65		2	剥片	黒色安山岩	3.4	2.1	0.7	5.9	45028.918	-53598.621	155.378	
67	第7図11	1	剥片	黒色頁岩	2.3	3.6	0.6	4.3	45032.799	-53609.466	155.550	
68		1	剥片	チャート	1.4	0.5	0.4	0.4	45032.494	-53609.552	155.569	
69		1	砕片	黒曜石	0.6	0.9	0.1	0.1	45033.278	-53610.128	155.572	
70		1	剥片	黒色頁岩	2.9	4.3	1.1	11.9	45033.527	-53610.239	155.524	
71		1	剥片	黒曜石	1.5	2.1	0.5	1.2	45033.267	-53611.442	155.650	
72		1	砕片	黒曜石	0.8	1.5	0.5	0.4	45033.851	-53610.694	155.501	
75	第11図接2-4	1	石核	黒曜石	4.0	2.4	2.9	16.2	45034.296	-53615.490	156.612	
76	第7図2	1	ナイフ形石器	黒曜石	(2.0)	(2.1)	0.5	1.9	45033.243	-53613.855	156.079	基部のみ
77		1	剥片	黒曜石	1.8	2.6	0.6	3.0	45033.946	-53615.250	156.040	
78		1	剥片	黒曜石	2.8	2.4	0.6	2.9	45034.216	-53614.502	156.052	
79		1	剥片	黒色安山岩	1.9	1.2	0.5	1.1	45034.359	-53614.443	156.016	
80		1	剥片	黒色安山岩	2.0	1.6	0.7	2.6	45034.530	-53615.228	156.018	
81	第7図4	1	二次加工ある剥片	黒色安山岩	4.2	5.5	1.6	27.5	45036.219	-53616.765	156.065	
82		1	剥片	黒色頁岩	2.2	1.4	1.0	2.4	45033.960	-53614.171	155.887	
84		1	剥片	黒色安山岩	5.1	4.8	1.2	24.5	45035.697	-53616.675	155.750	
86		2	剥片	黒色安山岩	5.2	5.7	1.7	30.6	45031.423	-53604.649	155.622	
87	第9図16	1	磨石	粗粒輝石安山岩	(4.1)	(2.6)	2.0	34.3	45032.419	-53607.208	155.236	
90		2	剥片	黒色安山岩	2.2	2.3	0.8	3.9	45028.509	-53598.157	155.721	
91	第10図接3-1	2	剥片	黒色安山岩	2.1	5.2	0.8	10.0	45028.695	-53598.226	155.404	
92		2	剥片	黒色安山岩	2.0	1.8	0.4	1.2	45028.089	-53597.516	155.438	
93	第10図接3-2	2	剥片	黒色安山岩	2.7	2.3	0.4	2.1	45028.002	-53597.605	155.441	
95		2	剥片	黒色安山岩	3.4	1.3	0.8	3.5	45029.236	-53596.928	155.638	
96		2	剥片	黒色安山岩	2.5	2.9	1.7	8.9	45029.120	-53596.147	155.400	
109		2	剥片	黒色安山岩	1.4	1.8	0.3	0.7	45024.774	-53589.007	155.053	
110		2	剥片	黒色安山岩	2.1	1.3	0.8	2.4	45025.394	-53589.190	155.240	
111		2	剥片	黒色安山岩	3.0	4.1	0.7	6.9	45025.794	-53588.943	154.952	
118	第9図17	外	砥石	粗粒輝石安山岩	20.0	11.4	8.5	1910.3	45021.369	-53579.486	154.185	上の標高154.274
119	第9図19	外	礫	粗粒輝石安山岩	11.4	9.4	6.3	530.3	45021.182	-53579.356	154.167	上の標高154.241
121	第9図18	外	礫	粗粒輝石安山岩	16.4	11.5	10.7	2203.7	45021.407	-53577.283	154.002	上の標高154.106
153	第9図12	外	剥片	チャート	2.4	3.1	0.5	3.5	45018.417	-53574.738	153.965	

## 第4章 上層(縄文時代・古墳時代)の調査

今回の発掘調査において検出された遺構は、竪穴建物1棟、方形周溝墓1基、溝2条、土坑1基である。各遺構の確認面は、基本土層IV層～V層である。その他、遺構外からも縄文土器片などが出土している。

遺構の時期については、竪穴建物が縄文時代前期、方形周溝墓が古墳時代前期であると考えられる。以下では、各遺構と遺物について説明する。

### 第1節 縄文時代

#### 1 竪穴建物

##### ・1号竪穴建物(第21図、PL. 2・1～5)

座標値X=45,020～45,025、Y=-53,579～-53,585の範囲に所在する。平面形状は東西軸に長方形を呈する。方位はN-43°-Wである。遺構範囲の一部は調査区外に及んでいる。東壁の一部が事前の確認調査時に削平されている。規模(長軸×短軸×深さ(m))は4.79×(2.93)×0.96である。床面積は8.88㎡である。焼土が集中して検出された箇所が認められるが、炉は検出されていない。

ピットが3基検出されている。ピットの規模(長軸×短軸×深さ(m))は

P1 0.33×0.3×0.7

P2 0.36×0.29×0.13

P3 0.31×0.26×0.21

である。

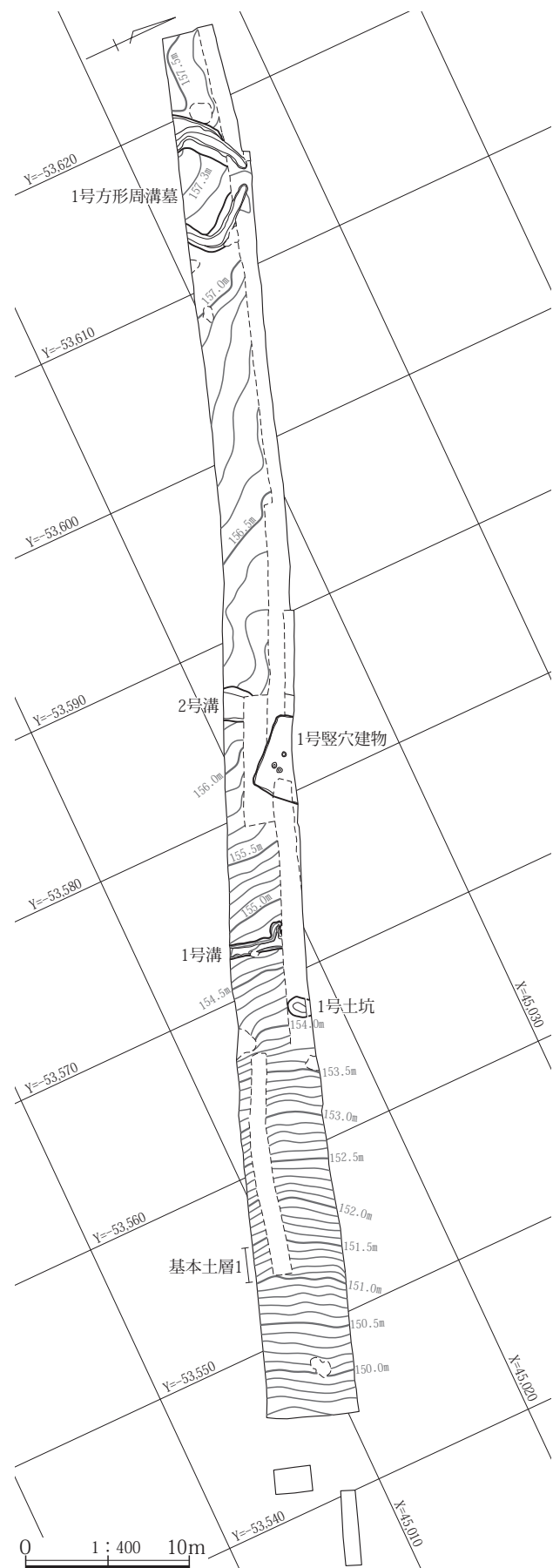
1号竪穴建物からは縄文土器片と石器が出土している。出土した縄文土器片は、前期の諸磯a式と黒浜式の深鉢である。また、石器は溶結凝灰岩製の礫が1点、黒色頁岩製の剥片が1点出土している。

縄文時代前期の遺構であると考えられる。

#### 2 遺構外遺物

遺構外からはIV層を中心に縄文土器片が19点検出されており、うち18点を第22図に示している。縄文土器片の時期は、前期の諸磯a・b式、有尾式が主体である。

また、表土からIV層にかけて石器が検出されている。主な石器は、ホルンフェルス製の打製石斧3点、剥片6



第20図 調査区全体図

点、二次加工ある剥片2点、石皿1点である。

## 第2節 古墳時代

### 1 方形周溝墓

#### ・1号方形周溝墓(第22図、PL. 1・3～5)

座標値X=45,031～45,037、Y=-53,611～-53,621の範囲に所在する。遺構範囲の一部は調査区外に及んでいる。方台部と周溝の一部が事前の確認調査時に削平されている。また、周溝の一部は植栽の影響によって、縁辺が破壊されている。

全体像は不明だが、方台部の隅が対角線上に2か所検出されており、正方形に近い平面形状であると推定される。正確な大きさも不明であるが、方台部の幅は1辺がおよそ4.2mであると推定される。主体部は検出されていない。

周溝は上端幅0.89m、下端幅0.22～0.55m、深さ0.03～0.6mである。1か所の隅に掘り残し部が認められる。周溝の掘込の傾斜は、外側と比べて方台部側の方が緩やかになっている。

遺物は周溝の底部から壺が1点出土している。その他、周溝から甕の土師器片が20点出土している。

古墳時代前期の遺構であると考えられる。

### 2 その他

調査区のトレンチ内や表採資料として甕の土師器片が12点、坏・埴の須恵器片が1点出土している。

## 第3節 その他

### 1 溝

#### ・1号溝(第23図、PL. 2)

座標値X=45,015～45,019、Y=-53,571～-53,574の範囲に所在する。遺構範囲の一部は調査区外に及んでいる。事前の確認調査時に一部が削平されている。

上端幅0.74～0.81m、下端幅0.28～0.42m、深さ0.3mである。走行方向はN-13°-Eである。遺物の共伴はない。

#### ・2号溝(第23図、PL. 2)

座標値X=45,020～45,023、Y=-56,585～-56,588の範囲に所在する。遺構範囲の一部は調査区外に及んでいる。事前の確認調査時に一部が削平されている。

上端幅2.8m、下端幅1.7m、深さ0.6mである。走行方向はN-46°-Eである。遺物の共伴はない。

### 2 土坑

#### ・1号土坑(第23図、PL. 2)

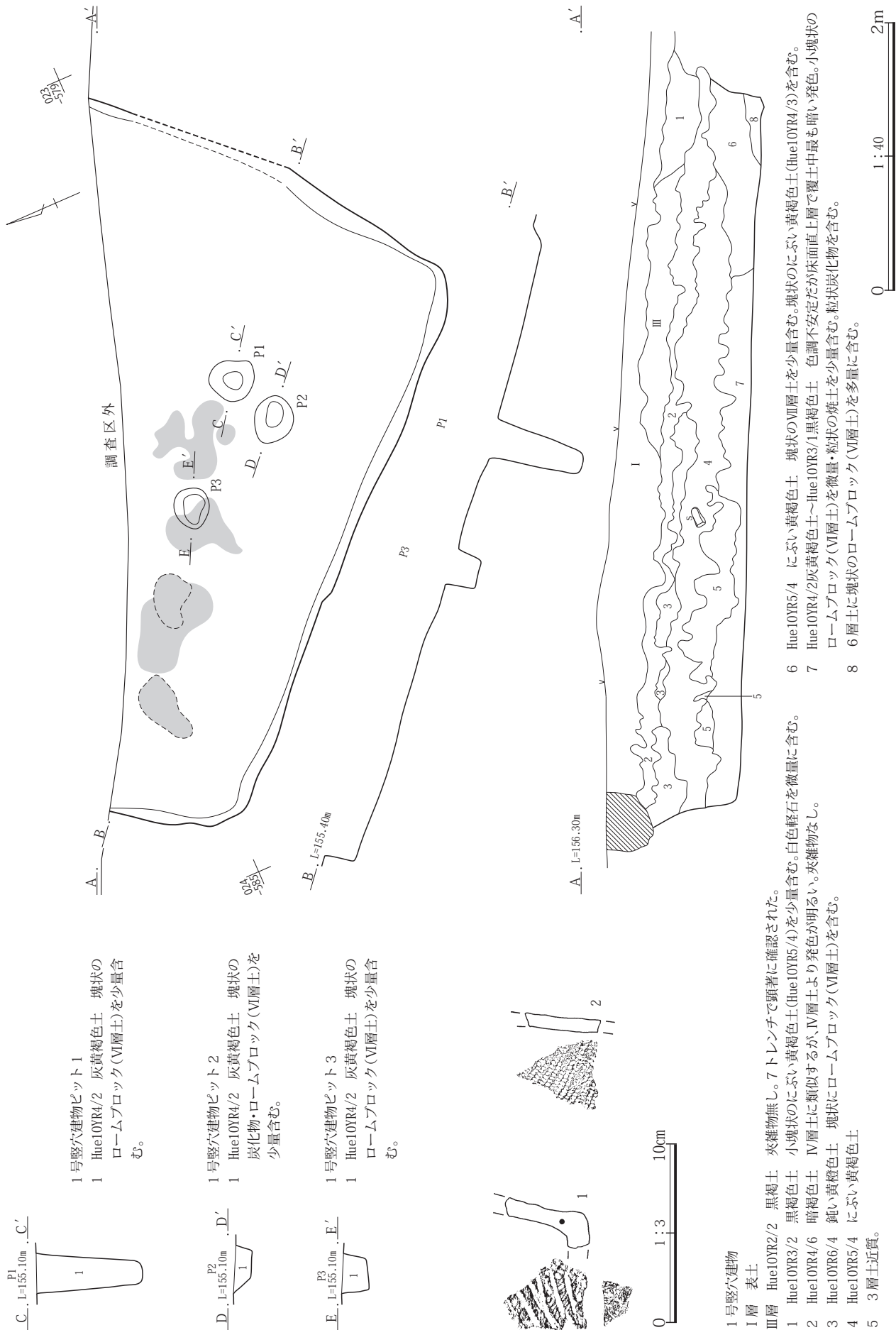
座標値X=45,019、Y=-56,068に所在する。遺構範囲の一部は調査区外に及んでいる。

平面形態は楕円形を呈する。長軸1.44m、短軸1.14m、深さ0.6mである。遺物の共伴はない。

第4表 1号竪穴建物遺物観察表

挿 図 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残存率	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第21図 PL. 9	1	縄文土器 深鉢	底部破片	A	附加条第1種LR+R・R縄文を横位に施文。内面被熱風化。	黒浜式
第21図 PL. 9	2	縄文土器 深鉢	胴部破片	B	RL縄文を横位・多段に施文。内面被熱風化・剥離。	諸磯a式





第21図 1号竪穴建物

1号竪穴建物ピット1  
 1 Hue10YR4/2 灰黄褐色土 塊状の  
 ロームブロック(VI層土)を少量含  
 む。

1号竪穴建物ピット2  
 1 Hue10YR4/2 灰黄褐色土 塊状の  
 炭化物・ロームブロック(VI層土)を  
 少量含む。

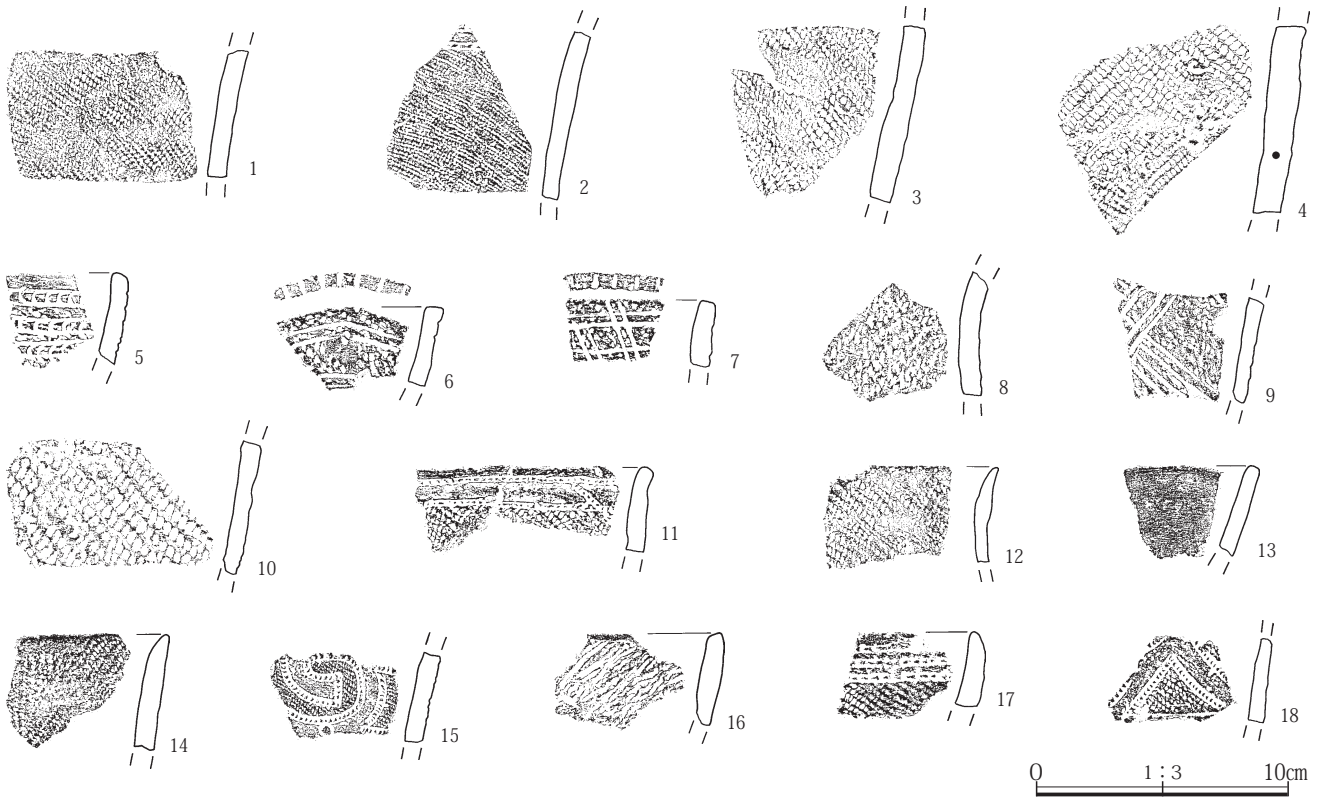
1号竪穴建物ピット3  
 1 Hue10YR4/2 灰黄褐色土 塊状の  
 ロームブロック(VI層土)を少量含  
 む。

1号竪穴建物  
 I層 表土  
 III層 Hue10YR2/2 黒褐色土 夾雑物無し。7トレンチで顕著に確認された。  
 1 Hue10YR3/2 黒褐色土 小塊状にぶい、黄褐色土(Hue10YR5/4)を少量含む。白色軽石を微量に含む。  
 2 Hue10YR4/6 暗褐色土 IV層土に類似するが、IV層土より発色が明るい。夾雑物なし。  
 3 Hue10YR6/4 鈍い黄褐色土 塊状にロームブロック(VI層土)を含む。  
 4 Hue10YR5/4 にぶい黄褐色土  
 5 3層土近質。

6 Hue10YR5/4 にぶい、黄褐色土 塊状のVII層土を少量含む。塊状のにぶい黄褐色土(Hue10YR4/3)を含む。  
 7 Hue10YR4/2灰黄褐色土~Hue10YR3/1黒褐色土 色調不安定だが床面直上層で覆土中最も暗い発色。小塊状の  
 ロームブロック(VI層土)を微量・粒状の焼土を少量含む。粒状炭化物を含む。  
 8 6層土に塊状のロームブロック(VI層土)を多量に含む。

0 1:40 2m

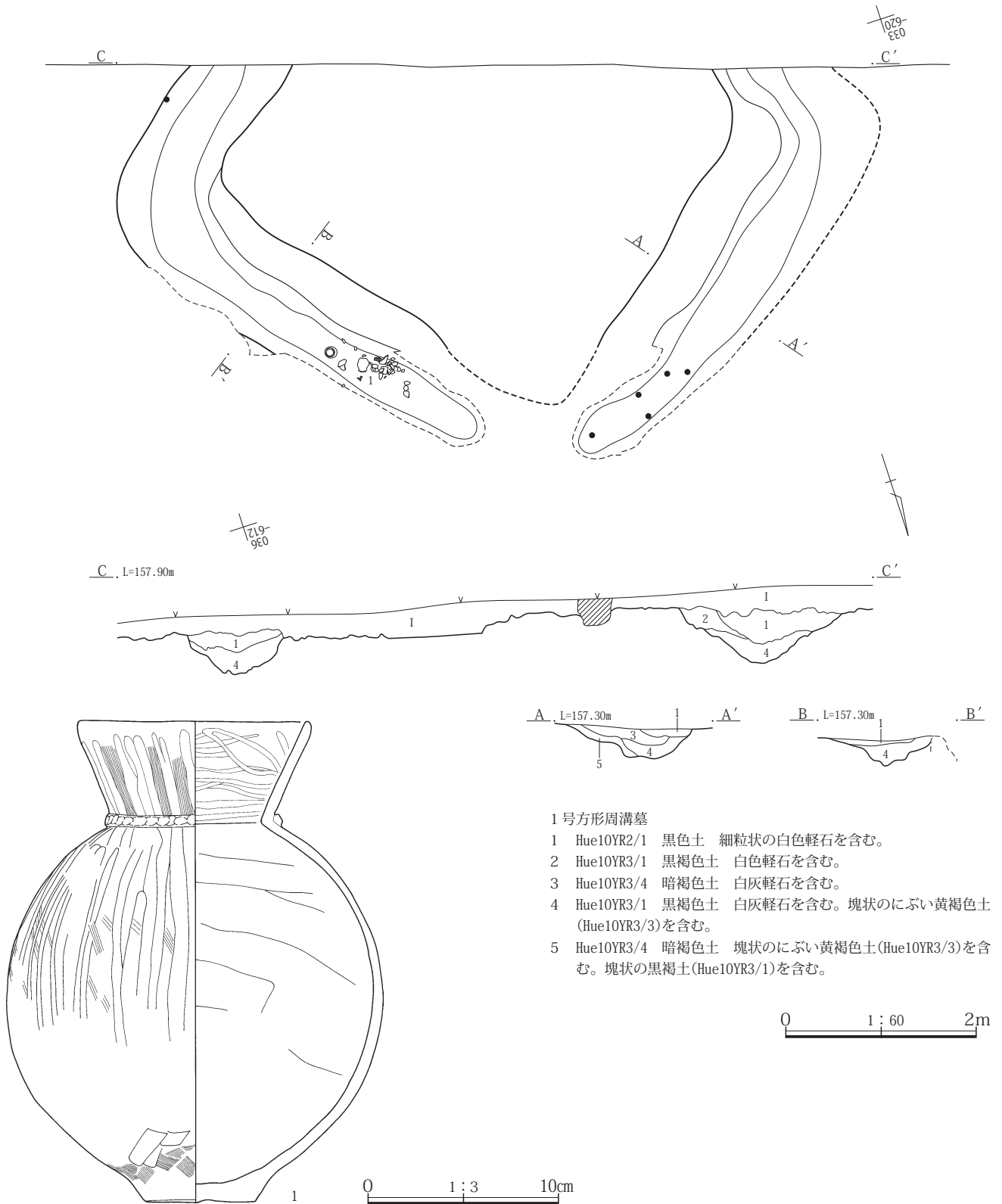
第4章 上層(縄文時代・古墳時代)の調査



第22図 遺構外出土遺物

第5表 遺構外出土遺物観察表

挿 図 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残存率	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第22図 PL. 9	1	縄文土器 深鉢	胴部破片	B	RL縄文を横位・多段に施文。内面縦位磨き・やや被熱風化。	諸磯 a 式
第22図 PL. 9	2	縄文土器 深鉢	胴部破片	H	やや細かなRL縄文を横位・多段に施文。内面丁寧な横位磨き、外面一部に煤状炭化物付着。	諸磯 a 式
第22図 PL. 9	3	縄文土器 深鉢	胴部破片	I	RL縄文を横位・多段に施文。内面横位磨き、外面一部に煤状炭化物付着。	諸磯 b 式
第22図 PL. 9	4	縄文土器 深鉢	胴部破片	A	0段多条のRL・LR縄文を横位・交互に多段施文して菱形意匠を構成。内面やや被熱風化。	有尾式
第22図 PL. 9	5	縄文土器 深鉢	口縁部破片	H	口縁部に半截竹管状具の爪形文を複数条施す。内面丁寧な横位磨き。	諸磯 b 式
第22図 PL. 9	6	縄文土器 深鉢	口縁部破片	I	波状口縁。口唇部上面に篋状具の刻み目を施す。口縁部にRL縄文を横位施文し、半截竹管状具の平行沈線文を横位に施す。内面横位磨き。	諸磯 b 式
第22図 PL. 9	7	縄文土器 深鉢	口縁部破片	I	口唇部上面に篋状具の刻み目を施す。口縁部にRL縄文を横位施文し、半截竹管状具の平行沈線文を横・斜位に施す。内面やや被熱風化。	諸磯 b 式
第22図 PL. 9	8	縄文土器 深鉢	胴部破片	C	やや粗雑なRL縄文を横位・多段に施文。内面横位磨き。	諸磯 b 式
第22図 PL. 9	9	縄文土器 深鉢	胴部破片	F	RL縄文を横位・多段に施文し、半截竹管状具の平行沈線文を斜格子状に施す。外面煤状炭化物付着、内面被熱風化。	諸磯 b 式
第22図 PL. 9	10	縄文土器 深鉢	胴部破片	B	やや粗大なRL縄文を横位・多段に施文。外面一部に煤状炭化物付着、内面被熱風化・一部剥離。	諸磯 b 式
第22図 PL. 9	11	縄文土器 深鉢	口縁部破片	B	口縁部に細い半截竹管状具の爪形文を横位施文し、下位にRL縄文を横位に施す。内面横位磨き。	諸磯 a 式
第22図 PL. 9	12	縄文土器 深鉢	口縁部破片	I	外面全体にRL縄文を横位・多段に施文か。内外面共にやや被熱風化・一部剥離。	諸磯 a 式
第22図 PL. 9	13	縄文土器 浅鉢	口縁部破片	D	内外面共に丁寧な横位磨き。	諸磯 a 式
第22図 PL. 9	14	縄文土器 深鉢	口縁部破片	F	外面全体にLR縄文を横位・多段に施文か。内外面共にやや被熱風化。	諸磯 a 式
第22図 PL. 9	15	縄文土器 深鉢	胴部破片	F	細い半截竹管状具の爪形文による渦巻状の区画文内に細かなRL縄文を充填施文。下位に円形竹管文を施す。内面丁寧な横位磨き。	諸磯 a 式
第22図 PL. 9	16	縄文土器 深鉢	口縁部破片	G	外面全体に撚りの粗雑なL縄文を横位・多段に施文。内面被熱風化。	諸磯 a 式
第22図 PL. 9	17	縄文土器 深鉢	口縁部破片	J	口縁部に細い半截竹管状具の爪形文を横位施文し、下位にRL縄文を横位に施す。内外面共にやや被熱風化。	諸磯 a 式
第22図 PL. 9	18	縄文土器 深鉢	胴部破片	E	細い半截竹管状具の爪形文による区画文内にRL縄文を充填施文。内面横位磨き。	諸磯 a 式



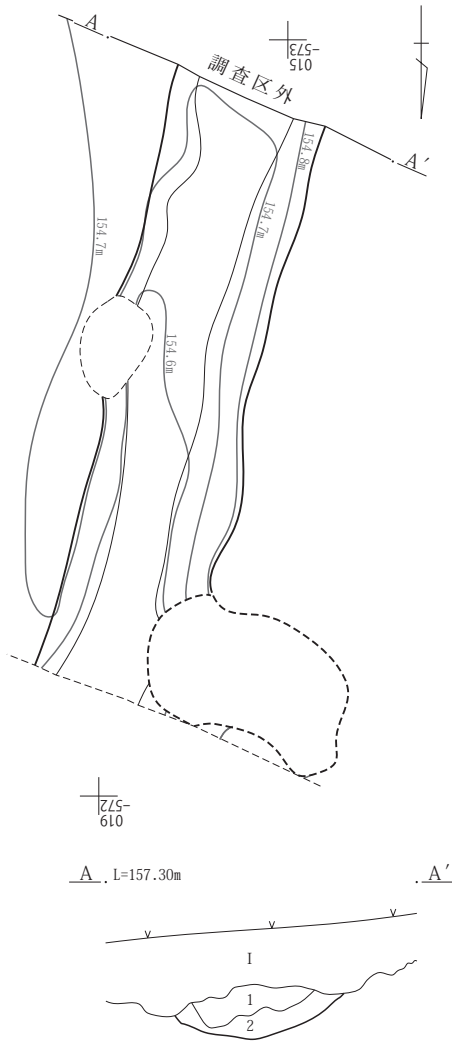
第23図 1号方形周溝墓

第6表 1号方形周溝墓遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高				
第23図 PL.9	1	土師器 壺	体部1/3欠	11.8 5.8	25.0		細砂、粗砂微量/ 橙/	外面は細かいハケ目の後、体部下半を横位ナデ。口縁部外面から体部上半を縦位ヘラミガキ。ヘラミガキ間にハケ目残る。頸部外面に突帯貼付。口縁部内面は横位ヘラミガキ。体部内面は幅広の横位ナデ。体部内面下位の器表は剥離。	

第4章 上層(縄文時代・古墳時代)の調査

1号溝

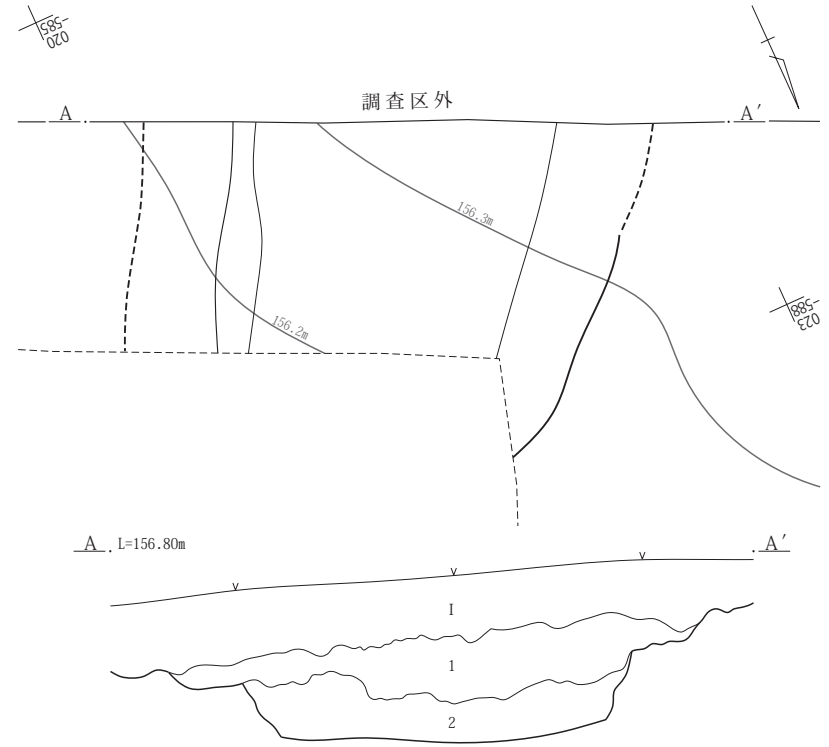


1号溝

I 表土

- 1 Hue10YR3/1 黒褐色土 小塊状の鈍黄橙土(Hue10YR6/3)を含む。灰白色土(Hue 7.5 YR8/1)軽石を微量に含む。
- 2 Hue10YR6/3 鈍黄橙土 塊状の黒褐色土(Hue10YR3/1)を少量含む。塊状の鈍黄橙土(Hue10YR6/4)を含む。

2号溝

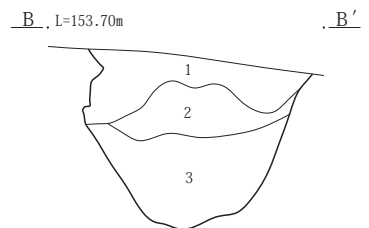
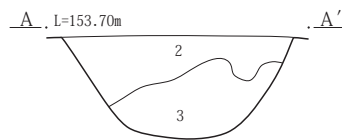
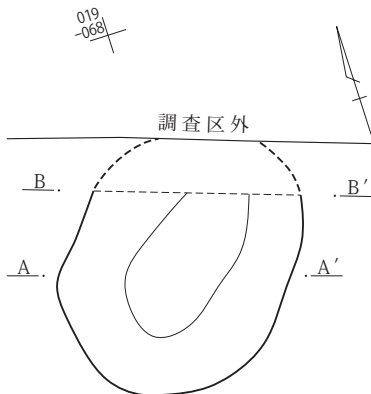


2号溝

I 表土

- 1 Hue10YR4/6 暗褐色土 基本土層IV層土に類似するが、より発色が明るい。夾雑物なし。
- 2 Hue10YR5/4 にぶい黄褐色土

1号土坑



1号土坑

- 1 Hue7.5YR7/8 黄橙色土 ローム土質。
- 2 Hue7.5YR4/1褐灰色土とHue7.5YR7/8黄橙色土の混土。
- 3 Hue7.5YR4/1褐灰色土と塊状のV層土・塊状のロームブロック(VI層土)の混土。全体にローム土質で、夾雑物は見られない。



第24図 1号溝・2号溝・1号土坑

## 第5章 自然科学分析

### 1 はじめに

桐生市新里町野地内に所在する武井峯岸V遺跡では、旧石器時代の石器が85点ほど出土しており、うち28点は黒曜石製であった。ここでは、19点の黒曜石製石器について、エネルギー分散型蛍光X線分析装置による元素分析を行い、産地を推定した。なお、各接合資料から分析試料を1点抽出しているため、出土した黒曜石の全点の原産地を把握することが可能となっている。

### 2 試料と方法

分析対象試料は、武井峯岸V遺跡より出土した黒曜石製石器19点である(第7表)。時期は、旧石器時代とみられている。試料は、測定前にメラミンフォーム製スポンジと精製水を用いて、測定面の表面の洗浄を行った。

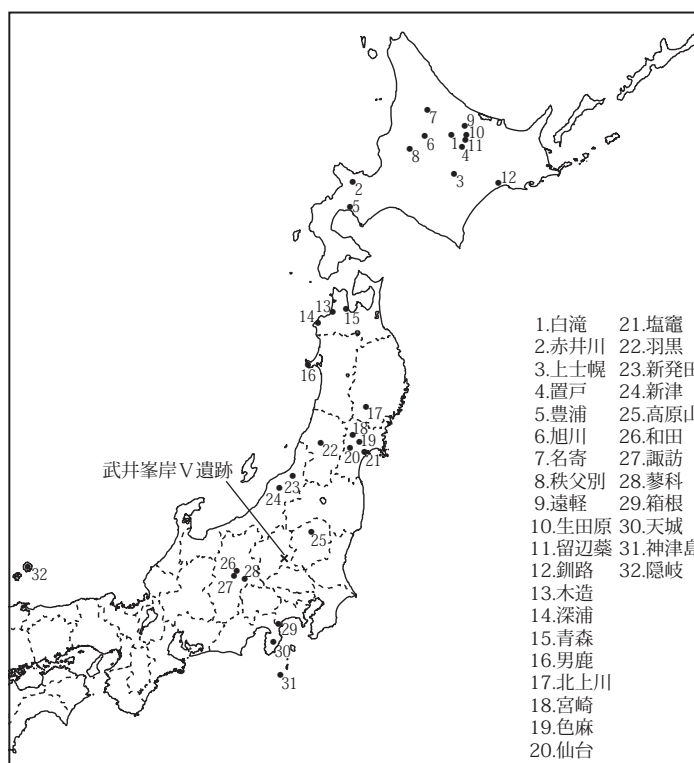
分析装置は、エスアイアイ・ナノテクノロジー株式会社製のエネルギー分散型蛍光X線分析計SEA1200VXを使用した。装置の仕様は、X線管ターゲットはロジウム(Rh)、X線検出器はSDD検出器である。測定条件は、測定時間100sec、照射径8mm、電圧50kV、電流1000 $\mu$ A、試料室内雰囲気は真空に設定し、一次フィルタにPb測定用を用いた。

黒曜石の産地推定には、蛍光X線分析によるX線強度を用いた黒曜石産地推定法である判別図法を用いた(望月, 1999など)。本方法では、まず各試料を蛍光X線分析装置で測定し、その測定結果のうち、カリウム(K)、マンガン(Mn)、鉄(Fe)、ルビジウム(Rb)、ストロンチウム(Sr)、イットリウム(Y)、ジルコニウム(Zr)の合計7元素のX線強度(cps; count per second)について、以下に示す指標値を計算する。

- 1)  $Rb\text{分率} = Rb\text{強度} \times 100 / (Rb\text{強度} + Sr\text{強度} + Y\text{強度} + Zr\text{強度})$
- 2)  $Sr\text{分率} = Sr\text{強度} \times 100 / (Rb\text{強度} + Sr\text{強度} + Y\text{強度} + Zr\text{強度})$
- 3)  $Mn\text{強度} \times 100 / Fe\text{強度}$

第7表 分析対象一覧

分析No.	遺物番号	器種	石器集中部	その他
1	6	剥片	1号	
2	7	剥片	1号	
3	10	剥片	1号	
4	11	剥片	1号	接合資料2
5	13	碎片	1号	
6	14	剥片	1号	
7	25	台形様石器	2号	
8	48	碎片	1号	
9	53	剥片	1号	
10	55	微細剥離痕ある剥片	1号	接合資料1
11	56	剥片	1号	
12	57	碎片	1号	
13	58	剥片	1号	
14	69	碎片	1号	
15	71	剥片	1号	
16	72	碎片	1号	
17	76	ナイフ形石器	1号	
18	77	剥片	1号	
19	78	剥片	1号	



第25図 黒曜石産地分布図(東日本)

4) log (Fe強度/K強度)

次に、これらの指標値を用いた2つの判別図(横軸Rb分率—縦軸Mn強度×100/Fe強度の判別図と横軸Sr分率—縦軸log (Fe強度/K強度)の判別図)を作成し、各地の原石データと遺跡出土物のデータを照合して、産地を推定する。この方法は、できる限り蛍光X線のエネルギー差が小さい元素同士を組み合わせて指標値を算出するため、形状、厚み等の影響を比較的受けにくく、原則として非破壊分析が望ましい考古遺物の測定に対して、非常に有効な方法であるといえる。ただし、風化試料の場合は、log (Fe強度/K強度)の値が減少する点に注意が必要である(望月, 1999)。試料の測定面には、なるべく平滑な面を選んだ。

原石試料は、採取原石を割って新鮮な面を露出させた上で、産地推定対象試料と同様の条件で測定した。第8表に判別群一覧とそれぞれの原石の採取地点および点数を、第25図に各原石の採取地の分布図を示す。

3 分析結果

第9表に石器の測定値および算出した指標値を、第26図と第27図には黒曜石原石の判別図に石器の指標値をプロットした図を示す。視覚的にわかりやすくするため、図では各判別群を楕円で取り囲んである。

分析の結果、1点が西餅屋群(長野県、和田エリア)と鷹山群(長野県、和田エリア)の重複域、2点が西餅屋群と鷹山群と小深沢群(長野県、和田エリア)の重複域、1点が鷹山群、14点が鷹山群と小深沢群の重複域、1点が古峠群(長野県、和田エリア)の範囲にプロットされた。第9表に、判別図法により推定された判別群名とエリア名を示す。19点すべてが信州の和田エリア産であった。

4 おわりに

武井峯岸V遺跡より出土した旧石器時代の黒曜石製石器19点について、蛍光X線分析による産地推定を行った結果、19点いずれも和田エリア産の黒曜石と推定された。

引用文献

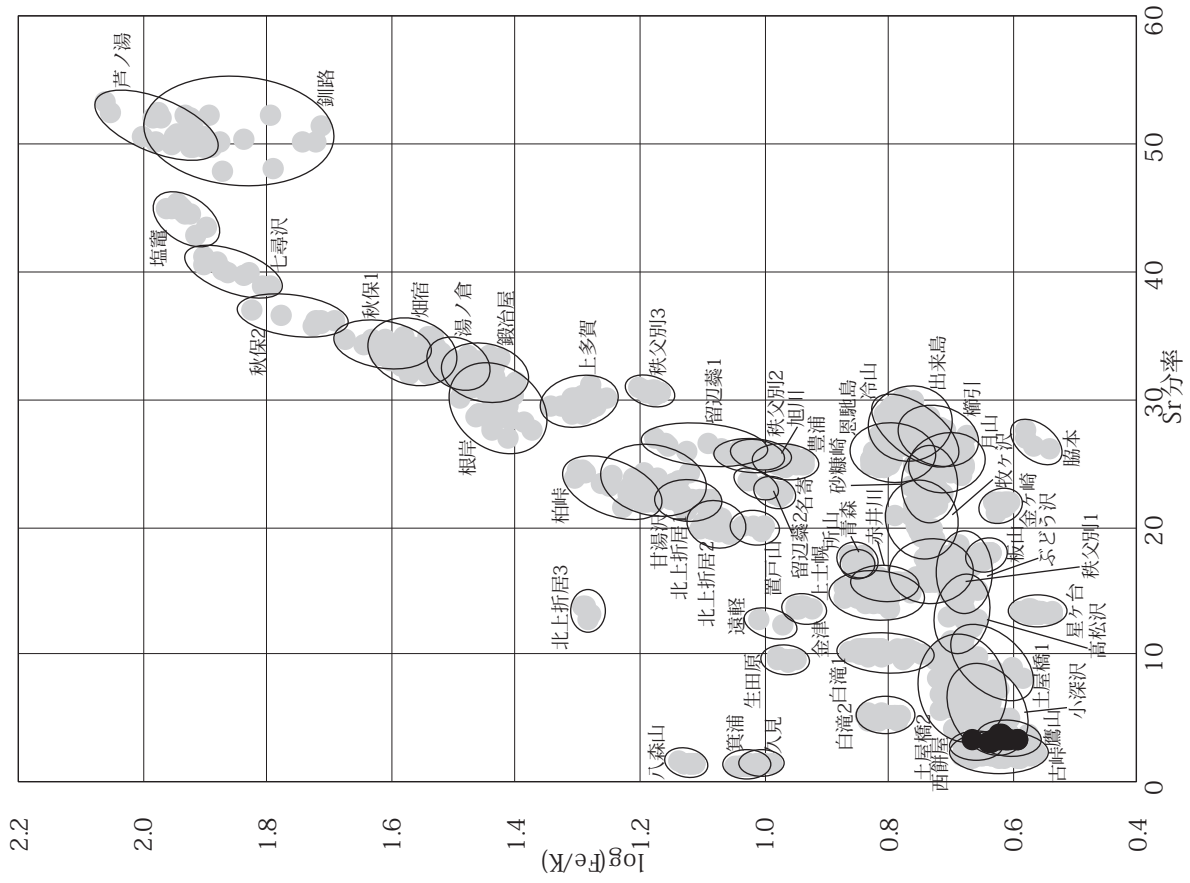
望月明彦(1999)上和田城山遺跡出土の黒曜石産地推定. 大和市教育委員会編「埋蔵文化財の保管と活用のための基礎的整理報告書2—上和田城山遺跡篇—」: 172-179, 大和市教育委員会.

第8表 東日本黒曜石産地の判別群

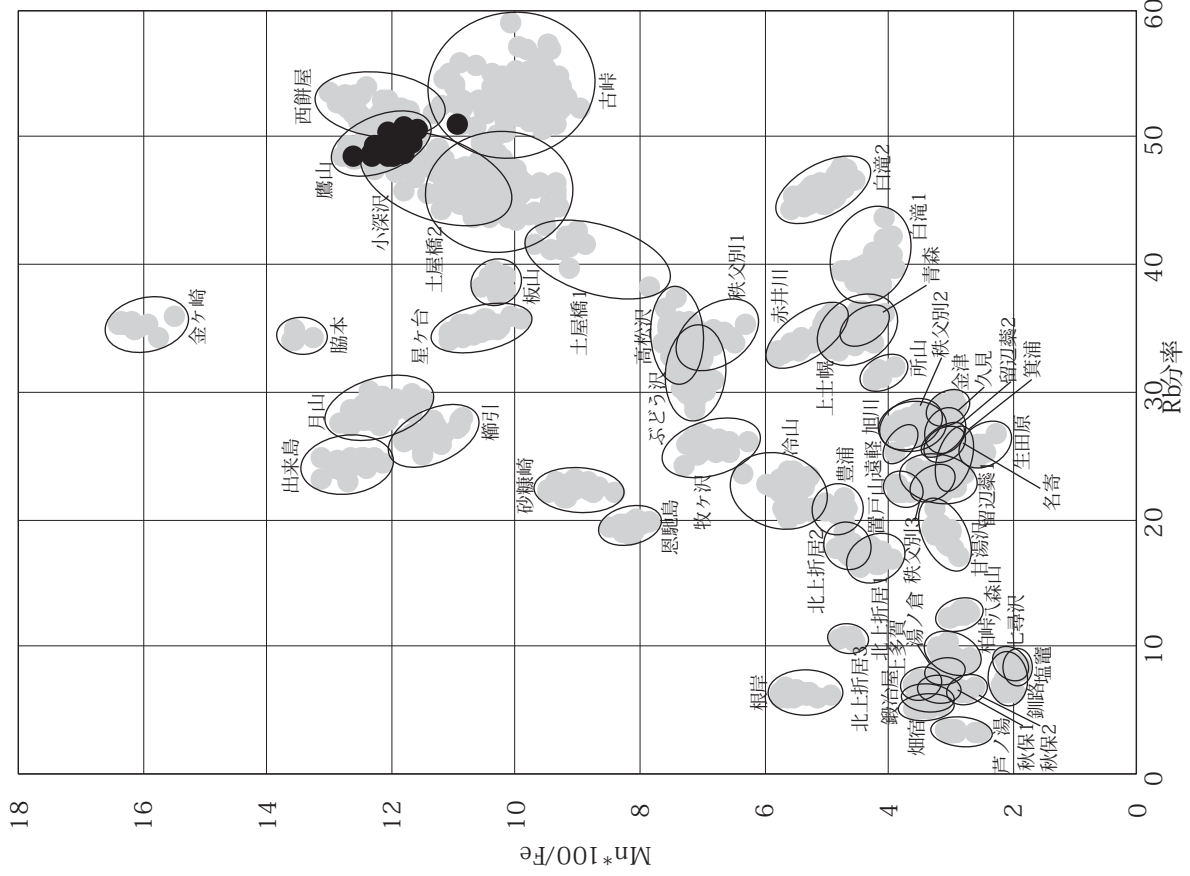
都道府県	エリア	判別群名	原石採取地
北海道	白滝	白滝 1	赤石山山頂(43), 八号沢露頭(15)
		白滝 2	7の沢川支流(2), IK露頭(10), 十勝石沢露頭直下河床(11), アジサイの滝露頭(10)
	赤井川	赤井川	曲川・土木川(24)
	上士幌	上士幌	十勝三股(4), タウシュベツ川右岸(42), タウシュベツ川左岸(10), 十三ノ沢(32)
	置戸	置戸山	置戸山(5)
		所山	所山(5)
	豊浦	豊浦	豊泉(10)
	旭川	旭川	近文台(8), 雨紛台(2)
	名寄	名寄	忠烈布川(19)
	秩父別	秩父別 1	中山(65)
		秩父別 2	
		秩父別 3	
	遠軽	遠軽	社名淵川河床(2)
	生田原	生田原	仁田布川河床(10)
留辺蘂	留辺蘂 1	ケショマップ川河床(9)	
	留辺蘂 2		
釧路	釧路	釧路市営スキー場(9), 阿寒川右岸(2), 阿寒川左岸(6)	
青森	木造	出来島	出来島海岸(15), 鶴ヶ坂(10)
	深浦	八森山	岡崎浜(7), 八森山公園(8)
	青森	青森	天田内川(6)
秋田	男鹿	金ヶ崎	金ヶ崎温泉(10)
		脇本	脇本海岸(4)
岩手	北上川	北上折居 1	北上川(9), 真城(33)
		北上折居 2	
		北上折居 3	
宮城	宮崎	湯ノ倉	湯ノ倉(40)
	色麻	根岸	根岸(40)
	仙台	秋保 1	土蔵(18)
		秋保 2	
塩竈	塩竈	塩竈(10)	
山形	羽黒	月山	月山荘前(24), 大越沢(10)
		楡引	たらのき代(19)
新潟	新発田	板山	板山牧場(10)
	新津	金津	金津(7)
栃木	高原山	甘湯沢	甘湯沢(22)
		七尋沢	七尋沢(3), 宮川(3), 枝持沢(3)
長野	和田	西餅屋	芙蓉パーライト土砂集積場(30)
		鷹山	鷹山(14), 東餅屋(54)
		小深沢	小深沢(42)
		土屋橋 1	土屋橋西(10)
		土屋橋 2	新和田トンネル北(20), 土屋橋北西(58), 土屋橋西(1)
		古峠	和田峠トンネル上(28), 古峠(38), 和田峠スキー場(28)
		ブドウ沢	ブドウ沢(20)
		牧ヶ沢	牧ヶ沢下(20)
		高松沢	高松沢(19)
		諏訪	星ヶ台
蓼科	冷山	冷山(20), 麦草峠(20), 麦草峠東(20)	
神奈川	箱根	芦ノ湯	芦ノ湯(20)
		畑宿	畑宿(51)
		鍛冶屋	鍛冶屋(20)
静岡	天城	上多賀	上多賀(20)
		柏峠	柏峠(20)
東京	神津島	恩馳島	恩馳島(27)
		砂糠崎	砂糠崎(20)
島根	隠岐	久見	久見パーライト中(6), 久見採掘現場(5)
		箕浦	箕浦海岸(3), 加茂(4), 岸浜(3)

第9表 測定値および産地推定結果

分析 No.	K強度 (cps)	Mn強度 (cps)	Fe強度 (cps)	Rb強度 (cps)	Sr強度 (cps)	Y強度 (cps)	Zr強度 (cps)	Rb分率	Mn*100 Fe	Sr分率	log $\frac{Fe}{K}$	判別群	エリア	遺物番号
1	299.7	155.0	1286.2	1532.3	98.0	618.9	796.3	50.31	12.05	3.22	0.63	西餅屋or 鷹山or 小深沢	和田	6
2	299.5	148.8	1219.7	1515.2	100.2	639.6	831.9	49.08	12.20	3.25	0.61	鷹山or 小深沢	和田	7
3	237.4	118.5	984.2	1154.1	88.0	487.8	653.5	48.42	12.04	3.69	0.62	鷹山or 小深沢	和田	10
4	303.2	153.8	1252.5	1495.4	103.8	617.0	811.4	49.39	12.28	3.43	0.62	鷹山or 小深沢	和田	11
5	112.9	57.3	465.6	540.6	39.2	228.1	305.3	48.56	12.31	3.52	0.62	鷹山or 小深沢	和田	13
6	147.7	73.2	619.9	718.5	50.9	306.4	400.6	48.66	11.81	3.45	0.62	鷹山or 小深沢	和田	14
7	317.6	159.7	1368.8	1589.9	102.1	668.5	853.3	49.47	11.67	3.18	0.63	鷹山or 小深沢	和田	25
8	124.6	63.6	538.5	527.3	31.1	205.0	274.0	50.83	11.81	3.00	0.64	西餅屋or 鷹山	和田	48
9	299.9	151.2	1261.5	1463.0	110.7	611.4	833.9	48.46	11.99	3.67	0.62	鷹山or 小深沢	和田	53
10	283.9	140.9	1115.4	1409.6	93.2	601.7	800.4	48.53	12.63	3.21	0.59	鷹山	和田	55
11	288.9	148.2	1228.6	1516.2	102.2	637.3	859.8	48.67	12.07	3.28	0.63	鷹山or 小深沢	和田	56
12	145.9	74.0	638.2	699.8	41.7	278.2	365.4	50.53	11.59	3.01	0.64	西餅屋or 鷹山or 小深沢	和田	57
13	235.3	116.8	948.1	1173.7	78.0	500.3	654.2	48.78	12.32	3.24	0.61	鷹山or 小深沢	和田	58
14	123.9	62.7	573.5	527.8	34.5	208.1	263.5	51.05	10.93	3.34	0.67	古峠	和田	69
15	205.8	102.9	863.7	1061.8	68.6	440.0	572.0	49.56	11.92	3.20	0.62	鷹山or 小深沢	和田	71
16	142.6	67.1	559.9	680.3	46.6	288.6	380.8	48.72	11.98	3.34	0.59	鷹山or 小深沢	和田	72
17	331.8	164.6	1349.0	1628.5	109.3	677.1	886.3	49.33	12.20	3.31	0.61	鷹山or 小深沢	和田	76
18	317.7	157.1	1302.6	1526.2	102.3	636.9	831.1	49.29	12.06	3.30	0.61	鷹山or 小深沢	和田	77
19	321.1	160.2	1349.3	1554.7	106.3	647.3	869.6	48.92	11.87	3.35	0.62	鷹山or 小深沢	和田	78



第27図 黒曜石産地推定判別図(2)



第26図 黒曜石産地推定判別図(1)



## 第6章 まとめ

### 第1節 下層(後期旧石器時代)の成果について

今回の調査では、AT下暗色帯を中心に、石器・礫が85点検出された。これらの石器の多くは平面分布からみて2つのまとまりに大別することが可能であったことから、2箇所の石器集中部として報告した。

調査区が狭小であることから、これらの石器集中部の分布や組成には不明瞭な点が多いものの、その帰属時期などについて検討する。

まず、今回の調査で検出された石器のうち、最も特徴的なのは、台形様石器Ⅱ類(佐藤 1988)、いわゆる「ペン先形ナイフ形石器」(奥村 1987)の存在である。この調査で出土した台形様石器は先端部の尖る素材を縦位に用いる点、基部側の両側縁を平坦調整によって加工する点からみても、典型的な類のものであると捉えられる。

関東平野北西域では暗色帯中の石器群を層位的に区分することは甚だ困難である(関口・早田・下岡 2011)。武蔵野台地を中心とする南関東地方との対比の中で、後期旧石器時代前半期における北関東地方の台形様石器の特徴は、Ⅱ類の特殊化の変遷過程にあるとされた(佐藤 1988・1992)。その後、後田遺跡に認められるようなⅦ層上部段階になると、後田型台形様石器と呼称されるような、ナイフ形石器との技術的親和性を高度に発達させた台形様石器の最終形態が現れる(佐藤 前掲)。

同じ峯岸山に展開する武井遺跡(杉原 1977、加部・小菅 1995、加部 1998)や、周辺地域である十二社遺跡(加部・大工原 1992)、峯岸山遺跡Ⅴ(勢藤 2009)でもAT下から石器群が検出されている。武井遺跡のうち、寄居地区で検出された武井Ⅰ石器文化(杉原 1977)には対比が可能であると考えられるが、武井遺跡の内出東地区や峯岸地区(加部・小菅 1995、加部 1998)、十二社遺跡の石器群は環状ブロック群を構成する、局部磨製石斧を伴うといった、より古相の特徴を有し、台形様石器Ⅱ類に該当するものが認められない。また、峯岸山遺跡Ⅴに認められる黒色頁岩製の石刃を中心とした石器群は、大上遺跡第3文化層(群馬県埋蔵文化財調査事業団 2008)など

の前半期の中でもより新相に近い石器群と対比が可能であると考えられることから、やはり武井峯岸Ⅴ遺跡と同時期として捉えることは困難である。

関東平野北西域で類例として認められるのは、藪塚遺跡(杉原 1955)、分郷八崎遺跡(北橋村教育委員会 1986)等が代表的である。

これらのことから、武井峯岸Ⅴ遺跡において検出された石器群の帰属時期は、前半期の中でもⅨ層段階に属し、Ⅶ層上部段階よりも古く、Ⅸ層下部段階より新相にちかい、Ⅸ層上部～Ⅶ層下部段階に帰属する可能性が高い。

赤城山南麓の流れ山である多田山丘陵上に展開する今井三騎堂遺跡(群馬県埋蔵文化財調査事業団 2004)、今井見切塚遺跡(同左 2007)でも、後期旧石器時代前半期から後半期の細石刃石器群まで、複数時期に及んで石器群が検出されている。

これらのことを踏まえると、峯岸山の丘陵上についても、多田山丘陵と同様に、後期旧石器時代の石器群が複数時期に渡って展開していると推定される。

### 第2節 上層(縄文時代・古墳時代)の成果について

今回の調査によってローム層より上層からは、縄文時代前期の竪穴建物1棟、古墳時代前期の方形周溝墓1基が検出された。本書第2章第2節で既に述べたとおり、峯岸山に展開する遺跡である峯岸遺跡(新里村教育委員会 1985)、峯岸山遺跡(同左 1975a・b)などで、これらの遺構と同時期の遺構・遺物が既に検出されている。

縄文時代前期の遺構・遺物については、峯岸山では土器片等の遺物は出土していたものの、竪穴建物等の遺構は検出されていなかった。そのため、今回の調査で竪穴建物が検出されたことから、峯岸山にも当該期の集落跡が存在する可能性が生じたといえる。

古墳時代前期の方形周溝墓は、峯岸山遺跡と峯岸遺跡でそれぞれ検出されている。これらの遺跡は武井峯岸Ⅴ遺跡に対して西側と北側に隣接している。そのため、峯岸山遺跡と峯山遺跡で確認された当該期の墓域が、本遺

## 第6章 まとめ

跡まで広がることが、今回の調査によって確認された。

峯岸山遺跡と峯岸遺跡では、同時期の集落跡も方形周溝墓と近接して検出されている。峯岸山は古墳時代前期以降、主に墓域として利用されるため、集落跡は峯岸山の周辺の台地上に分化する。武井峯岸V遺跡、峯岸山遺跡、峯岸遺跡に展開する集落跡と墓域は、古墳時代の峯岸山における、土地利用の分化が始まる前の段階の集落跡の在り方を示しているといえる。

### 引用文献

- 奥村吉信 1997 「東日本のペン先形ナイフ形石器を伴う石器群」『旧石器考古学』35 pp27-36 旧石器文化談話会
- 加部二生 1998 「武井遺跡の調査概要—新里村教育委員会の調査を中心として—」『武井遺跡と北関東の槍先形石器文化 予稿集』pp19-26 岩宿フォーラム実行委員会
- 加部二生・小菅将夫 1995 「武井遺跡」『第2回石器文化研究交流会』pp4-10 石器文化研究会
- 佐藤宏之 1988 「台形様石器序説」『考古学雑誌』73-3 pp1-37 日本考古学会
- 佐藤宏之 1992 『日本旧石器文化の構造と進化』柏書房
- 杉原荘介 1955 「群馬県新田郡藪塚遺跡」『日本考古学協会年報』3 pp27-29 日本考古学協会
- 杉原荘介 1977 『群馬県武井における二つの石器文化』臨川書店
- 関口博幸・早田勉・下岡順直 2011 「群馬の旧石器編年のための基礎的研究—関東地方報西部における石器群の出土層位、テフラ層序、数値年代の整理と検討—」『研究紀要』29 pp1-20 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2004 『今井三騎堂遺跡』
- 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2007 『今井見切塚遺跡』
- 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2008 『大上遺跡』
- 新里村教育委員会 1975 a 『峯岸山遺跡発掘調査報告(第一次)』
- 新里村教育委員会 1975 b 『峯岸山遺跡発掘調査報告(第二次)』
- 新里村教育委員会 1985 『峯岸遺跡—里棲み集落の発掘調査』
- 北橋村教育委員会 1986 『分郷八崎遺跡』

# 写真図版





1. 調査区調査前風景(東から)



2. 調査区遠景(東から)



3. 1号方形周溝墓全景(東から)



4. 1号方形周溝墓遺物出土状況(東から)



5. 1号方形周溝墓遺物出土状況(北から)



1. 1号竪穴建物全景(北西から)



2. 1号竪穴建物全景(南東から)



3. 1号竪穴建物1号ピット全景(北から)



4. 1号竪穴建物2号ピット全景(西から)



5. 1号竪穴建物3号ピット全景(西から)



6. 1号溝全景(北東から)



7. 2号溝全景(北東から)



8. 1号土坑全景(南から)



1. 旧石器調査区全景(東から)



2. 旧石器調査区完掘状況(西から)



1. 旧石器調査区全景(西から)



2. 旧石器調査区基本土層(北から)



3. 1号石器集中部出土状況(東から)



4. 1号石器集中部出土状況(北から)



5. 2号石器集中部出土状況(東から)



6. 2号石器集中部出土状況(北東から)





1. 2号石器集中部出土状況(東から)



2. 2号石器集中部出土状況(北から)



3. 1号石器集中部No.55(南から)



4. 1号石器集中部No.80(北から)



5. 1号石器集中部No.75(北から)



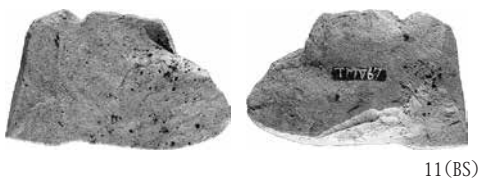
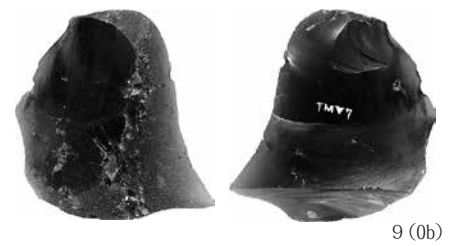
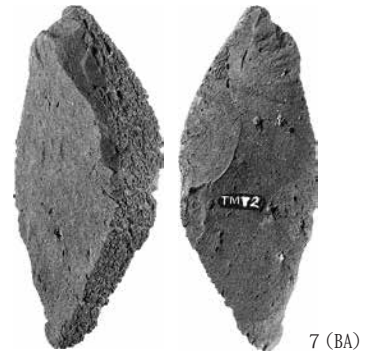
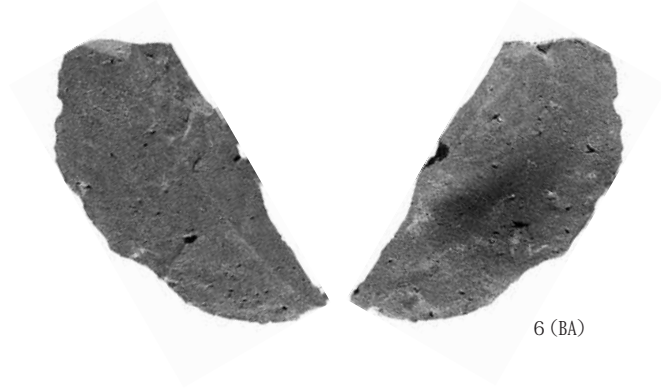
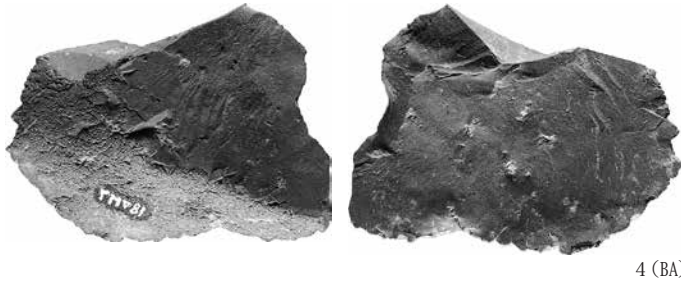
6. 1号石器集中部No.76(北から)

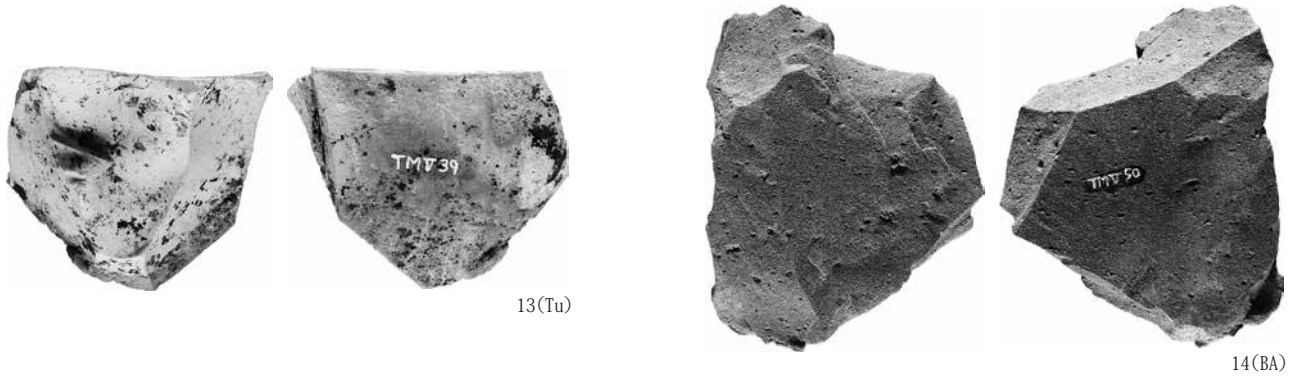


7. 1号石器集中部No.78(北から)



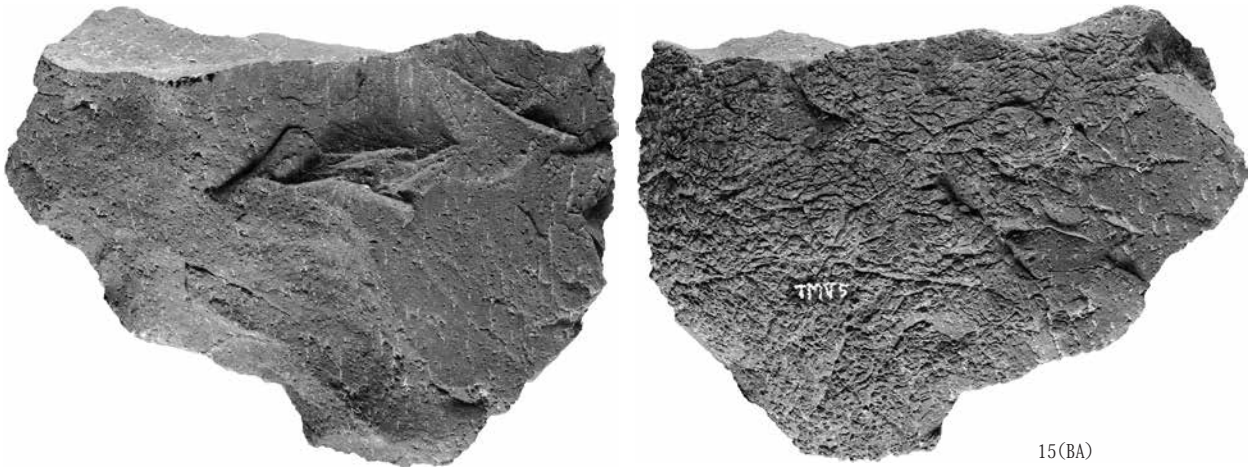
8. 1号石器集中部No.77(北から)



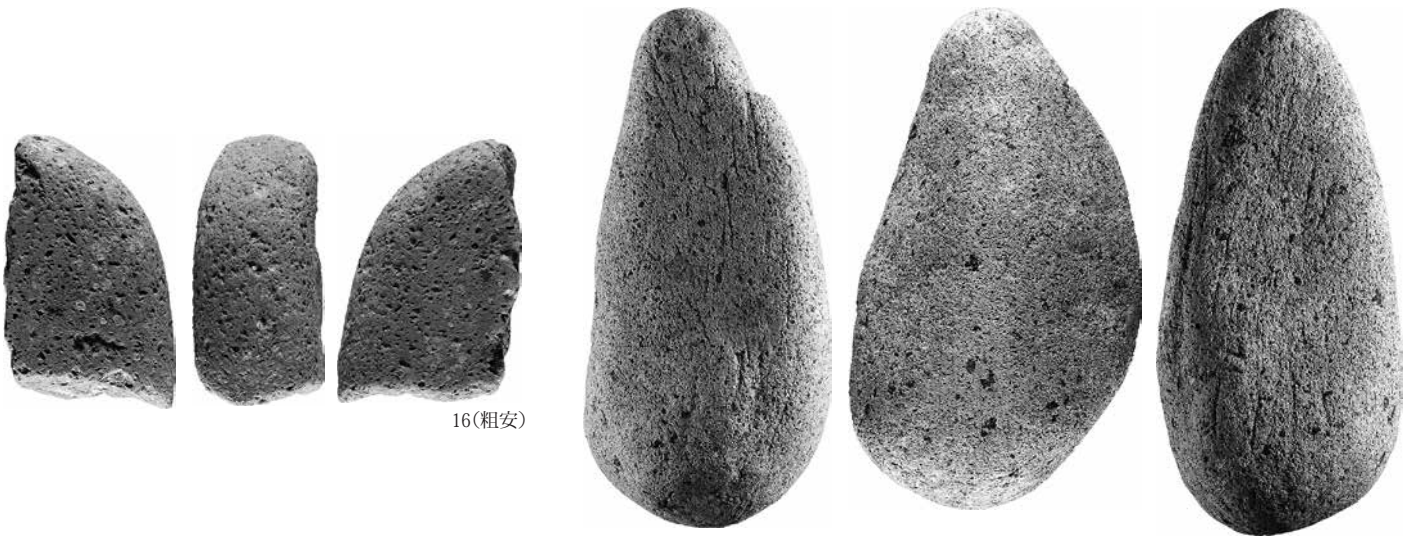


13(Tu)

14(BA)

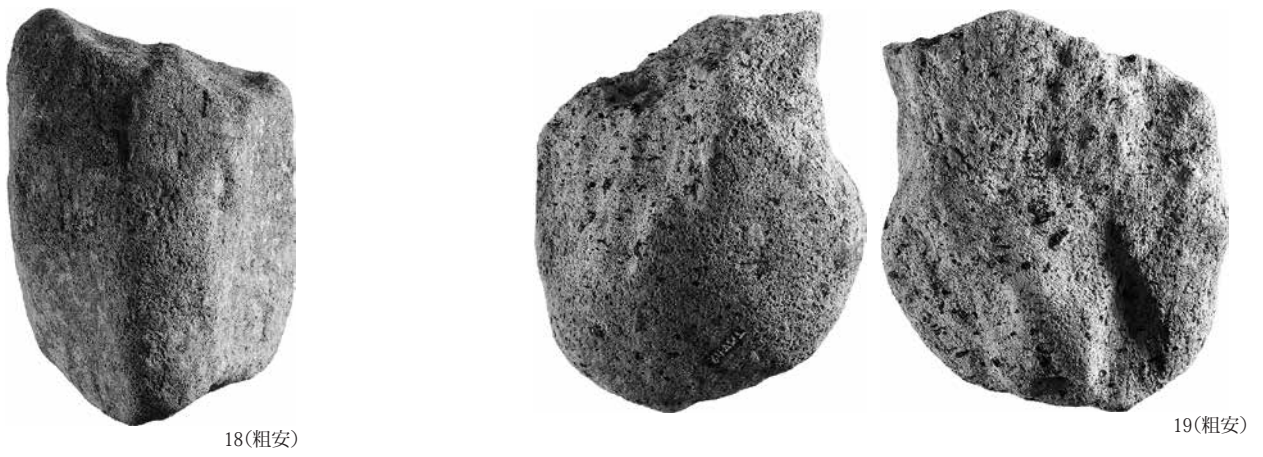


15(BA)



16(粗安)

17(粗安)

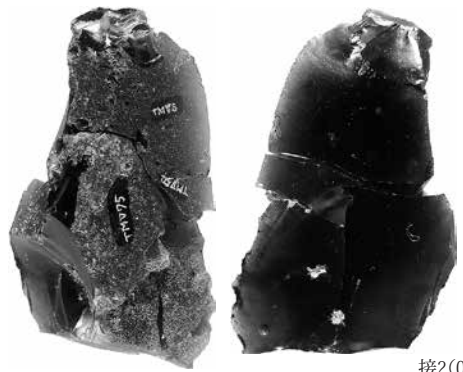


18(粗安)

19(粗安)



接1(0b)



接2(0b)



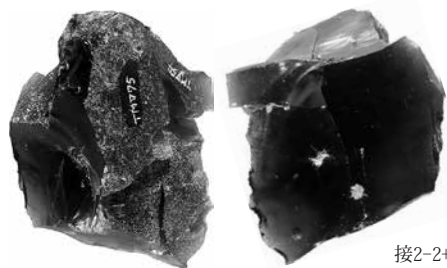
接1-1



接2-1



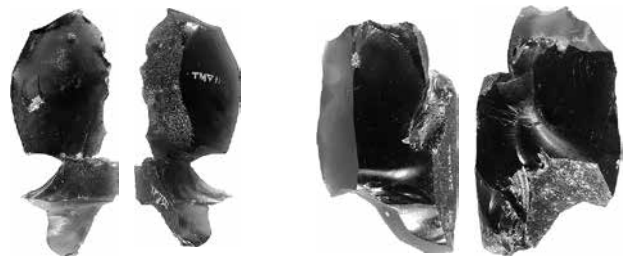
接1-2



接2-2+3+4

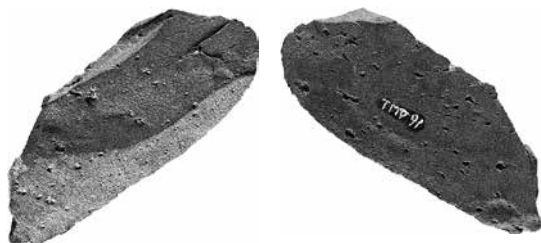


接3(BA)

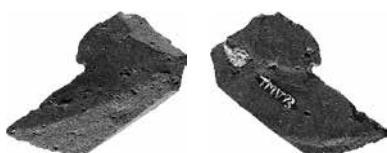


接2-2+3

接2-4



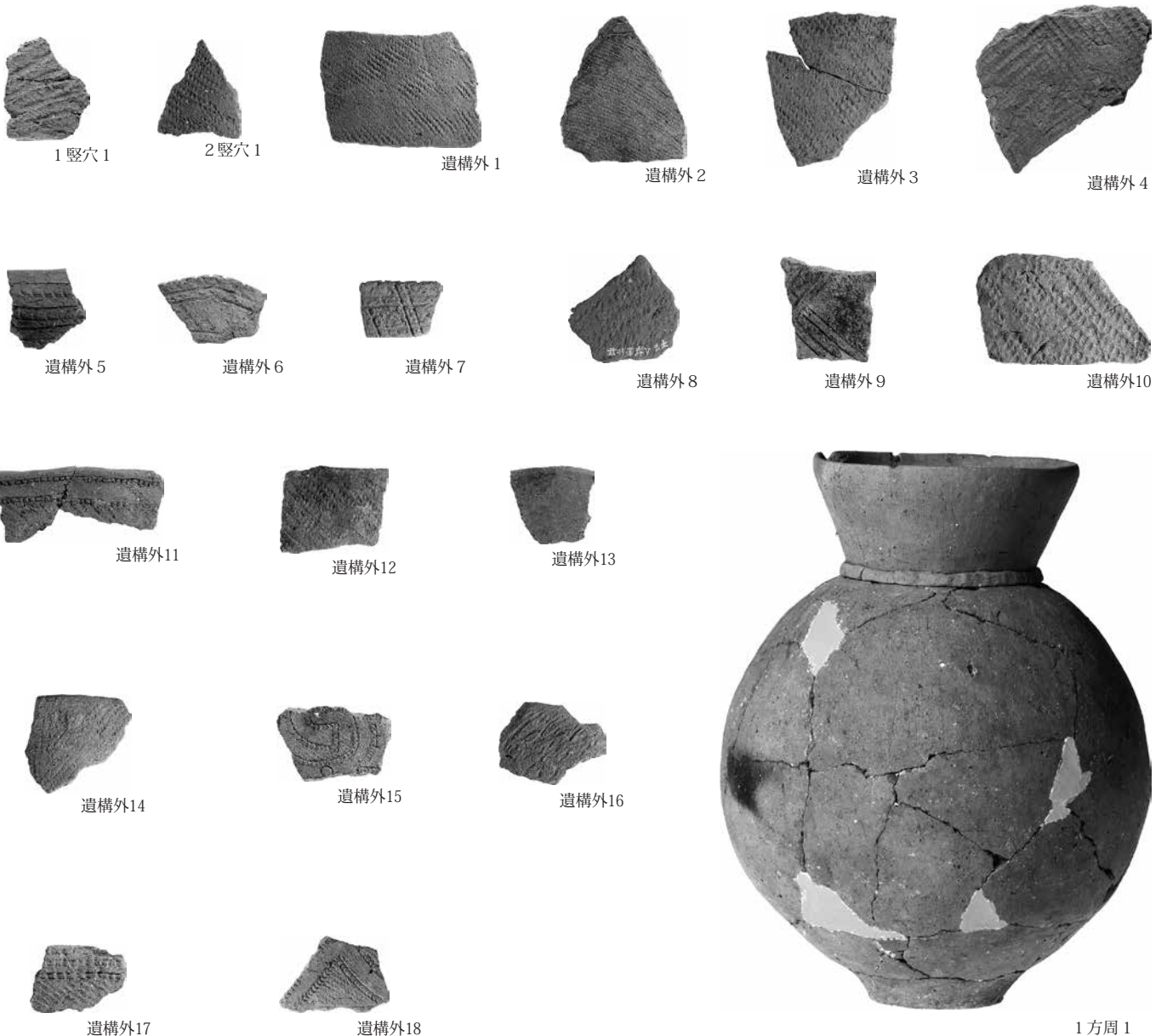
接3-1



接3-2



旧石器 接4(粗安)



1 竖穴1

2 竖穴1

遺構外1

遺構外2

遺構外3

遺構外4

遺構外5

遺構外6

遺構外7

遺構外8

遺構外9

遺構外10

遺構外11

遺構外12

遺構外13

遺構外14

遺構外15

遺構外16

遺構外17

遺構外18



1方周1

旧石器(4)、1号・2号竖穴建物、遺構外、1号方形周溝墓出土遺物

# 報告書抄録

書名ふりがな	たけいみねぎしごいせき
書名	武井峯岸V遺跡
副書名	一般県道笠懸赤堀今井線社会資本総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	—
シリーズ名	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	649
編著者名	小原俊行
編集機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20190228
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北橘町下箱田784-2
遺跡名ふりがな	たけいみねぎしごいせき
遺跡名	武井峯岸V遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんきりゅうしにいさとまちの
遺跡所在地	群馬県桐生市新里町野
市町村コード	10203
遺跡番号	B0176
北緯(世界測地系)	362415
東経(世界測地系)	1391409
調査期間	20161201—20170131
調査面積	636
調査原因	道路拡幅
種別	石器集中部/集落/墳墓
主な時代	旧石器/縄文/古墳
遺跡概要	旧石器—石器集中部2—石器+礫/集落—縄文—竪穴建物1—土器+石器/墳墓—古墳—方形周溝墓1—土器/その他—時期不明—溝1—土坑1
特記事項	—
要約	後期旧石器時代前半期の石器集中部が2箇所検出された。縄文時代前期の竪穴建物が1棟、古墳時代前期の方形周溝墓が1基検出された。

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第649集

## 武井峯岸V遺跡

一般県道笠懸赤堀今井線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

---

平成31(2019)年2月14日 印刷

平成31(2019)年2月28日 発行

編集・発行／公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2

電話(0279)52-2511(代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷／松本印刷工業株式会社

---





